

令和4年度調布市民福祉ニーズ調査

アンケート調査結果報告書

(速報版・抜粋)

令和5年1月

調布市

目次

第1章 調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の実施概要	1
3 調査結果の読み方	3
第2章 市民（18歳以上）調査結果（略）	
第3章 高齢者（65歳以上）調査結果（略）	
第4章 障害者（18歳以上）調査結果	4
1 あなた（ご本人）についておたずねします	5
2 相談支援についておたずねします	13
3 市民同士の支え合いについておたずねします	18
4 災害時の対策についておたずねします	21
5 暮らしについておたずねします	23
6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします	36
7 デジタルの活用についておたずねします	48
8 調布市の障害者福祉施策についておたずねします	52
9 主に本人の介助や支援をしているご家族におたずねします	57
第5章 障害児（18歳未満）の保護者調査結果	61
1 保護者（調査に回答していただく人）についておたずねします	61
2 保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします	66
3 保護者の方に、相談支援についておたずねします	86
4 保護者の方に、市民同士の支え合いについておたずねします	92
5 保護者の方に、災害時の対策についておたずねします	94
6 保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします	96
7 保護者の方に、デジタルの活用についておたずねします	107
8 保護者の方に、調布市の障害者福祉施策についておたずねします	110
第6章 テーマと考察（略）	
（参考）調査票（略）	

第1章 調査概要

1 調査の目的

本調査は、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを一層進めるための計画として、令和5年度に「地域福祉計画」「高齢者総合計画」「障害者総合計画」を策定するにあたり、市民の皆さまのご意見を把握して施策・事業に反映することを目的に実施した。

2 調査の実施概要

(1) 調査方法

- 調査票の郵送配付
- 調査票による郵送回答／専用ウェブサイトからのインターネット回答（回答者が選択）
- 督促礼状を対象者全員に送付

(2) 調査期間

令和4年10月13日（木）～ 令和4年10月31日（月）

(3) 調査地域

市全域

図表 市内の福祉圏域区分

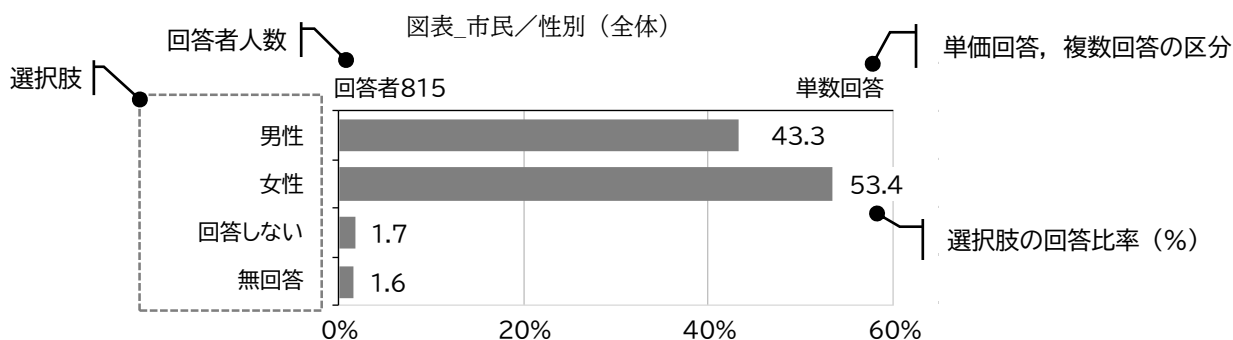
福祉圏域名 (小学校区)	福祉圏域に属する地区		
緑ヶ丘・滝坂	東つつじヶ丘1丁目, 2丁目 西つつじヶ丘1丁目, 2丁目, 3丁目	緑ヶ丘 若葉町1丁目	仙川町
若葉・調和	東つつじヶ丘3丁目 西つつじヶ丘4丁目	菊野台 若葉町2丁目, 3丁目	入間町
上ノ原・柏野	佐須町1丁目, 2丁目, 4丁目, 5丁目 深大寺南町1丁目, 2丁目, 3丁目	調布ヶ丘3丁目 深大寺東町3丁目, 4丁目	柴崎
北ノ台・深大寺	深大寺東町1丁目, 2丁目, 5丁目, 6丁目, 7丁目, 8丁目 深大寺元町2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目		深大寺北町 深大寺南町4丁目, 5丁目
第二・八雲台・国領	国領町1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目, 8丁目 布田2丁目, 3丁目	調布ヶ丘2丁目	佐須町3丁目 八雲台
染地・杉森・布田	国領町6丁目, 7丁目 多摩川6丁目, 7丁目	布田5丁目, 6丁目 染地	
第一・富士見台・多摩川	多摩川1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目 布田1丁目, 4丁目	調布ヶ丘1丁目, 4丁目 深大寺元町1丁目	下石原1丁目 小島町
第三・石原・飛田給	上石原 下石原2丁目, 3丁目	富士見町 飛田給	西町 野水

(4) 調査の対象者・人数・回答数

調査名	対象	配付数	回答数	回答率	
			(うち、インターネット)		
誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18歳以上の市民（市内在住）	2,000人	815人 (213)	40.8% (26.1)	
高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	65歳以上の市民（市内在住）	2,000人	1,203人 (72)	60.2% (6.0)	
障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18歳以上の障害者手帳や特定医療費（指定難病）受給者証所持者	①身体障害者手帳所持者（64歳以下）	400人	213人 (55)	53.3% (25.8)
		②身体障害者手帳所持者（65歳以上）	400人	237人 (8)	59.3% (3.4)
		③愛の手帳所持者	300人	182人 (14)	60.7% (7.7)
		④精神障害者保健福祉手帳所持者	400人	177人 (49)	44.3% (27.7)
		⑤難病患者	300人	172人 (29)	57.3% (16.9)
子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18歳未満の障害者手帳や児童福祉通所受給者証所持者の保護者	200人	130人 (40)	65.0% (30.8)	
合計		6,000人	3,129人 (480)	52.2% (8.0)	

3 調査結果の読み方

- 図表は、当該設問の回答者における各選択肢の回答比率（百分率＝％）を示している。
- 回答者は、構成比算出の母数（人数）を示しています。なお、回答者を限定する設問（前問に答えた人のみが回答する等）は限定後の母数が「回答者」となる。
- 集計結果（本文及び図表の数値）は小数第2位以下を四捨五入し、小数第1位で示している。数値を四捨五入しているため、選択肢比率の合計が100%にならない場合や複数回答の設問で選択肢比率の合計が100%を超える場合がある。
- 集計結果の「0.0」は、四捨五入の結果の数値、または、回答がないことを示している。
- 回答者属性別集計（クロス集計）は「無回答」を非表示にしている。そのため、回答者と属性別人数の合計が異なる場合や、属性別人数の数値合計が100%にならない場合がある。
- 回答者の少ないデータ（回答者属性別の回答結果等）は統計的誤差が大きくなるため、数値の取り扱いに注意が必要である。
- 語句が長い選択肢等は、本文及び図表で簡略表記している場合がある。
- 図表の見方は下記の通り。



図表_市民/性別 (年齢別, 福祉圏域別, 近所付き合い別)

選択肢の回答比率 (%)

		男性	女性	回答しない	無回答	
属性区分	全体	(N=815)	43.3	53.4	1.7	1.6
	属性名称	10歳代	(n=9)	66.7	22.2	11.1
20歳代		(n=44)	45.5	52.3	2.3	0.0
30歳代		(n=115)	40.0	57.4	2.6	0.0
40歳代		(n=138)	42.0	56.5	1.4	0.0
50歳代		(n=167)	40.7	56.9	2.4	0.0
60歳代		(n=136)	48.5	48.5	2.2	0.7
70歳代		(n=117)	51.3	48.7	0.0	0.0
80歳以上		(n=78)	37.2	61.5	0.0	1.3

属性ごとの回答者人数

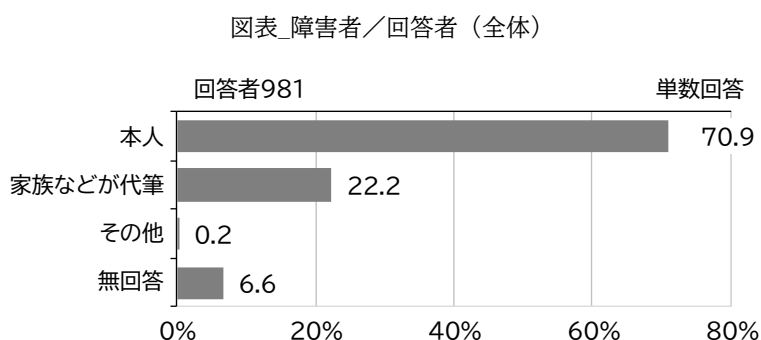
属性ごとの第1位に網掛

第4章 障害者（18歳以上）調査結果

【調査名】障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

問1 この調査に回答していただく人を教えてください。（1つに○）

- 回答者は、「本人（代筆可）（70.9%）」が最も多く、「家族などが代筆（22.2%）」が続いている。



【回答者属性分析】

- 回答者の割合を本人の障害等別にみると、身体障害（64歳以下）は「本人（代筆可）（73.7%）」、身体障害（65歳以上）は「本人（代筆可）（71.7%）」、精神障害は「本人（代筆可）（81.4%）」、難病は「本人（代筆可）（87.8%）」が最も多くなっている。
- 知的障害は「家族などが代筆（52.2%）」が最も多くなっている。

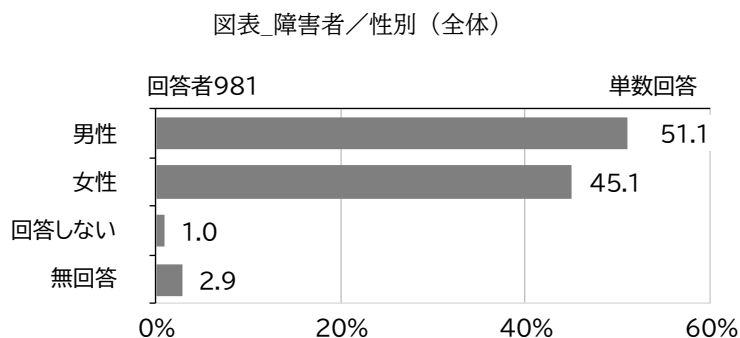
図表_障害者／回答者（障害別）

	本人	家族などが代筆	その他	無回答
全体（N=981）	70.9	22.2	0.2	6.6
身体障害（64歳以下） （n=213）	73.7	20.2	-	6.1
身体障害（65歳以上） （n=237）	71.7	21.1	-	7.2
知的障害（n=182）	40.7	52.2	1.1	6.0
精神障害（n=177）	81.4	10.2	-	8.5
難病（n=172）	87.8	7.0	-	5.2

1 あなた（ご本人）についておたずねします

問2 性別を教えてください。（1つに○）

○ 本人の性別は、「男性（51.1%）」、「女性（45.1%）」、「回答しない（1.0%）」である。



【回答者属性分析】

- 本人の性別の割合を障害等別にみると、身体障害（64歳以下）は「男性（53.1%）」、「女性（44.1%）」である。
- 身体障害（65歳以上）は「男性（48.1%）」、「女性（49.4%）」である。
- 知的障害は「男性（65.9%）」、「女性（27.5%）」である。
- 精神障害は「男性（49.2%）」、「女性（44.6%）」である。
- 難病は「男性（39.0%）」、「女性（59.3%）」である。

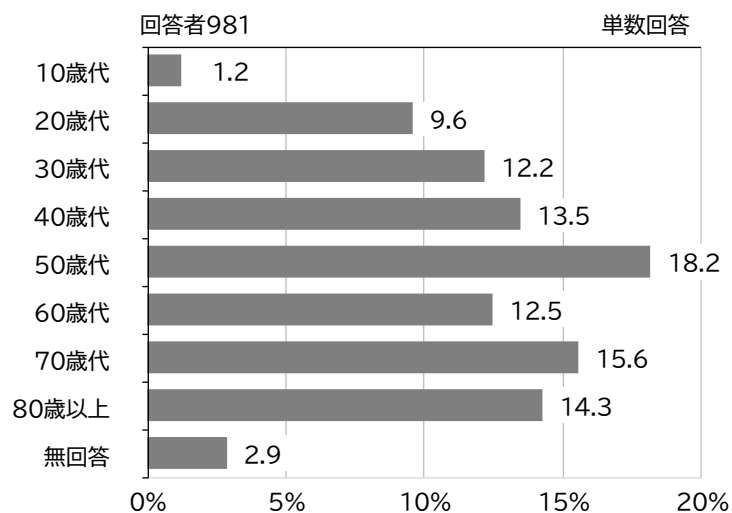
図表_障害者／性別（障害別）

	男性	女性	回答しない	無回答
全体（N=981）	51.1	45.1	1.0	2.9
身体障害（64歳以下） （n=213）	53.1	44.1	0.9	1.9
身体障害（65歳以上） （n=237）	48.1	49.4	0.0	2.5
知的障害（n=182）	65.9	27.5	2.2	4.4
精神障害（n=177）	49.2	44.6	2.3	4.0
難病（n=172）	39.0	59.3	0.0	1.7

問3 年齢を教えてください。(1つに○) (令和10年9月1日現在)

- 本人の年齢は、「50歳代(18.2%)」が最も多く、「70歳代(15.6%)」,「80歳以上(14.3%)」が続いている。

図表_障害者/年齢(全体)



【回答者属性分析】

- 本人の年齢の割合を障害等別にみると、身体障害(64歳以下)は「50歳代(34.7%)」、身体障害(65歳以上)は「80歳以上(45.6%)」、知的障害は「20歳代(29.7%)」、精神障害は「50歳代(25.4%)」、難病は「70歳代(22.1%)」が最も多くなっている。

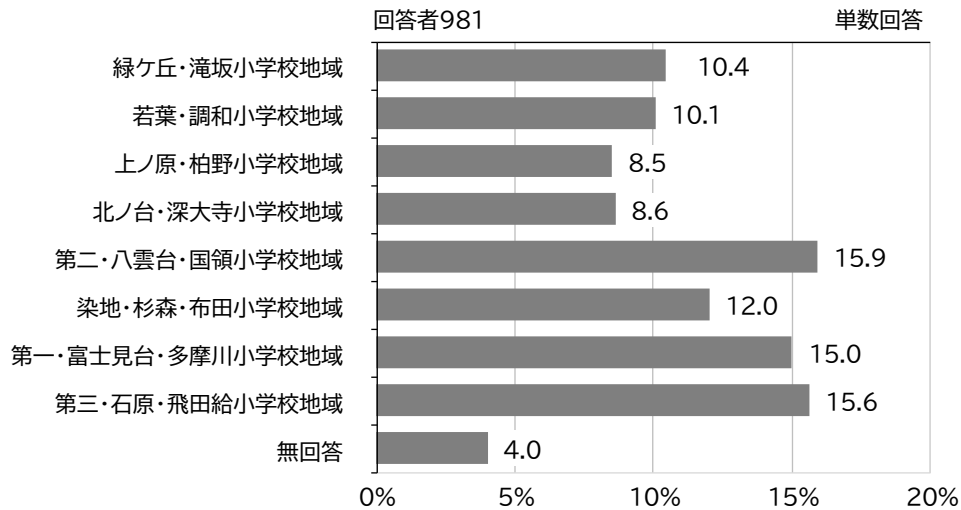
図表_障害者/年齢(障害別)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
全体(N=981)	1.2	9.6	12.2	13.5	18.2	12.5	15.6	14.3	2.9
身体障害(64歳以下) (n=213)	1.4	7.5	13.1	15.5	34.7	24.4	0.0	0.5	2.8
身体障害(65歳以上) (n=237)	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	11.0	40.9	45.6	1.7
知的障害(n=182)	3.8	29.7	26.4	15.9	12.6	3.3	1.6	2.2	4.4
精神障害(n=177)	1.1	9.0	16.9	24.9	25.4	9.0	8.5	1.1	4.0
難病(n=172)	0.0	4.7	8.1	14.5	20.9	13.4	22.1	14.5	1.7

問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

○ 本人の居住地は、「第二・八雲台・国領(15.9%)」が最も多く、「第三・石原・飛田給(15.6%)」,「第一・富士見台・多摩川(15.0%)」が続いている。

図表_障害者/居住地(全体)



【回答者属性分析】

○ 本人の居住地の割合を障害等別にみると、身体障害(64歳以下)は「第二・八雲台・国領(19.7%)」、身体障害(65歳以上)は「第一・富士見台・多摩川(16.5%)」、知的障害は「第二・八雲台・国領(16.5%)」、精神障害は「第二・八雲台・国領(17.5%)」、難病は「第三・石原・飛田給(16.3%)」が最も多くなっている。

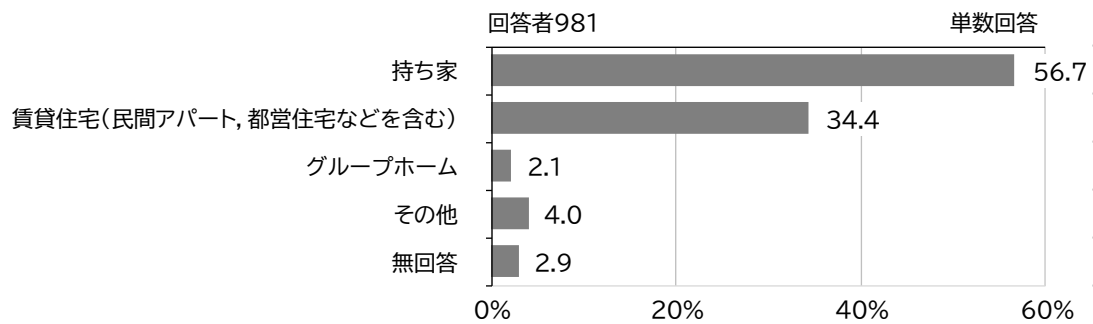
図表_障害者/住まいの地域(障害別)

	緑ヶ丘・滝坂	若葉・調和	上ノ原・柏野	北ノ台・深大寺	第二・八雲台・国領	染地・杉森・布田	第一・富士見台・多摩川	第三・石原・飛田給	無回答
全体(N=981)	10.4	10.1	8.5	8.6	15.9	12.0	15.0	15.6	4.0
身体障害(64歳以下)(n=213)	8.9	8.0	6.1	10.3	19.7	8.9	16.4	18.8	2.8
身体障害(65歳以上)(n=237)	13.1	12.7	11.8	5.5	11.4	11.8	16.5	14.3	3.0
知的障害(n=182)	10.4	8.2	8.8	9.9	16.5	13.7	12.1	15.4	4.9
精神障害(n=177)	9.6	7.3	9.0	9.0	17.5	13.6	14.1	13.0	6.8
難病(n=172)	9.3	14.0	5.8	8.7	15.1	12.8	15.1	16.3	2.9

問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

- 本人の住居形態は、「持ち家(56.7%)」が最も多く、「賃貸住宅(民間アパート, 都営住宅などを含む)(34.4%)」が続いている。

図表_障害者/住居形態(全体)



【回答者属性分析】

- 本人の住居形態の割合を障害等別にみると、すべての属性で「持ち家」が最も多くなっている。
- 身体障害(64歳以下)と精神障害で「賃貸住宅(民間アパート, 都営住宅などを含む)」が4割台となっている。

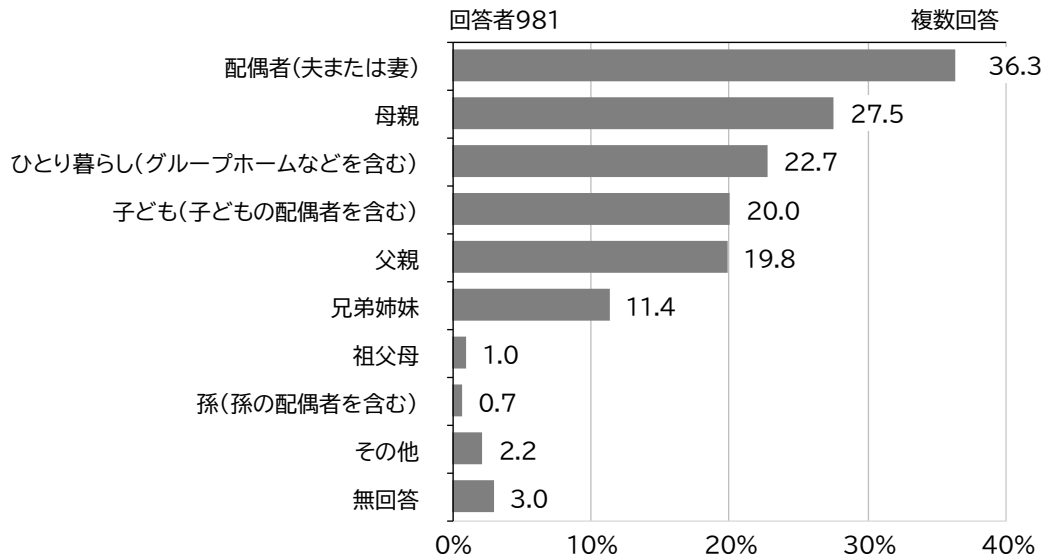
図表_障害者/住居形態(障害別)

	持ち家	賃貸住宅(民間アパート, 都営住宅などを含む)	グループホーム	その他	無回答
全体 (N=981)	56.7	34.4	2.1	4.0	2.9
身体障害 (64歳以下) (n=213)	53.1	41.3	1.9	1.9	1.9
身体障害 (65歳以上) (n=237)	63.7	30.8	0.0	3.4	2.1
知的障害 (n=182)	55.5	26.9	7.7	4.9	4.9
精神障害 (n=177)	45.8	45.2	1.1	5.6	2.3
難病 (n=172)	64.0	27.3	0.6	4.7	3.5

問6 同居している家族を教えてください。(いくつでも○)

- 本人と同居している家族は、「配偶者(夫または妻)(36.3%)」が最も多く、「母親(27.5%)」、「ひとり暮らし(グループホームなどを含む)(22.7%)」が続いている。

図表_障害者/同居家族(全体)



【回答者属性分析】

- 本人と同居している家族の割合を障害等別にみると、身体障害(64歳以下)は「配偶者(夫または妻)(35.2%)」、身体障害(65歳以上)は「配偶者(夫または妻)(55.3%)」、知的障害は「母親(70.3%)」、精神障害は「母親(33.9%)」、難病は「配偶者(夫または妻)(59.9%)」が最も多くなっている。
- 知的障害で「父親」と「母親」と同居している割合が多くなっている。

図表_障害者/同居家族(障害別:複数回答)

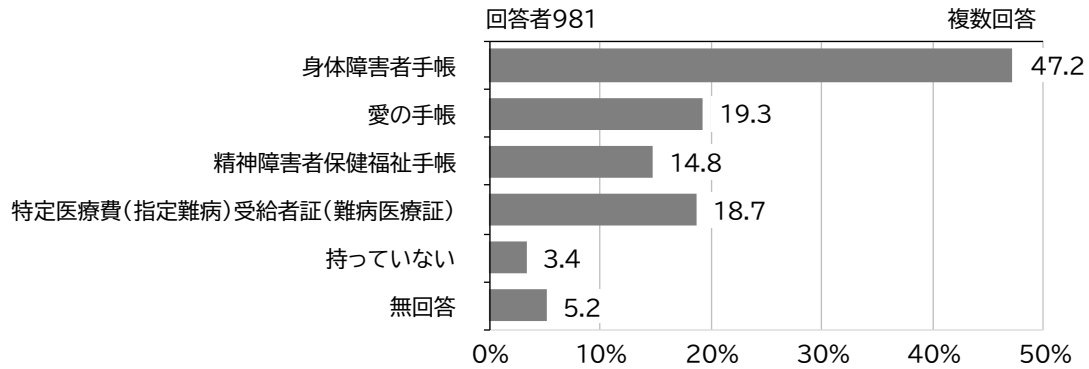
	ひとり暮らし(グループホームなどを含む)	配偶者(夫または妻)	父親	母親	子ども(子どもの配偶者を含む)	孫(孫の配偶者を含む)	兄弟姉妹	祖父母	その他	無回答
全体(N=981)	22.7	36.3	19.8	27.5	20.0	0.7	11.4	1.0	2.2	3.0
身体障害(64歳以下)(n=213)	26.3	35.2	17.8	28.2	15.5	0.0	15.5	0.5	1.9	1.9
身体障害(65歳以上)(n=237)	21.5	55.3	0.4	0.8	31.2	2.5	0.8	0.4	3.4	2.5
知的障害(n=182)	14.3	2.2	61.5	70.3	2.7	0.0	27.5	4.4	1.6	4.9
精神障害(n=177)	32.8	24.3	19.8	33.9	15.8	0.0	10.7	0.0	2.8	1.7
難病(n=172)	18.6	59.9	4.7	11.6	32.6	0.6	4.7	0.0	1.2	4.1

問7 お持ちの手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

① 持っている手帳の種類

- 持っている手帳の種類は、「身体障害者手帳(47.2%)」が最も多く、「愛の手帳(19.3%)」,
「特定医療費(指定難病)受給者証(難病医療証)(18.7%)」が続いている。

図表_障害者/持っている手帳の種類または診断(全体)



② 手帳の等級

- 身体障害(64歳以下)は身体障害者手帳の「1級(31.7%)」, 身体障害(65歳以上)は身体障害者手帳の「1級(35.6%)」が最も多くなっている。
○ 知的障害は, 愛の手帳の「4度(49.0%)」が最も多くなっている。
○ 精神障害は, 精神障害者保健福祉手帳の「3級(46.5%)」が最も多くなっている。

図表_障害者/身体障害者手帳の等級【身体障害(64歳以下), 身体障害(65歳以上)】

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
身体障害(64歳以下) (n=208)	31.7	20.2	17.3	19.2	6.3	3.4	1.9
身体障害(65歳以上) (n=225)	35.6	9.8	12.9	28.9	4.0	4.0	4.9

図表_障害者/愛の手帳の等級【知的障害】

	1度	2度	3度	4度	無回答
知的障害(n=153)	1.3	24.2	19.6	49.0	5.9

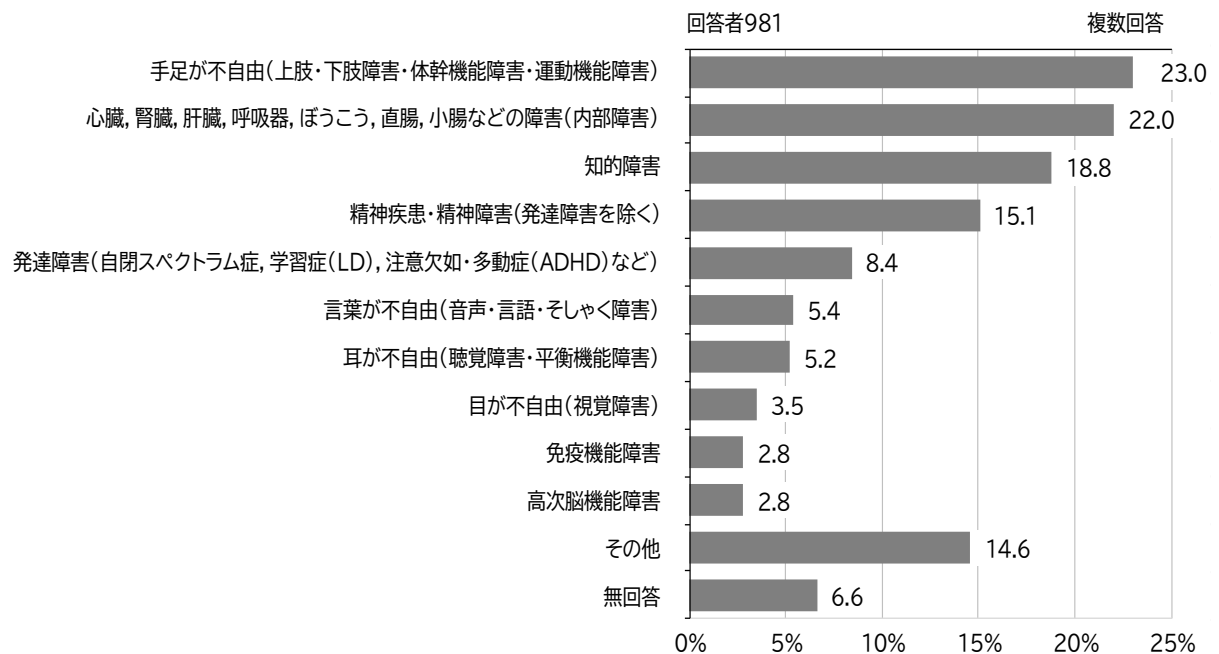
図表_障害者/精神障害者保健福祉の等級【知的障害】

	1級	2級	3級	無回答
精神障害(n=142)	3.5	45.1	46.5	4.9

問8 どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○) 特定医療費(指定難病)給者証をもつ人は、「11 その他」の欄に病名をご記入ください。

- 病気や障害の種類は、「手足が不自由(上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害)(23.0%)」が最も多く、「心臓, 腎臓, 肝臓, 呼吸器, ぼうこう, 直腸, 小腸などの障害(内部障害)(22.0%)」, 「知的障害(18.8%)」が続いている。

図表_障害者/病気や障害の種類(全体)



【回答者属性分析】

- 病気や障害の種類の割合を障害等別にみると、身体障害（64歳以下）は「手足が不自由（上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害（50.7%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65歳以上）は「心臓，腎臓，肝臓，呼吸器，ぼうこう，直腸，小腸などの障害（内部障害）（45.1%）」が最も多く，「手足が不自由（上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害）（41.4%）」が続いている。
- 知的障害は「知的障害（83.5%）」が最も多くなっている。
- 精神障害は「精神疾患・精神障害（発達障害を除く）（76.8%）」が最も多くなっている。
- 難病は「その他（49.4%）」が最も多くなっている。
- 複数の病気や障害のある人が一定数みられる。

図表_障害者／病気や障害の種類（障害別：複数回答）

	目 が 不 自 由 （ 視 覚 障 害 ）	耳 が 不 自 由 （ 聴 覚 障 害 ・ 平 衡 機 能 障 害 ）	言 葉 が 不 自 由 （ 音 声 ・ 言 語 ・ そ し ゃ く 障 害 ）	手 足 が 不 自 由 （ 上 肢 ・ 下 肢 障 害 ・ 体 幹 機 能 障 害 ・ 運 動 機 能 障 害 ）	心 臓 ， 腎 臓 ， 肝 臓 ， 呼 吸 器 ， ぼう こ う ， 直 腸 ， 小 腸 な ど の 障 害 （ 内 部 障 害 ）	免 疫 機 能 障 害
全体（N=981）	3.5	5.2	5.4	23.0	22.0	2.8
身体障害（64歳以下） （n=213）	8.5	9.4	12.2	50.7	30.5	1.9
身体障害（65歳以上） （n=237）	4.6	10.5	5.1	41.4	45.1	0.4
知的障害（n=182）	0.0	1.1	7.1	1.6	1.1	0.0
精神障害（n=177）	1.1	1.7	0.6	4.0	2.8	0.6
難病（n=172）	1.7	0.6	0.6	5.8	21.5	12.2

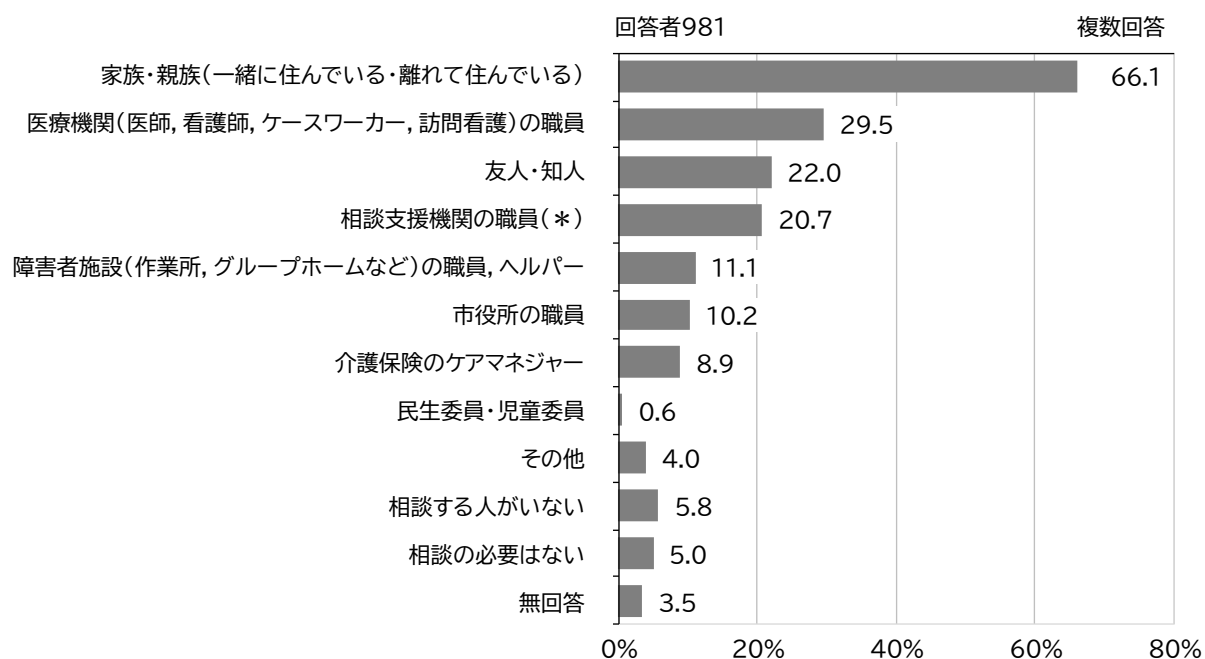
	知 的 障 害	精 神 疾 患 ・ 精 神 障 害 （ 発 達 障 害 を 除 く ）	発 達 障 害 （ 自 閉 ス ペ ク ト ラ ム 症 ， 学 習 症 （ LD ） ， 注 意 欠 如 ・ 多 動 症 （ ADHD ） な ど ）	高 次 脳 機 能 障 害	そ の 他	無 回 答
全体（N=981）	18.8	15.1	8.4	2.8	14.6	6.6
身体障害（64歳以下） （n=213）	13.1	0.5	0.5	3.3	9.9	1.4
身体障害（65歳以上） （n=237）	0.0	0.8	0.0	3.8	8.4	3.8
知的障害（n=182）	83.5	4.4	28.0	0.5	4.9	6.0
精神障害（n=177）	1.7	76.8	16.4	5.6	4.5	6.2
難病（n=172）	0.6	0.6	0.6	0.0	49.4	18.0

2 相談支援についておたずねします

問9 悩みや困りごとがある場合、主にどこに相談しますか。(いくつでも○)

- 困ったときの身近な相談相手は、「家族・親族(一緒に住んでいる・離れて住んでいる)(66.1%)」が最も多く、「医療機関(医師, 看護師, ケースワーカー, 訪問看護)の職員(29.5%)」, 「友人・知人(22.0%)」が続いている。

図表_障害者/困ったときの身近な相談相手(全体)



*ちようふだぞう, ドルチェ, 希望ヶ丘, こころの健康支援センター, サービス等利用計画の作成やモニタリングを行う相談支援専門員

【回答者属性分析】

- 困ったときの身近な相談相手の割合を障害等別にみると、すべての属性で「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）」が最も多くなっている。
- 知的障害で「相談支援機関の職員」が5割台、精神障害で「医療機関（医師，看護師，ケースワーカー，訪問看護）の職員」が4割台となっている。

図表_障害者/困ったときの身近な相談相手（障害別：複数回答）

	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）	友人・知人	相談支援機関の職員（*）	障害者施設（作業所，グループホームなど）の職員，ヘルパー	介護保険のケアマネジャー	市役所の職員
全体（N=981）	66.1	22.0	20.7	11.1	8.9	10.2
身体障害（64歳以下） （n=213）	67.1	27.7	16.4	12.2	5.2	17.4
身体障害（65歳以上） （n=237）	66.2	19.8	4.2	0.8	20.3	8.4
知的障害（n=182）	65.9	13.2	52.2	31.3	1.1	9.9
精神障害（n=177）	61.0	27.7	32.8	13.6	2.8	9.6
難病（n=172）	69.8	21.5	2.9	0.0	12.2	4.7

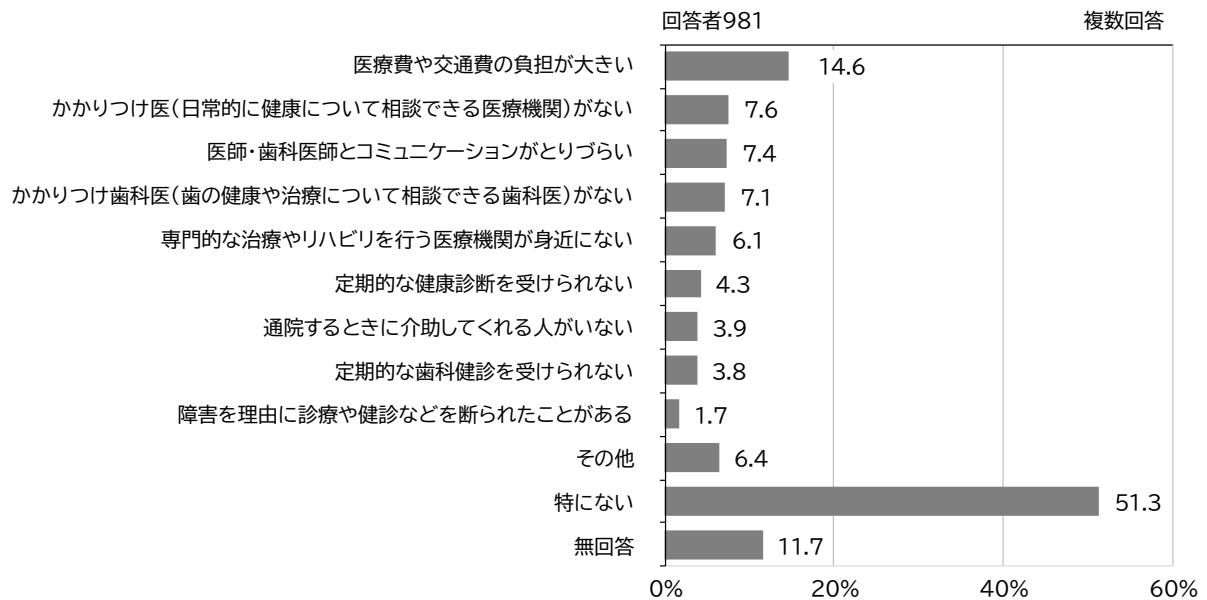
	民生委員・児童委員	医療機関（医師，看護師，ケースワーカー，訪問看護）の職員	その他	相談する人がいない	相談の必要はない	無回答
全体（N=981）	0.6	29.5	4.0	5.8	5.0	3.5
身体障害（64歳以下） （n=213）	0.0	27.7	5.2	8.0	3.8	1.9
身体障害（65歳以上） （n=237）	1.3	26.2	1.7	4.2	7.6	3.4
知的障害（n=182）	1.1	12.6	4.4	2.2	3.3	3.8
精神障害（n=177）	0.6	48.0	5.6	10.2	1.7	4.0
難病（n=172）	0.0	34.9	3.5	4.7	8.1	4.7

*ちようふだぞう，ドルチェ，希望ヶ丘，こころの健康支援センター，サービス等利用計画の作成やモニタリングを行う相談支援専門員

問 10 あなたは、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。（いくつでも○）

- 医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、「特にない（51.3%）」が最も多く、「医療費や交通費の負担が大きい（14.6%）」、「かかりつけ医（日常的に健康について相談できる医療機関）がない（7.6%）」が続いている。

図表_障害者／医療機関（歯科を含む）の受診で困ること（全体）



【回答者属性分析】

- 医療機関（歯科を含む）の受診で困ることの割合を障害等別にみると、すべての属性で「特にない」が最も多くなっている。
- 「特にない」を除くと、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病で「医療費や交通費の負担が大きい」、知的障害で「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい」が多くなっている。

図表_障害者／医療機関（歯科を含む）の受診で困ること（障害別：複数回答）

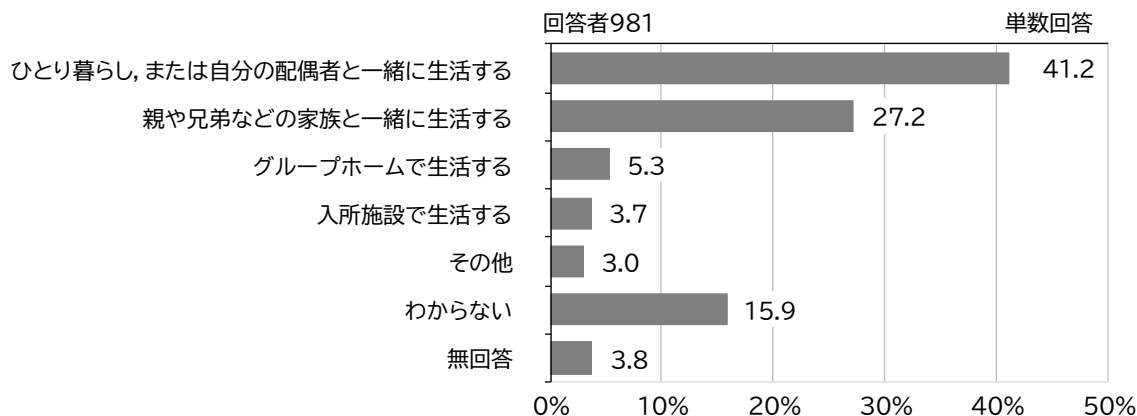
	かかりつけ医（日常的に健康について相談できる医療機関）がない	かかりつけ歯科医（歯の健康や治療について相談できる歯科医）がない	定期的な健康診断を受けられない	定期的な歯科健診を受けられない	専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない	障害を理由に診療や健診などを断られたことがある
全体（N=981）	7.6	7.1	4.3	3.8	6.1	1.7
身体障害（64歳以下） （n=213）	9.4	4.7	3.3	2.8	9.9	2.8
身体障害（65歳以上） （n=237）	6.3	6.8	2.5	2.5	4.2	1.3
知的障害（n=182）	9.9	9.9	7.1	5.5	5.5	2.2
精神障害（n=177）	7.3	9.0	8.5	6.2	6.8	1.7
難病（n=172）	5.2	5.8	0.6	2.3	4.1	0.6

	通院するときに介助してくれる人がいない	医療費や交通費の負担が大きい	医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい	その他	特にない	無回答
全体（N=981）	3.9	14.6	7.4	6.4	51.3	11.7
身体障害（64歳以下） （n=213）	5.6	16.0	8.0	8.0	46.0	7.5
身体障害（65歳以上） （n=237）	3.0	9.7	4.6	3.0	57.8	13.1
知的障害（n=182）	3.8	9.9	13.7	6.6	51.6	13.2
精神障害（n=177）	5.1	18.6	9.0	10.7	44.6	13.6
難病（n=172）	1.7	20.3	2.3	4.7	55.2	11.6

問 11 今後、どのように生活したいですか。(1つに○)

- 希望する暮らし方は、「ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する(41.2%)」が最も多く、「親や兄弟などの家族と一緒に生活する(27.2%)」、「わからない(15.9%)」、「グループホームで生活する(5.3%)」が続いている。

図表_障害者/希望する暮らし方(全体)



【回答者属性分析】

- 希望する暮らし方の割合を障害等別にみると、知的障害は「親や兄弟などの家族と一緒に生活する」、その他の方は「ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する」が最も多くなっている。
- 知的障害で「グループホームで生活する」が2割近くとなっている。

図表_障害者/希望する暮らし方(障害別)

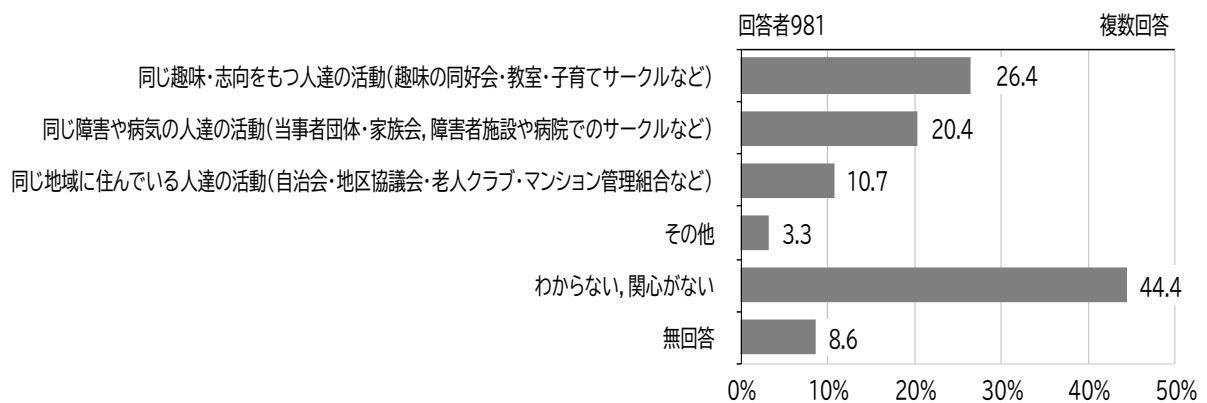
	親や兄弟などの家族と一緒に生活する	ひとり暮らし,または自分の配偶者と一緒に生活する	グループホームで生活する	入所施設で生活する	その他	わからない	無回答
全体 (N=981)	27.2	41.2	5.3	3.7	3.0	15.9	3.8
身体障害 (64歳以下) (n=213)	28.2	45.5	4.7	2.8	2.8	14.6	1.4
身体障害 (65歳以上) (n=237)	24.9	43.0	0.4	6.8	2.5	15.6	6.8
知的障害 (n=182)	34.6	18.1	19.2	5.5	1.6	19.8	1.1
精神障害 (n=177)	23.2	48.6	1.1	1.1	6.8	15.3	4.0
難病 (n=172)	25.6	50.0	2.3	1.2	1.2	14.5	5.2

3 市民同士の支え合いについておたずねします

問 12 近年、さまざまな主体による地域活動が行われています。あなたが参加しやすい活動は何ですか。（いくつでも○）

- 参加しやすい地域活動は、「わからない、関心がない（44.4%）」が最も多く、「同じ趣味・志向をもつ人達の活動（趣味の同好会・教室・子育てサークルなど）（26.4%）」、「同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど）（20.4%）」が続いている。

図表_障害者／参加しやすい地域活動（全体）



【回答者属性分析】

- 参加しやすい地域活動の割合を障害等別にみると、すべての属性で「わからない、関心がない」が最も多くなっている。
- 「わからない、関心がない」を除くと、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、難病で「同じ趣味・志向をもつ人達の活動（趣味の同好会・教室・子育てサークルなど）」が多くなっている。
- 知的障害と精神障害は「同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど）（30.2%）」が多くなっている。

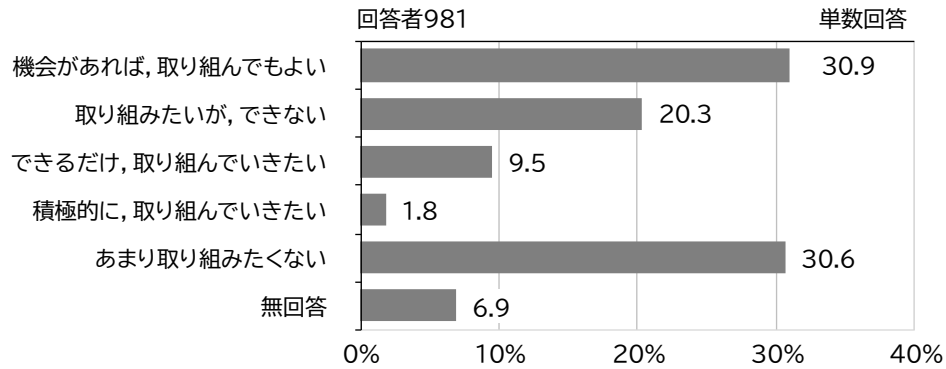
図表_障害者／参加しやすい地域活動（障害別：複数回答）

	同じ地域に住んでいる人達の活動（自治会・地区協議会・老人クラブ・マンション管理組合など）	同じ趣味・志向をもつ人達の活動（趣味の同好会・教室・子育てサークルなど）	同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど）	その他	わからない、関心がない	無回答
全体（N=981）	10.7	26.4	20.4	3.3	44.4	8.6
身体障害（64 歳以下） （n=213）	8.9	26.8	22.5	4.7	50.2	4.2
身体障害（65 歳以上） （n=237）	16.5	27.0	9.7	3.8	38.8	15.2
知的障害（n=182）	3.8	18.1	30.2	1.6	46.7	6.6
精神障害（n=177）	7.3	26.6	31.6	2.3	44.6	6.2
難病（n=172）	15.7	33.7	10.5	3.5	42.4	9.3

問 13 あなたは今後、地域活動・ボランティア活動に取り組みたいです。 (1つに○)

- 地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「機会があれば、取り組んでもよい(30.9%)」が最も多く、「あまり取り組みたくない(30.6%)」、「取り組みたいが、できない(20.3%)」が続いている。

図表_障害者/地域活動・ボランティア活動の取組意向(全体)



【回答者属性分析】

- 地域活動・ボランティア活動の取組意向の割合を障害等別にみると、身体障害(64歳以下)、難病は「機会があれば、取り組んでもよい」、身体障害(65歳以上)は「取り組みたいが、できない(29.5%)」、知的障害、精神障害は「あまり取り組みたくない」が最も多くなっている。

図表_障害者/地域活動・ボランティア活動の取組意向(障害別)

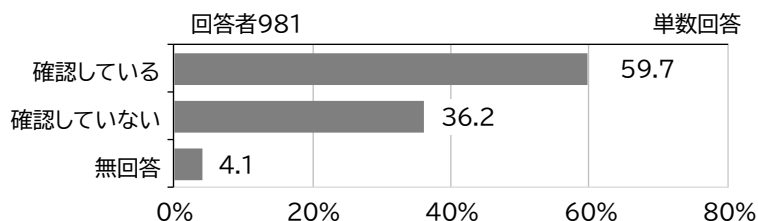
	積極的に、 取り組 んでい きたい	でき るだ け、 取 組 んで いき たい	機 会 が あ れ ば 、 取 組 ん で も よ い	取 り 組 み た い が 、 で き な い	あ ま り 取 り 組 み た く な い	無 回 答
全体 (N=981)	1.8	9.5	30.9	20.3	30.6	6.9
身体障害 (64歳以下) (n=213)	1.9	12.2	33.8	16.0	30.0	6.1
身体障害 (65歳以上) (n=237)	1.3	9.7	24.9	29.5	24.1	10.5
知的障害 (n=182)	2.7	8.2	27.5	17.6	39.0	4.9
精神障害 (n=177)	0.6	8.5	30.5	16.9	38.4	5.1
難病 (n=172)	2.9	8.1	39.5	19.2	23.3	7.0

4 災害時の対策についておたずねします

問 14 防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。(1つに○)

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認は、「確認している(59.7%)」、「確認していない(36.2%)」である。

図表_障害者/避難場所・避難経路・警戒区域などの確認(全体)



【回答者属性分析】

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認の割合を障害等別にみると、身体障害(64歳以下), 身体障害(65歳以上), 難病は「確認している」, 知的障害, 精神障害は「確認していない」が最も多くなっている。

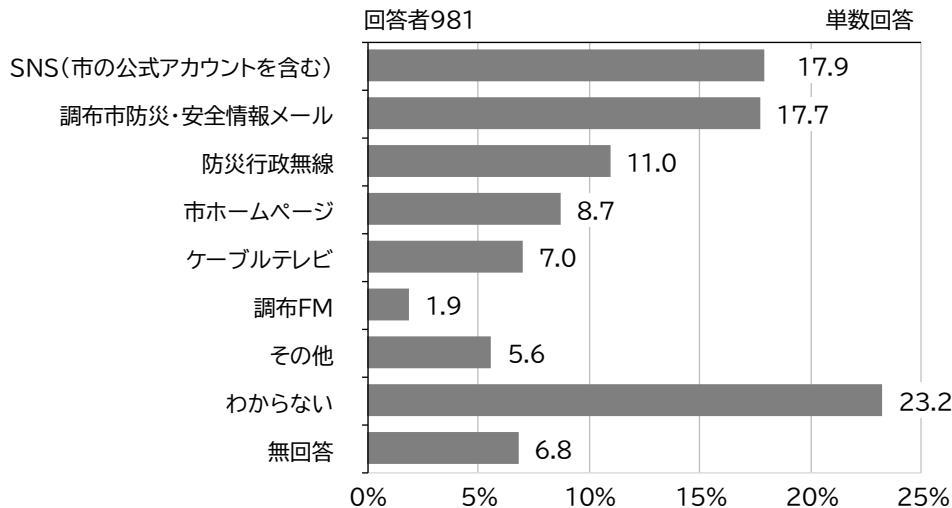
図表_障害者/避難場所・避難経路・警戒区域などの確認(障害別)

	確認している	確認していない	無回答
全体 (N=981)	59.7	36.2	4.1
身体障害 (64歳以下) (n=213)	63.8	33.3	2.8
身体障害 (65歳以上) (n=237)	66.7	30.4	3.0
知的障害 (n=182)	45.6	50.5	3.8
精神障害 (n=177)	45.8	47.5	6.8
難病 (n=172)	74.4	20.9	4.7

問 15 災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。(1つに○)

- 緊急時の避難情報の入手先は、「わからない(23.2%)」が最も多く、「SNS(市の公式アカウントを含む)(17.9%)」,「調布市防災・安全情報メール(17.7%)」が続いている。

図表_障害者/緊急時の避難情報の入手先(全体)



【回答者属性分析】

- 緊急時の避難情報の入手先の割合を障害等別にみると、身体障害(64歳以下)は「SNS(市の公式アカウントを含む)(24.9%)」,身体障害(65歳以上),知的障害,精神障害は「わからない」,難病は「調布市防災・安全情報メール」が最も多くなっている。

図表_障害者/緊急時の避難情報の入手先(障害別)

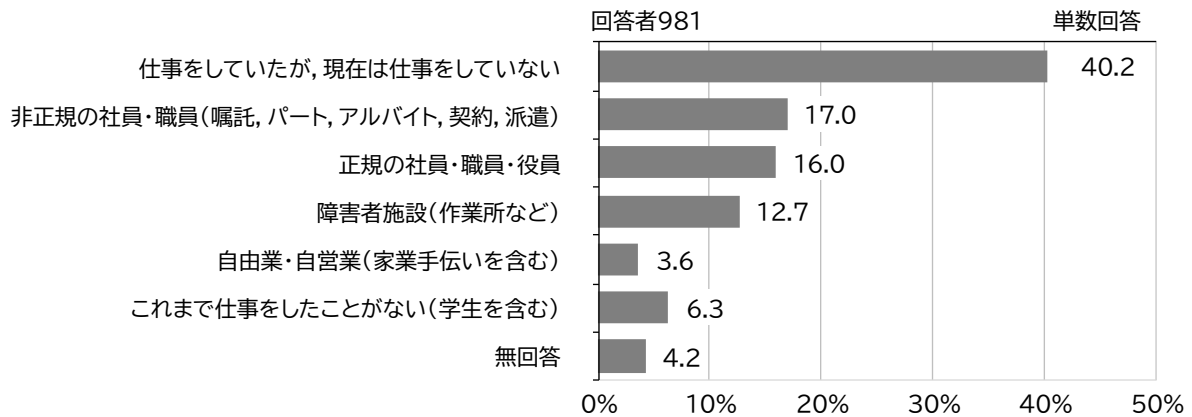
	防災行政無線	調布市防災・安全情報メール	調布FM	市ホームページ	ケーブルテレビ	SNS(市の公式アカウントを含む)	その他	わからない	無回答
全体(N=981)	11.0	17.7	1.9	8.7	7.0	17.9	5.6	23.2	6.8
身体障害(64歳以下)(n=213)	7.0	17.4	1.4	12.2	7.5	24.9	7.5	17.4	4.7
身体障害(65歳以上)(n=237)	18.6	18.6	0.8	7.6	9.3	6.3	5.5	24.1	9.3
知的障害(n=182)	6.6	19.2	2.7	2.7	7.7	16.5	3.8	36.3	4.4
精神障害(n=177)	9.0	10.7	2.3	11.3	5.1	23.2	6.8	25.4	6.2
難病(n=172)	12.2	22.7	2.9	9.3	4.7	21.5	4.1	13.4	9.3

5 暮らしについておたずねします

問 16 現在、給料や工賃を伴う仕事をしていますか。(1つに○)

- 本人の就労状況は、「仕事をしていたが、現在は仕事をしていない(40.2%)」が最も多く、「非正規の社員・職員(嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣)(17.0%)」, 「正規の社員・職員・役員(16.0%)」が続いている。

図表_障害者/本人の就労状況(全体)



【回答者属性分析】

- 本人の就労状況の割合を障害等別にみると、知的障害は「障害者施設(作業所など)」, その他の方は「仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」が最も多くなっている。
- 「正規の社員・職員・役員」は、身体障害(64歳以下)で2割, 難病で3割台となっている。

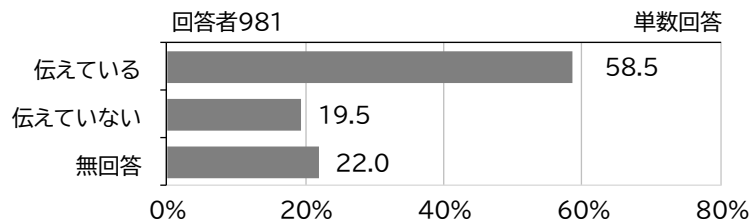
図表_障害者/本人の就労状況(障害別)

	正規の社員・職員・役員	非正規の社員・職員(嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣)	自由業・自営業(家業手伝いを含む)	障害者施設(作業所など)	仕事をしていたが、現在は仕事をしていない	これまで仕事をしたことがない(学生を含む)	無回答
全体 (N=981)	16.0	17.0	3.6	12.7	40.2	6.3	4.2
身体障害 (64歳以下) (n=213)	25.8	20.7	5.2	10.8	28.2	7.0	2.3
身体障害 (65歳以上) (n=237)	3.0	3.8	5.1	0.4	73.4	8.0	6.3
知的障害 (n=182)	15.9	28.6	0.0	41.8	6.0	6.0	1.6
精神障害 (n=177)	7.9	22.0	4.0	13.6	41.8	6.8	4.0
難病 (n=172)	30.2	13.4	2.9	0.6	43.6	2.9	6.4

問 17 職場や学校の人に、あなたの障害や病気のことを伝えていきますか。(1つに○)

- 職場や学校に障害・病気のあることを伝えているか（オープン就労等の状況）は、「伝えている（58.5%）」、「伝えていない（19.5%）」である。

図表_障害者／職場や学校に障害・病気のあることを伝えているか（オープン就労等の状況）（全体）



注：無回答には問 16 で「仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」と回答した方を含む

【回答者属性分析】

- 職場や学校に障害・病気のあることを伝えているか（オープン就労等の状況）の割合を障害等別にみると、すべての属性で「伝えている」が最も多くなっている。
- 精神障害で「伝えていない」が3割台となっている。

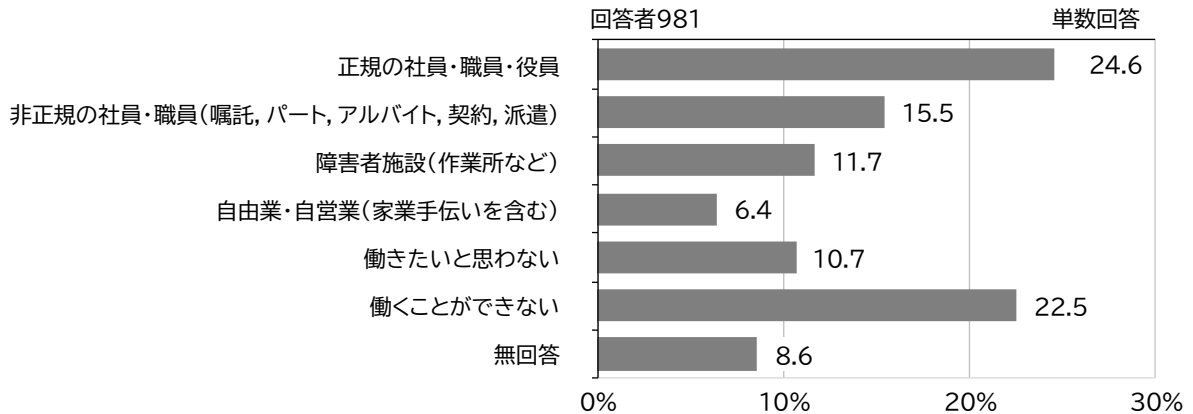
図表_障害者／職場や学校に障害・病気のあることを伝えているか（オープン就労等の状況）（障害別）

	伝えている	伝えていない	無回答
全体 (N=981)	58.5	19.5	22.0
身体障害 (64 歳以下) (n=213)	73.7	14.6	11.7
身体障害 (65 歳以上) (n=237)	36.7	20.3	43.0
知的障害 (n=182)	81.9	9.3	8.8
精神障害 (n=177)	53.7	30.5	15.8
難病 (n=172)	50.0	23.8	26.2

問 18 あなたは、どのような形で働きたい（続けたい）ですか。（1つに○）

- 希望する働き方は、「正規の社員・職員・役員（24.6%）」が最も多く、「働くことができない（22.5%）」、「非正規の社員・職員（嘱託，パート，アルバイト，契約，派遣）（15.5%）」が続いている。

図表_障害者／希望する働き方（全体）



【回答者属性分析】

- 希望する働き方の割合を障害等別にみると、身体障害（64歳以下），精神障害，難病は「正規の社員・職員・役員」，身体障害（65歳以上）は「働くことができない」，知的障害は「障害者施設（作業所など）」が最も多くなっている。

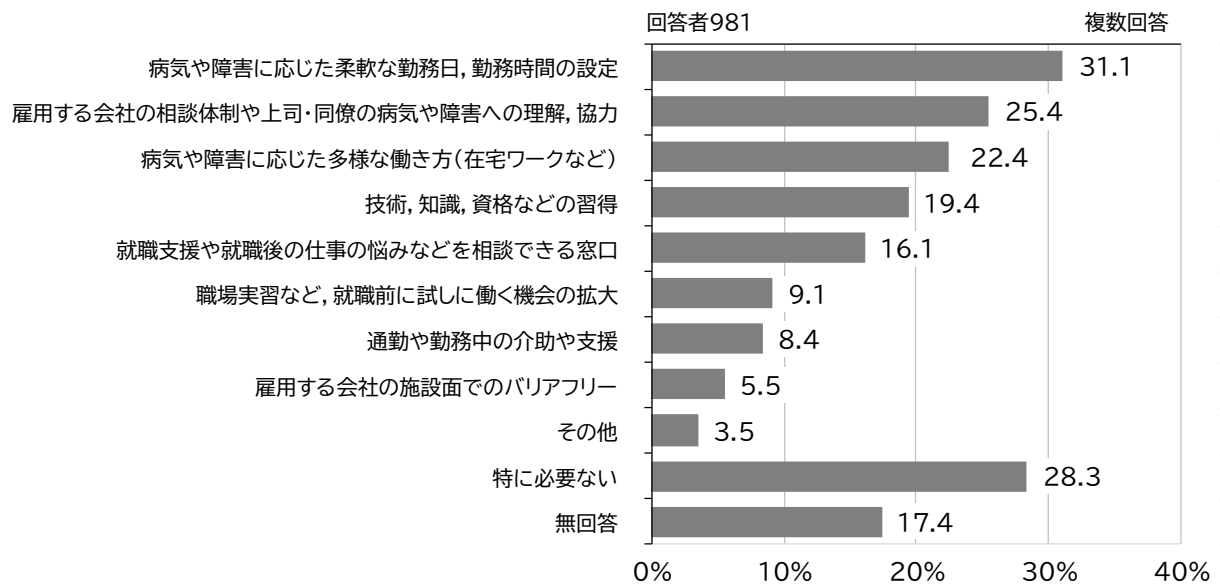
図表_障害者／希望する働き方（障害別）

	正規の社員・職員・役員	非正規の社員・職員(嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣)	自由業・自営業(家業手伝いを含む)	障害者施設(作業所など)	働きたいと思わない	働くことができない	無回答
全体 (N=981)	24.6	15.5	6.4	11.7	10.7	22.5	8.6
身体障害 (64歳以下) (n=213)	35.2	19.2	8.5	9.9	6.6	17.4	3.3
身体障害 (65歳以上) (n=237)	3.0	6.3	5.9	1.7	20.7	44.3	18.1
知的障害 (n=182)	26.4	21.4	3.3	36.8	2.7	6.0	3.3
精神障害 (n=177)	30.5	16.4	9.0	11.9	7.9	18.6	5.6
難病 (n=172)	33.1	16.3	5.2	1.2	13.4	20.3	10.5

問 19 あなたが仕事をするために、必要なことはありますか。(いくつでも○)

○ 仕事をするために必要なことは、「病気や障害に応じた柔軟な勤務日、勤務時間の設定 (31.1%)」が最も多く、「特に必要ない (28.3%)」, 「雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解, 協力 (25.4%)」が続いている。

図表_障害者/仕事をするために必要なこと (全体)



【回答者属性分析】

- 仕事をするために必要なことの割合を障害等別にみると、身体障害（64歳以下）、精神障害、難病は「病気や障害に応じた柔軟な勤務日、勤務時間の設定」が最も多くなっている。
- 身体障害（65歳以上）は「特に必要ない（51.5%）」が最も多く、それを除くと、「病気や障害に応じた柔軟な勤務日、勤務時間の設定」が多くなっている。
- 知的障害は「雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解、協力」が最も多くなっている。
- 身体障害（64歳以下）と精神障害で「病気や障害に応じた多様な働き方（在宅ワークなど）」が3割台から4割台となっている。知的障害と精神障害で「就職支援や就職後の仕事の悩みなどを相談できる窓口」が2割台から3割台となっている。

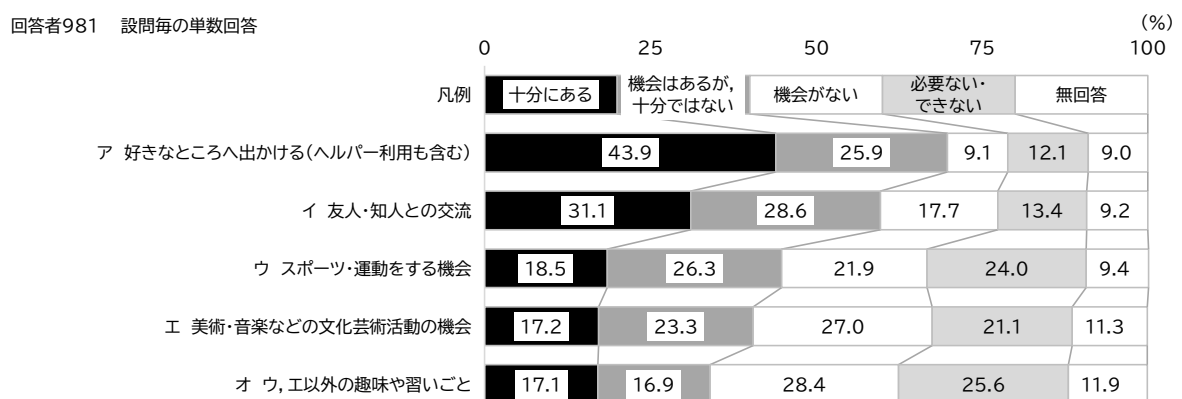
図表 障害者／仕事をするために必要なこと（障害別：複数回答）

	技術、知識、資格などの習得	病気や障害に応じた柔軟な勤務日、勤務時間の設定	病気や障害に応じた多様な働き方（在宅ワークなど）	雇用する会社の施設面でのバリアフリー	雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解、協力	通勤や勤務中の介助や支援	就職支援や就職後の仕事の悩みなどを相談できる窓口	職場実習など、就職前に試しに働く機会の拡大	その他	特に必要ない	無回答
全体（N=981）	19.4	31.1	22.4	5.5	25.4	8.4	16.1	9.1	3.5	28.3	17.4
身体障害（64歳以下） （n=213）	25.8	39.4	37.1	13.1	33.3	11.3	15.0	8.0	4.7	19.2	9.4
身体障害（65歳以上） （n=237）	3.8	11.0	6.8	2.1	5.5	3.0	3.0	1.7	1.3	51.5	30.8
知的障害（n=182）	15.9	30.8	11.0	4.9	35.7	12.6	25.8	12.6	1.6	22.0	11.0
精神障害（n=177）	34.5	48.6	40.1	5.6	43.5	10.2	33.9	23.2	8.5	13.6	13.6
難病（n=172）	20.9	30.8	19.8	1.2	13.4	5.8	7.0	2.3	1.7	29.7	19.8

問 20 普段の生活の中で、次のような機会がありますか。（それぞれ1つに○）

- 本人の好きな活動の機会の有無（仕事，学校，通所施設以外）について、「十分にある」と「機会はあるが，十分ではない」を合わせた『機会はある』の割合は，「好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（69.8%）」が最も多く，「友人・知人との交流（59.7%）」，「スポーツ・運動をする機会（44.8%）」が続いている。
- 一方，「機会がない」では「ウ，エ以外の趣味や習いごと（28.4%）」が最も多く，「美術・音楽などの文化芸術活動の機会（27.0%）」，「スポーツ・運動をする機会（21.9%）」が続いている。

図表_障害者／本人の好きな活動の機会の有無（仕事，学校，通所施設以外）（全体）



【回答者属性分析】

- 本人の好きな活動（仕事，学校，通所施設以外）の『機会はある』の割合を障害等別にみると，身体障害（64 歳以下），知的障害，精神障害，難病は「好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」，身体障害（65 歳以上）は「友人・知人との交流」が最も多くなっている。
- 一方，「機会はない」の割合は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），難病は「スポーツ・運動をする機会」，知的障害，精神障害は「ウ，エ以外の趣味や習いごと（28.4%）」が最も多くなっている。

図表_障害者／本人の好きな活動の機会の有無（仕事，学校，通所施設以外）（障害別）

< 『機会はある』の割合 >

	好きなところへ出かける (ヘルパー利用も含む)	友人・知人との交流	スポーツ・運動をする機会	美術・音楽などの文化芸術活動の機会	ウ，エ以外の趣味や習いごと
全体 (N=981)	69.8	59.7	44.8	40.5	34.0
身体障害 (64 歳以下) (n=213)	81.2	71.9	46.9	49.8	41.8
身体障害 (65 歳以上) (n=237)	53.6	56.1	37.6	29.1	22.7
知的障害 (n=182)	72.5	48.3	48.9	34.6	28.0
精神障害 (n=177)	67.7	50.3	43.5	41.8	33.3
難病 (n=172)	77.3	71.5	48.8	50.0	47.0

図表_障害者／本人の好きな活動の機会の有無（仕事，学校，通所施設以外）（障害別）

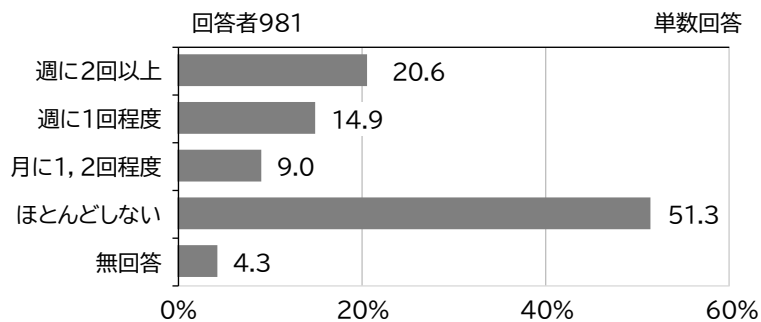
< 「機会がない」の割合 >

	好きなところへ出かける (ヘルパー利用も含む)	友人・知人との交流	スポーツ・運動をする機会	美術・音楽などの文化芸術活動の機会	ウ，エ以外の趣味や習いごと
全体 (N=981)	9.1	17.7	21.9	27.0	28.4
身体障害 (64 歳以下) (n=213)	6.1	16.4	22.1	29.1	32.4
身体障害 (65 歳以上) (n=237)	12.2	14.8	13.9	23.6	20.7
知的障害 (n=182)	9.3	23.1	23.6	31.3	34.1
精神障害 (n=177)	12.4	25.4	28.8	28.2	35.0
難病 (n=172)	4.7	9.9	23.8	23.3	21.5

問 21 スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。(1つに○)

- スポーツ活動・運動をする頻度は、「ほとんどしない(51.3%)」が最も多く、「週に2回以上(20.6%)」,「週に1回程度(14.9%)」が続いている。

図表_障害者/スポーツ活動・運動をする頻度(全体)



【回答者属性分析】

- スポーツ活動・運動をする頻度の割合を障害等別にみると、すべての属性で「ほとんどしない」が最も多くなっている。

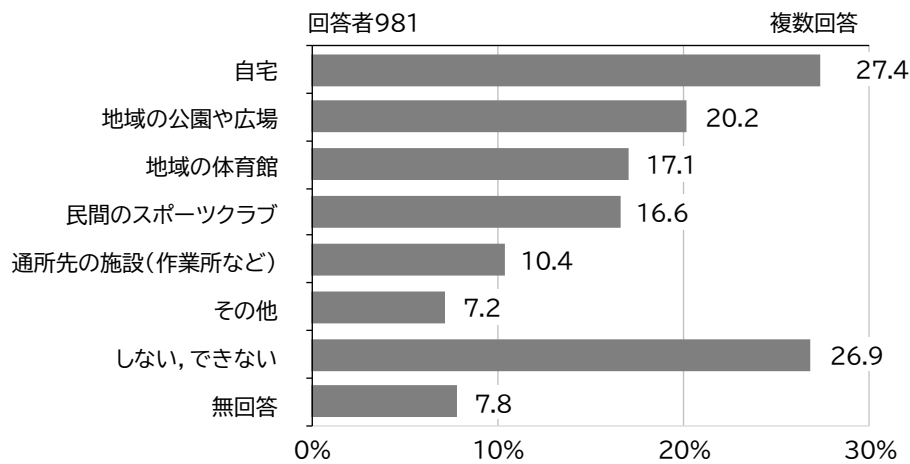
図表_障害者/スポーツ活動・運動をする頻度(障害別)

	週に2回以上	週に1回程度	月に1,2回程度	ほとんどしない	無回答
全体 (N=981)	20.6	14.9	9.0	51.3	4.3
身体障害 (64歳以下) (n=213)	23.5	11.7	8.9	53.5	2.3
身体障害 (65歳以上) (n=237)	25.7	14.8	4.2	48.5	6.8
知的障害 (n=182)	15.9	18.7	10.4	48.9	6.0
精神障害 (n=177)	15.3	11.9	10.7	58.8	3.4
難病 (n=172)	20.3	18.0	12.2	47.1	2.3

問 22 スポーツ・運動をどこでしたいですか。（いくつでも○）

- スポーツ活動・運動をする場所は、「自宅（27.4%）」が最も多く、「しない、できない（26.9%）」、「地域の公園や広場（20.2%）」が続いている。

図表_障害者／スポーツ活動・運動をする場所（全体）



【回答者属性分析】

- スポーツ活動・運動をする場所の割合を障害等別にみると、身体障害（64歳以下）、精神障害は「自宅」、身体障害（65歳以上）は「しない、できない」、難病は「自宅」、知的障害は「通所先の施設（作業所など）」が最も多くなっている。

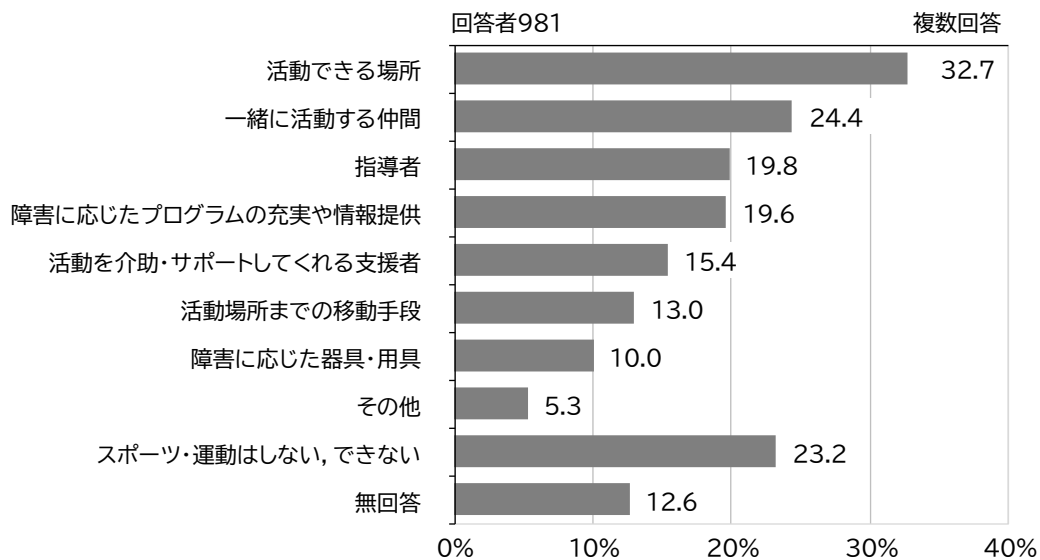
図表_障害者／スポーツ活動・運動をする場所（障害別：複数回答）

	地域の体育館	民間のスポーツクラブ	通所先の施設(作業所など)	地域の公園や広場	自宅	その他	しない、できない	無回答
全体 (N=981)	17.1	16.6	10.4	20.2	27.4	7.2	26.9	7.8
身体障害 (64歳以下) (n=213)	16.0	18.8	8.0	22.1	31.5	8.9	31.0	4.2
身体障害 (65歳以上) (n=237)	11.4	11.0	3.8	15.2	21.1	5.1	33.8	13.1
知的障害 (n=182)	21.4	15.4	28.6	23.1	18.7	6.6	21.4	5.5
精神障害 (n=177)	16.9	19.8	10.2	20.9	36.7	9.6	22.0	6.2
難病 (n=172)	22.1	19.8	3.5	20.9	30.8	6.4	23.3	9.3

問 23 スポーツ・運動をするために必要な支援は何ですか。（いくつでも○）

○ スポーツ活動・運動をするための支援は、「活動できる場所（32.7%）」が最も多く、「一緒に活動する仲間（24.4%）」、「スポーツ・運動はしない、できない（23.2%）」が続いている。

図表_障害者/スポーツ活動・運動をするための支援（全体）



【回答者属性分析】

○ スポーツ活動・運動をするための支援の割合を障害等別にみると、身体障害（64歳以下）は「活動できる場所（31.0%）」と「障害に応じたプログラムの充実や情報提供（31.0%）」、身体障害（65歳以上）は「スポーツ・運動はしない、できない（30.0%）」、知的障害は、精神障害、難病は「活動できる場所」が最も多くなっている。

図表_障害者/スポーツ活動・運動をするための支援（障害別：複数回答）

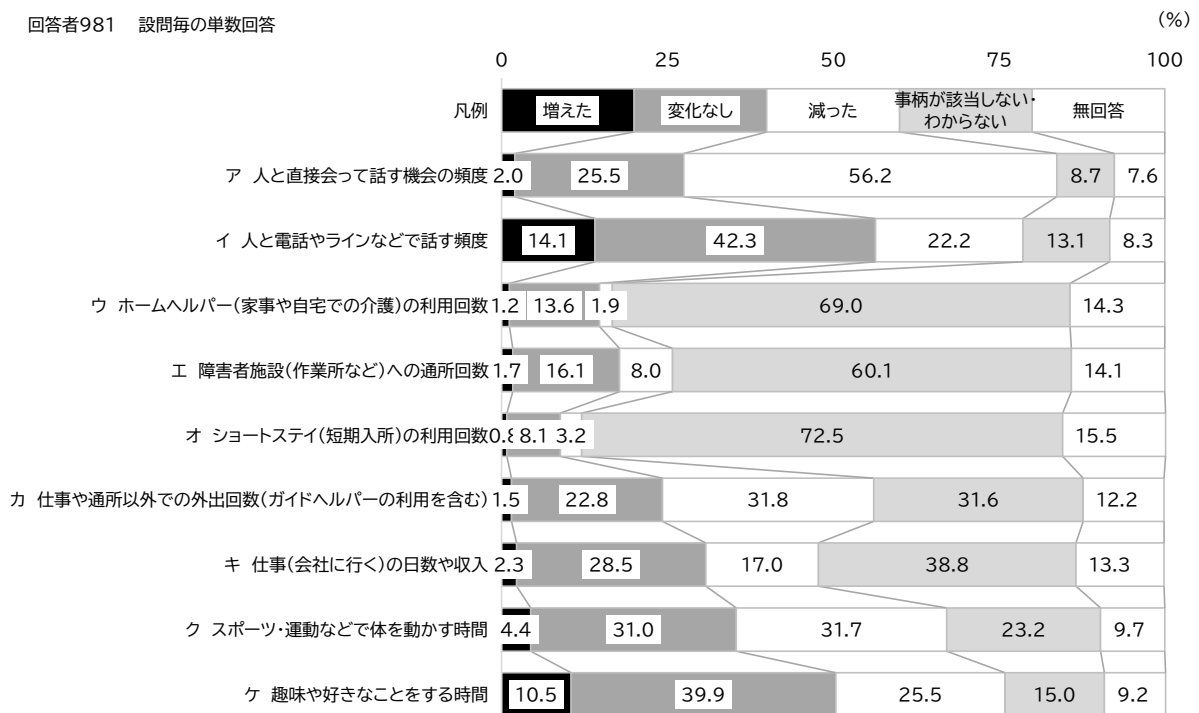
	活動できる場所	指導者	障害に応じた器具・用具	障害に応じたプログラムの充実や情報提供	活動場所までの移動手段	活動を介助・サポートしてくれる支援者	一緒に活動する仲間	その他	スポーツ・運動はしない、できない	無回答
全体（N=981）	32.7	19.8	10.0	19.6	13.0	15.4	24.4	5.3	23.2	12.6
身体障害（64歳以下） （n=213）	31.0	19.2	17.4	31.0	15.0	15.5	20.2	8.0	23.9	5.6
身体障害（65歳以上） （n=237）	19.0	11.0	10.1	12.2	9.7	8.9	16.9	2.5	30.0	20.7
知的障害（n=182）	44.0	32.4	9.3	29.7	19.2	30.8	34.6	3.3	18.7	6.6
精神障害（n=177）	35.6	20.9	7.3	15.8	9.0	13.0	32.8	9.0	18.6	14.1
難病（n=172）	39.0	18.0	4.1	8.7	12.8	10.5	20.3	4.1	22.7	15.1

問 24 コロナ禍によってあなたの暮らしに影響はありましたか。(それぞれ1つに○)

- コロナ禍による暮らしへの影響について、「増えた」の割合は、「人と電話やラインなどで話す頻度(14.1%)」が最も多く、「趣味や好きなことをする時間(10.5%)」、「スポーツ・運動などで体を動かす時間(4.4%)」が続いている。
- 一方、「減った」の割合は、「人と直接会って話す機会の頻度(56.2%)」が最も多く、「仕事や通所以外での外出回数(ガイドヘルパーの利用を含む)(31.8%)」が続いている。

図表_障害者/コロナ禍による暮らしへの影響(全体)

回答者981 設問毎の単数回答



【回答者属性分析】

- コロナ禍による暮らへの影響について、「増えた」の割合を障害等別にみると、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「人と電話やラインなどで話す頻度」、知的障害は「趣味や好きなことをする時間」が最も多くなっている。

図表_障害者/コロナ禍による暮らへの影響（障害別）

<「増えた」の割合>

	人と直接会って話す機会の頻度	人と電話やラインなどで話す頻度	ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数	障害者施設（作業所など）への通所回数	ショートステイ（短期入所）の利用回数	仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）	仕事（会社に行く）の日数や収入	スポーツ・運動などで体を動かす時間	趣味や好きなことをする時間
全体（N=981）	2.0	14.1	1.2	1.7	0.8	1.5	2.3	4.4	10.5
身体障害（64歳以下） （n=213）	1.4	17.8	1.4	0.5	0.5	0.5	2.3	4.2	13.6
身体障害（65歳以上） （n=237）	1.3	12.2	1.7	0.0	0.4	1.3	0.0	1.3	3.8
知的障害（n=182）	3.3	9.3	0.0	3.3	2.7	4.4	5.5	5.5	12.6
精神障害（n=177）	4.5	17.5	1.1	5.6	0.0	1.1	4.0	5.6	14.1
難病（n=172）	0.0	13.4	1.7	0.0	0.6	0.6	0.6	6.4	9.9

- コロナ禍による暮らへの影響について、「減った」の割合を障害等別にみると、すべての属性で「人と直接会って話す機会の頻度」が最も多くなっている。
- 精神障害は、「仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）」が4割台となっている。

図表_障害者／コロナ禍による暮らへの影響（障害別）

<「減った」の割合>

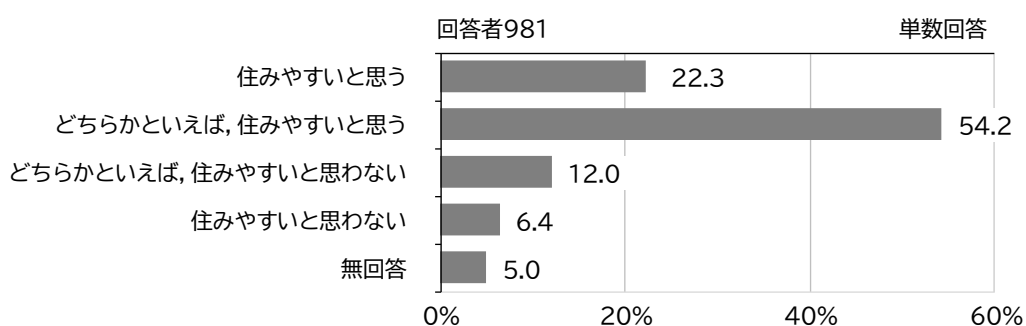
	人と直接会って話す機会の頻度	人と電話やラインなどで話す頻度	ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数	障害者施設（作業所など）への通所回数	ショートステイ（短期入所）の利用回数	仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）	仕事（会社に行く）の日数や収入	スポーツ・運動などで体を動かす時間	趣味や好きなことをする時間
全体（N=981）	56.2	22.2	1.9	8.0	3.2	31.8	17.0	31.7	25.5
身体障害（64歳以下） （n=213）	61.5	19.7	1.4	7.5	3.8	32.9	24.9	34.3	27.7
身体障害（65歳以上） （n=237）	58.2	30.8	0.8	3.0	0.8	23.2	7.2	27.4	27.0
知的障害（n=182）	41.8	12.6	6.0	16.5	8.8	34.1	19.2	33.0	19.2
精神障害（n=177）	55.9	23.7	1.7	14.1	2.8	40.1	21.5	33.3	25.4
難病（n=172）	62.2	22.1	-	-	-	31.4	14.0	31.4	27.3

6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 25 調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

○ 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う」と「どちらかといえば住みやすいと思う」を合わせた『住みやすい』の割合が76.5%、「どちらかといえば、住みやすいと思わない」と「住みやすいと思わない」を合わせた『住みやすくない』が18.4%である。

図表_障害者／調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか（全体）



【回答者属性分析】

- 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかの割合を障害等別にみると、すべての属性で「どちらかといえば、住みやすいと思う」が最も多くなっている。
- すべての属性で『住みやすい』が7割台から8割台となっている。

図表_障害者／調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか（障害別）

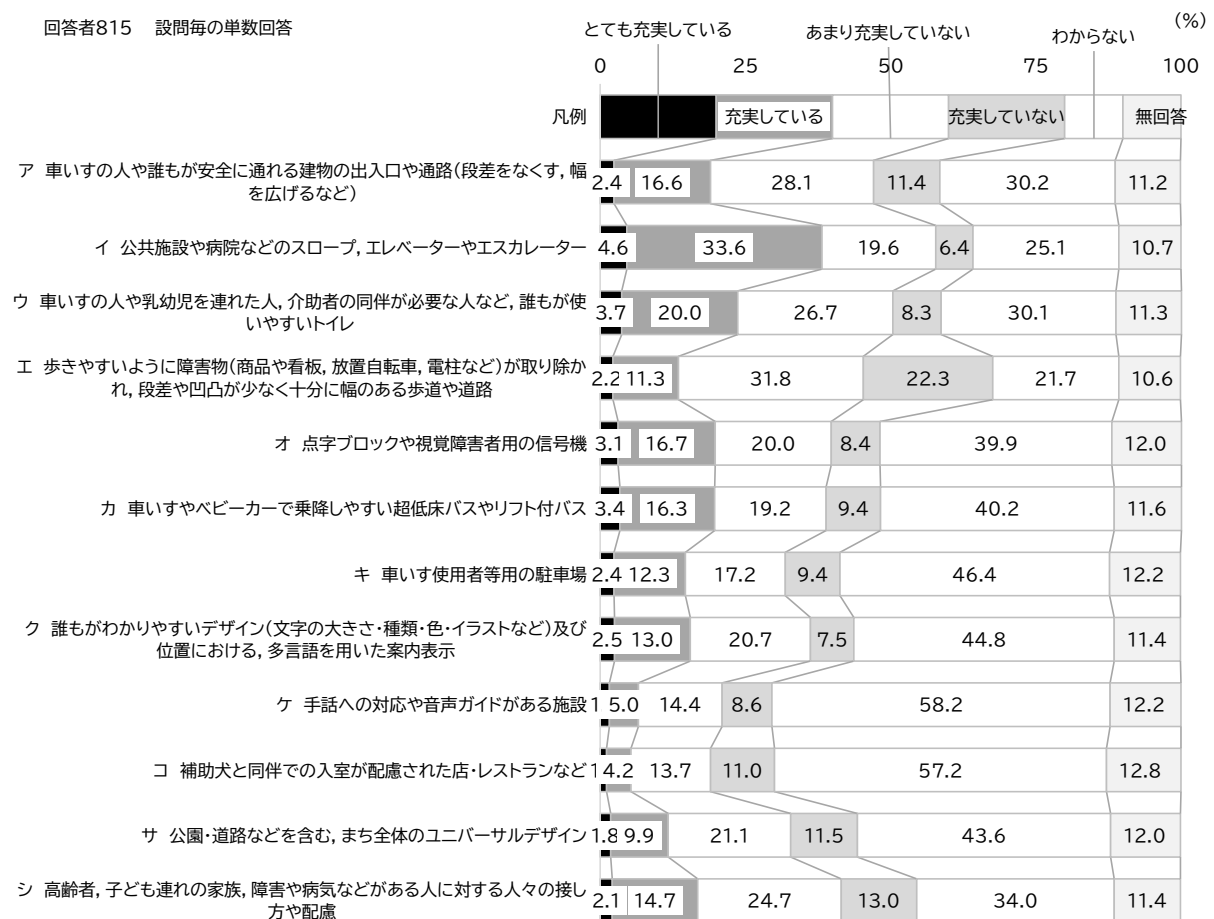
< 『住みやすい』の割合 >

	住みやすいと思う	どちらかといえば、住みやすいと思う	どちらかといえば、住みやすくないと思わない	住みやすくないと思わない	無回答	『住みやすい』
全体 (N=981)	22.3	54.2	12.0	6.4	5.0	76.5
身体障害 (64歳以下) (n=213)	18.3	56.3	15.0	7.5	2.8	74.6
身体障害 (65歳以上) (n=237)	25.3	50.6	11.0	4.2	8.9	75.9
知的障害 (n=182)	29.7	52.2	7.1	6.6	4.4	81.9
精神障害 (n=177)	19.2	52.0	15.3	8.5	5.1	71.2
難病 (n=172)	18.6	61.0	11.6	5.8	2.9	79.6

問 26 市内のバリアフリーについて、どのように感じていますか。（それぞれ1つに○）

- 市内のバリアフリー化の評価について、「とても充実している」と「充実している」の合わせた『充実している』の割合は、「公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（38.2%）」が最も多く、「車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（23.7%）」、「点字ブロックや視覚障害者用の信号機（19.8%）」が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、「歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路（54.1%）」が最も多く、「車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（39.5%）」が続いている。

図表_障害者／市内のバリアフリー化の評価（全体）



【回答者属性分析】

- 市内のバリアフリー化の『充実している』の割合を障害等別にみると、すべての属性で「公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター」が最も多くなっている。

図表_障害者／市内のバリアフリー化の評価（障害別）

<『充実している』の割合>

	車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）	公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ	歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路	点字ブロックや視覚障害者用の信号機	車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス	車いす利用者等用の駐車場	誰もがわかりやすいデザイン（文字の大きさ・種類・色・イラストなど）及び位置における、多言語を用いた案内表示	手話への対応や音声ガイドがある施設	補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	公園・道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮
全体（N=981）	19.0	38.2	23.7	13.5	19.8	19.7	14.7	15.5	6.6	5.3	11.7	16.8
身体障害（64歳以下） （n=213）	19.3	40.8	22.1	12.6	16.4	18.8	15.4	19.7	6.6	4.7	11.3	17.3
身体障害（65歳以上） （n=237）	16.0	37.6	18.6	10.1	15.6	13.5	7.2	6.7	2.5	1.2	7.2	13.5
知的障害（n=182）	23.0	39.5	28.5	19.2	23.6	22.0	19.2	19.2	11.0	11.0	14.8	18.6
精神障害（n=177）	22.6	37.9	27.1	13.6	22.6	23.7	14.7	21.5	8.5	7.4	14.7	17.5
難病（n=172）	15.1	34.8	23.9	13.4	22.6	22.7	19.7	12.7	5.9	3.5	12.2	18.1

- 一方、市内のバリアフリー化の『充実していない』の割合を障害等別にみると、すべての属性で「歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく，十分に幅のある歩道や道路」が最も多くなっている。

図表_障害者／市内のバリアフリー化の評価（障害別）

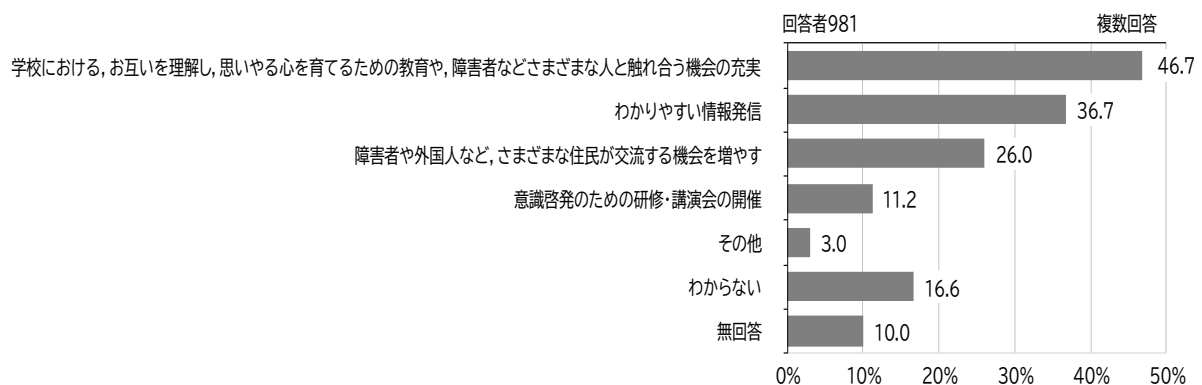
<『充実していない』の割合>

	車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす，幅を広げるなど）	公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター	車いすの人や乳幼児を連れた人，介助者の同伴が必要な人など，誰もが使いやすいトイレ	歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路	点字ブロックや視覚障害者用の信号機	車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス	車いす利用者等用の駐車場	誰もがわかりやすいデザイン（文字の大きさ・種類・色・イラストなど）及び位置における，多言語を用いた案内表示	手話への対応や音声ガイドがある施設	補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	公園・道路などを含む，まち全体のユニバーサルデザイン	高齢者，子ども連れの家族，障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮
全体（N=981）	39.5	26.0	35.0	54.1	28.4	28.6	26.6	28.2	23.0	24.7	32.6	37.7
身体障害（64歳以下） （n=213）	46.5	32.9	42.3	61.5	30.1	32.0	32.0	29.6	22.5	22.6	39.9	45.0
身体障害（65歳以上） （n=237）	40.9	25.7	35.0	56.9	28.3	33.3	32.1	29.6	18.2	21.1	32.5	35.8
知的障害（n=182）	31.9	20.8	29.1	46.7	27.4	23.6	21.9	25.2	25.8	26.3	25.3	34.6
精神障害（n=177）	32.2	19.8	30.0	49.1	25.9	23.7	23.7	26.5	25.4	27.7	31.1	36.7
難病（n=172）	44.8	29.7	37.2	54.0	29.7	27.9	20.4	29.6	24.4	27.3	33.1	35.5

問 27 誰もが暮らしやすい地域づくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思えますか。（2つまで○）

○ 心のバリアフリーのための取組は、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（46.7%）」が最も多く、「わかりやすい情報発信（36.7%）」、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす（26.0%）」が続いている。

図表_障害者／心のバリアフリーのための取組（全体）



【回答者属性分析】

- 心のバリアフリーのための取組の割合を障害等別にみると、すべての属性で「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が最も多くなっている。
- 精神障害、難病で「わかりやすい情報発信」が4割台となっている。

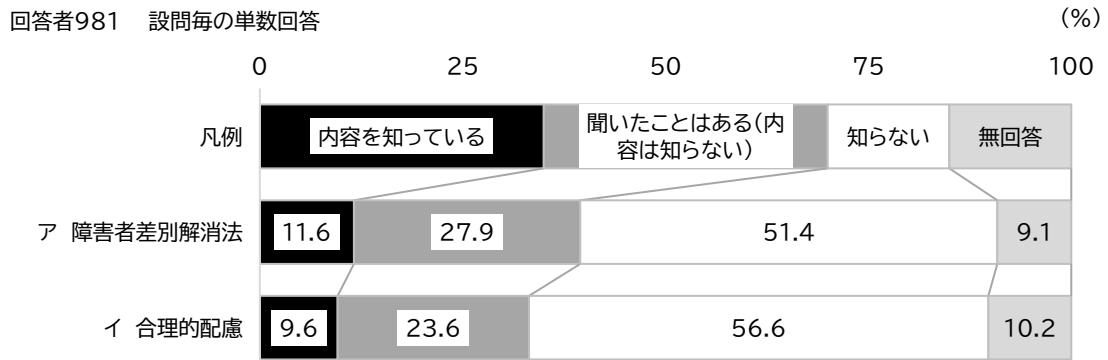
図表_障害者/心のバリアフリーのための取組（障害別：複数回答（2つまで））

	学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実	意識啓発のための研修・講演会の開催	障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす	わかりやすい情報発信	その他	わからない	無回答
全体（N=981）	46.7	11.2	26.0	36.7	3.0	16.6	10.0
身体障害（64歳以下） （n=213）	52.6	9.9	30.5	37.6	3.8	15.0	4.7
身体障害（65歳以上） （n=237）	40.1	9.7	26.2	34.6	1.3	16.9	14.3
知的障害（n=182）	44.0	9.9	24.7	29.7	1.6	25.3	12.1
精神障害（n=177）	49.7	18.1	23.2	40.7	5.6	13.0	7.3
難病（n=172）	48.3	9.3	24.4	41.9	2.9	12.8	11.0

問 28 お互いにその人らしさを認め合い、ともに生きる社会をめざす法律や取組をご存知ですか。（それぞれ1つに○）

- お互いにその人らしさを認め合い、ともに生きる社会をめざす法律や取組について、「内容を知っている」の割合は、「障害者差別解消法（11.6%）」、「合理的配慮（9.6%）」である。

図表_障害者/障害者差別解消法についての認知度（全体）



【回答者属性分析】

ア 障害者差別解消法

- 障害者差別解消法の認知度の割合を障害等別にみると、すべての属性で「知らない」が最も多くなっている。

図表_障害者/障害者差別解消法の認知度（障害別）

	内容を知っている	聞いたことはある(内容は知らない)	知らない	無回答
全体 (N=981)	11.6	27.9	51.4	9.1
身体障害 (64歳以下) (n=213)	17.4	35.2	45.1	2.3
身体障害 (65歳以上) (n=237)	8.4	24.5	52.3	14.8
知的障害 (n=182)	9.9	24.7	52.7	12.6
精神障害 (n=177)	10.2	31.1	52.5	6.2
難病 (n=172)	12.2	23.8	55.2	8.7

イ 合理的配慮

- 合理的配慮の認知度の割合を障害等別にみると、すべての属性で「知らない」が最も多くなっている。

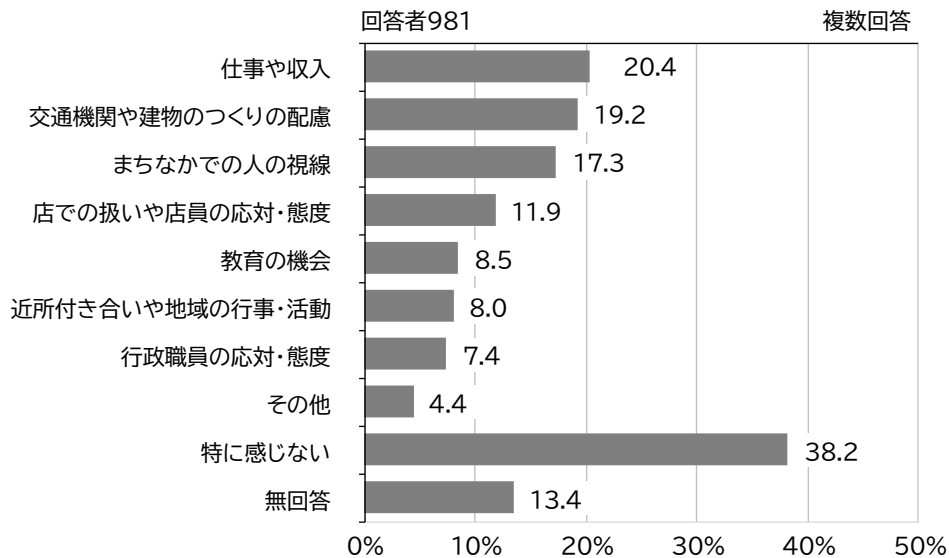
図表 障害者／合理的配慮の認知度（障害別）

	内容を知っている	聞いたことはある (内容は知らない)	知らない	無回答
全体 (N=981)	9.6	23.6	56.6	10.2
身体障害 (64歳以下) (n=213)	14.6	29.1	53.1	3.3
身体障害 (65歳以上) (n=237)	4.6	19.0	59.5	16.9
知的障害 (n=182)	8.2	18.1	60.4	13.2
精神障害 (n=177)	11.3	27.1	53.7	7.9
難病 (n=172)	9.9	25.6	55.8	8.7

問 29 普段の暮らしや外出のとき、障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面はありますか。（いくつでも○）

○ 障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面は、「特に感じない（38.2%）」が最も多く、「仕事や収入（20.4%）」、「交通機関や建物のつくりの配慮（19.2%）」が続いている。

図表_障害者／障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面（全体）



【回答者属性分析】

- 障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面の割合を障害等別にみると、身体障害（64歳以下）は「交通機関や建物のつくりの配慮」、知的障害は「まちなかでの人の視線」、精神障害は「仕事や収入」が最も多くなっている。
- 身体障害（65歳以上）、難病は「特に感じない」が最も多く、それを除くと、「交通機関や建物のつくりの配慮」が多くなっている。

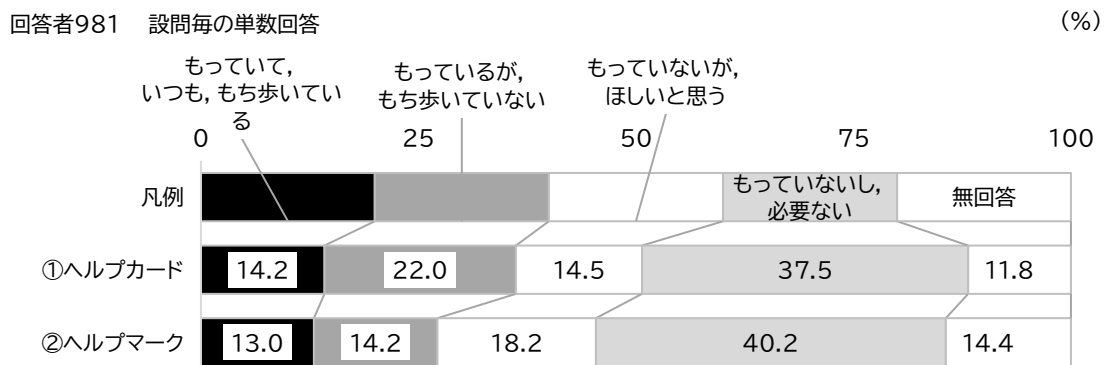
図表_障害者／障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面（障害別：複数回答）

	教育の機会	仕事や収入	近所付き合いや地域の行事・活動	店での扱いや店員の対応・態度	まちなかでの人の視線	交通機関や建物のつくりの配慮	行政職員の対応・態度	その他	特に感じない	無回答
全体（N=981）	8.5	20.4	8.0	11.9	17.3	19.2	7.4	4.4	38.2	13.4
身体障害（64歳以下） （n=213）	8.9	23.0	4.7	16.9	23.0	29.1	9.9	8.5	28.6	7.5
身体障害（65歳以上） （n=237）	3.0	4.2	4.6	8.4	6.3	19.0	5.1	2.1	53.2	16.5
知的障害（n=182）	15.9	29.7	15.4	14.8	32.4	11.0	8.2	1.6	29.7	13.7
精神障害（n=177）	10.2	37.9	11.9	13.0	17.5	15.3	8.5	6.8	29.4	11.9
難病（n=172）	5.8	11.6	4.7	6.4	9.3	19.8	5.8	2.9	47.7	17.4

問 30 あなたは、調布市が配布しているヘルプカード※、ヘルプマーク※をもっていますか。
(それぞれ1つに○)

- ヘルプカードの所持について、「もっていないし、必要ない (37.5%)」が最も多く、「もっているが、もち歩いていない (22.0%)」が続いている。
- ヘルプマークの所持について、「もっていないし、必要ない (40.2%)」が最も多く、「もっていないが、ほしいと思う (18.2%)」が続いている。

図表_障害者/ヘルプカード・ヘルプマークの所持について (全体)



【回答者属性分析】

- ① ヘルプカード
 - ヘルプカードの所持の割合を障害等別にみると、身体障害 (64 歳以下) は「もっているが、もち歩いていない」と「もっていないし、必要ない」、身体障害 (65 歳以上)、精神障害、知的障害は「もっているが、もち歩いていない」が最も多くなっている。
 - 難病は「もっていないし、必要ない」が最も多く、6 割台となっている。

図表_障害者/ヘルプカードの所持について (障害別)

	持っている、いつも、もち歩いている	もっているが、もち歩いていない	もっていないが、ほしいと思う	もっていないし、必要ない	無回答
全体 (N=981)	14.2	22.0	14.5	37.5	11.8
身体障害 (64 歳以下) (n=213)	15.5	31.9	14.1	31.9	6.6
身体障害 (65 歳以上) (n=237)	17.7	20.7	14.3	30.4	16.9
知的障害 (n=182)	19.8	27.5	11.5	26.9	14.3
精神障害 (n=177)	11.9	25.4	17.5	36.7	8.5
難病 (n=172)	4.1	2.3	15.1	66.3	12.2

② ヘルプマーク

- ヘルプマークの所持の割合を障害等別にみると、すべての属性で「もっていないし、必要ない」が最も多くなっている。
- 身体障害（64歳以下）で「もっているが、もち歩いている」が2割台となっている。

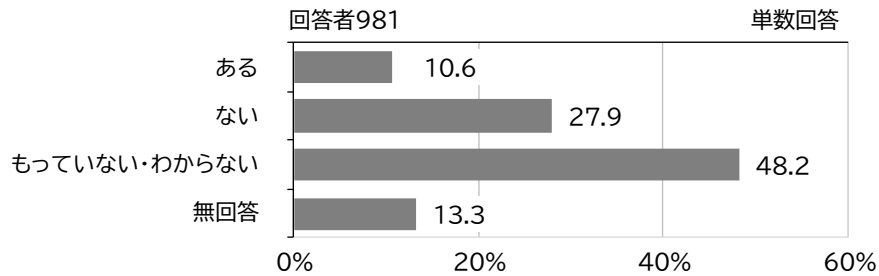
図表_障害者／ヘルプマークの所持について（障害別）

	もっているが、もち歩いている	もっているが、もち歩いていない	もっていないが、ほしいと思う	もっていないし、必要ない	無回答
全体（N=981）	13.0	14.2	18.2	40.2	14.4
身体障害（64歳以下） （n=213）	21.1	21.6	15.0	35.7	6.6
身体障害（65歳以上） （n=237）	12.2	14.8	19.8	32.1	21.1
知的障害（n=182）	12.6	15.9	20.9	32.4	18.1
精神障害（n=177）	10.2	14.1	19.2	42.4	14.1
難病（n=172）	7.6	2.3	16.3	62.8	11.0

問 31 ヘルプカードやヘルプマークを持っていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークの効果の実感は、「もっていない・わからない(48.2%)」が最も多く、「ない(27.9%)」が続いている。

図表_障害者/ヘルプカードやヘルプマークの効果の実感(全体)



【回答者属性分析】

- ヘルプカードやヘルプマークの効果の実感の割合を障害等別にみると、すべての属性で「もっていない・わからない」が最も多くなっている。
- 「もっていない・わからない」を除くと、すべての属性で「ない」が多くなっている。

図表_障害者/ヘルプカードやヘルプマークの効果の実感(障害別)

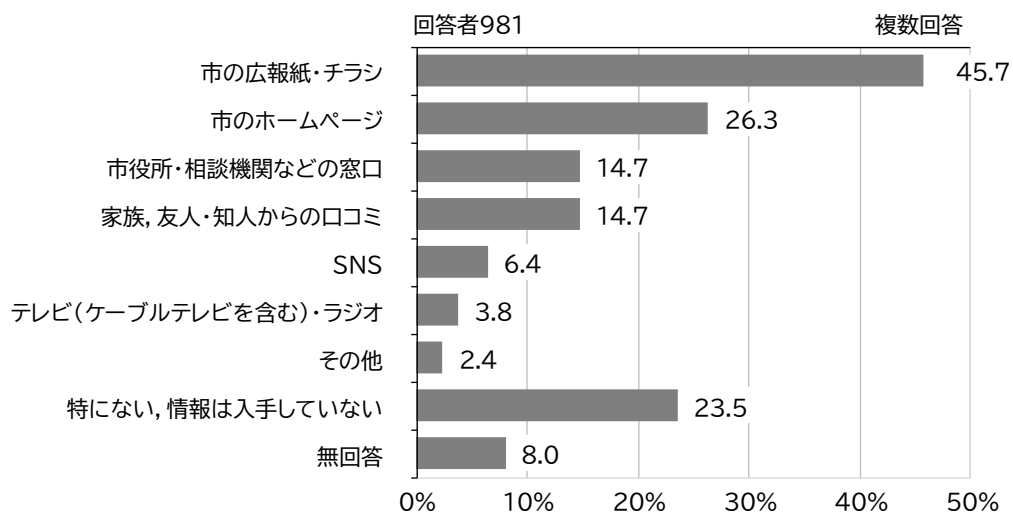
	ある	ない	もっていない・わからない	無回答
全体 (N=981)	10.6	27.9	48.2	13.3
身体障害 (64歳以下) (n=213)	16.0	28.6	46.0	9.4
身体障害 (65歳以上) (n=237)	11.0	34.6	38.0	16.5
知的障害 (n=182)	8.8	36.3	40.7	14.3
精神障害 (n=177)	11.3	24.9	50.8	13.0
難病 (n=172)	4.7	12.2	70.3	12.8

7 デジタルの活用についておたずねします

問 32 調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。
（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は、「市の広報紙・チラシ（45.7%）」が最も多く、「市のホームページ（26.3%）」、「特にない、情報は入手していない（23.5%）」が続いている。

図表_障害者／市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先（全体）



【回答者属性分析】

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先の割合を障害等別にみると、すべての属性で「市の広報紙・チラシ」が最も多くなっている。

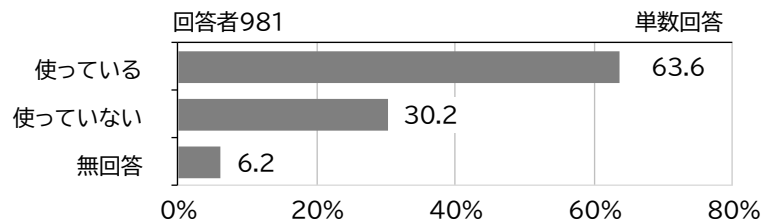
図表_障害者／市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先（障害別：複数回答）

	市のホームページ	市の広報紙・チラシ	市役所・相談機関などの窓口	テレビ(ケーブルテレビを含む)・ラジオ	家族、友人・知人からの口コミ	SNS	その他	特にない、情報は入手していない	無回答
全体 (N=981)	26.3	45.7	14.7	3.8	14.7	6.4	2.4	23.5	8.0
身体障害 (64歳以下) (n=213)	37.1	46.5	17.4	3.8	12.7	8.9	3.8	21.6	3.8
身体障害 (65歳以上) (n=237)	18.6	49.4	11.4	1.3	16.5	2.1	1.3	26.2	10.1
知的障害 (n=182)	13.7	36.3	11.0	4.9	22.5	4.9	2.2	29.1	12.1
精神障害 (n=177)	26.0	45.8	27.1	5.6	11.9	6.8	4.5	22.6	6.2
難病 (n=172)	37.2	49.4	7.0	4.1	9.3	10.5	0.6	17.4	7.6

問 33 普段、スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使っていますか。(1つに○)

- 情報端末やパソコンなどの使用状況は、「使っている(63.6%)」、「使っていない(30.2%)」である。

図表_障害者/情報端末やパソコンなどの使用状況(全体)



【回答者属性分析】

- 情報端末やパソコンなどの使用状況の割合を障害等別にみると、身体障害(65歳以上)は「使っていない」が最も多く、その他の属性で「使っている(74.4%)」が最も多くなっている。

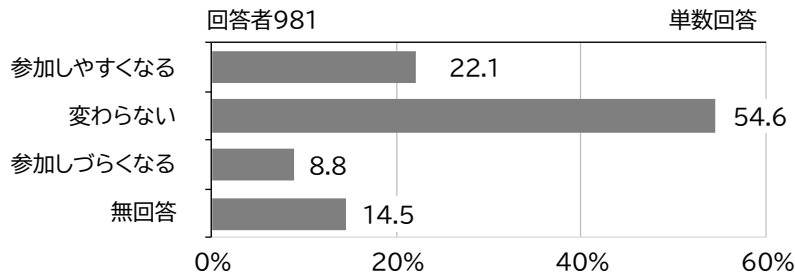
図表_障害者/情報端末やパソコンなどの使用状況(障害別)

	使っている	使っていない	無回答
全体 (N=981)	63.6	30.2	6.2
身体障害 (64歳以下) (n=213)	77.9	18.3	3.8
身体障害 (65歳以上) (n=237)	42.2	50.2	7.6
知的障害 (n=182)	54.4	37.9	7.7
精神障害 (n=177)	74.0	20.3	5.6
難病 (n=172)	74.4	19.2	6.4

問 34 市や社会福祉協議会の講座やイベントがオンラインで開催されたら、参加しやすくなりますか。(1つに○)

- 市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさは、「変わらない(54.6%)」が最も多く、「参加しやすくなる(22.1%)」が続いている。

図表_障害者/市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさ(全体)



【回答者属性分析】

- 市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさの割合を障害等別にみると、すべての属性で「変わらない」が最も多くなっている。
- 知的障害を除き、「参加しやすくなる」が「参加しづらくなる」を上回っている。

図表_障害者/市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさ(障害別)

	参加しやすくなる	変わらない	参加しづらくなる	無回答
全体(N=981)	22.1	54.6	8.8	14.5
身体障害(64歳以下)(n=213)	28.6	57.3	6.1	8.0
身体障害(65歳以上)(n=237)	14.3	52.7	11.8	21.1
知的障害(n=182)	11.5	57.1	14.8	16.5
精神障害(n=177)	30.5	52.5	6.8	10.2
難病(n=172)	27.3	53.5	3.5	15.7

問 35 あなたがスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。（自由記述）

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアについてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、142 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

図表_障害者／スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと（自由意見）

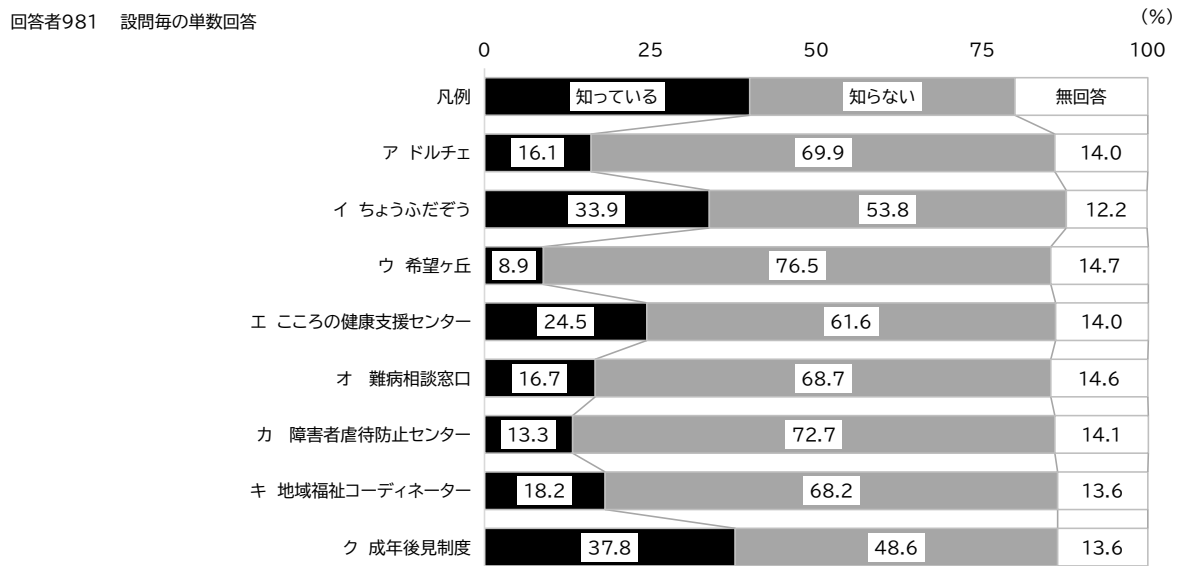
項目	主な意見	意見数
情報端末やパソコンの普及について	パソコン講習会について 情報弱者への対応 働き方改革 障害者同士の交流の推進	30
市の電子化について	市の申請などの電子化の推進 市の情報提供の充実 市のイベント、講演などのオンライン開催 防災情報の充実	66
その他	同じ病気のコミュニティの構築 電子化への要望	46
	合計	142

8 調布市の障害者福祉施策についておたずねします

問 36 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。（それぞれ1つに○）

○ 市の相談窓口の認知度について、「知っている」の割合は、「成年後見制度（37.8%）」が最も多く、「ちょうふだぞう（33.9%）」、「こころの健康支援センター（24.5%）」が続いている。

図表 4-74 市の相談窓口の認知度（全体）



【回答者属性分析】

- 市の相談窓口の認知度について、「知っている」の割合を障害等別にみると、身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上）は「成年後見制度」，知的障害は「ちょうふだぞう」，精神障害は「こころの健康支援センター」，難病は「難病相談窓口」が最も多くなっている。

図表 4-75 市の相談窓口の認知度（障害別）

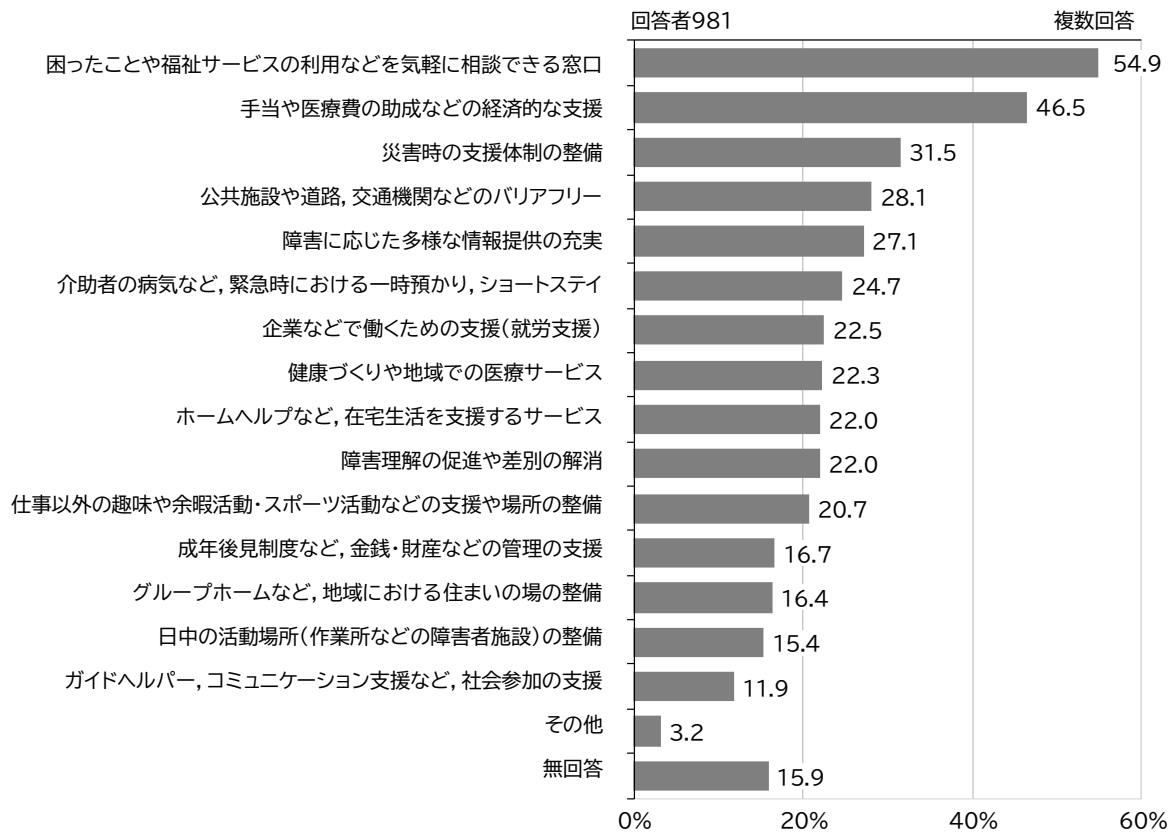
<「知っている」の割合>

	ドルチエ	ちょうふだぞう	希望ヶ丘	こころの健康支援センター	難病相談窓口	障害者虐待防止センター	地域福祉コーディネーター	成年後見制度
全体（N=981）	16.1	33.9	8.9	24.5	16.7	13.3	18.2	37.8
身体障害（64歳以下） （n=213）	31.9	35.7	9.9	16.0	16.4	11.7	18.3	43.2
身体障害（65歳以上） （n=237）	15.2	13.9	7.6	16.9	13.5	15.2	22.8	40.1
知的障害（n=182）	11.5	83.5	10.4	32.4	6.6	17.0	17.0	33.5
精神障害（n=177）	11.9	24.3	11.9	42.4	5.1	8.5	10.7	34.5
難病（n=172）	7.0	16.9	4.7	18.6	44.2	13.4	20.9	36.0

問 37 調布市の障害者福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害者福祉施策（サービス）において重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（54.9%）」が最も多く、「手当や医療費の助成などの経済的な支援（46.5%）」、「災害時の支援体制の整備（31.5%）」が続いている。

図表 4-76 今後力を入れるべき障害者福祉施策（サービス）（全体）



【回答者属性分析】

- 市の障害者福祉施策（サービス）において重要な取組の割合を障害等別にみると、すべての属性で「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」が最も多くなっている。
- 身体障害（64歳以下）、精神障害、難病で「手当や医療費の助成などの経済的な支援」が5割台となっている。

図表 4-77 市の障害者福祉施策（サービス）において重要な取組（障害別：複数回答）

	困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	手当や医療費の助成などの経済的な支援	成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	ガイドヘルパー、コミュニケーション支援など、社会参加の支援	介助者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ	日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備	企業などで働くための支援（就労支援）
全体（N=981）	54.9	22.3	46.5	16.7	22.0	11.9	24.7	15.4	22.5
身体障害（64歳以下） （n=213）	61.0	23.0	59.2	16.9	23.0	14.1	23.5	15.5	31.9
身体障害（65歳以上） （n=237）	47.3	21.1	38.4	8.9	23.2	4.6	24.9	6.8	6.3
知的障害（n=182）	51.6	17.6	34.6	29.7	20.9	17.0	32.4	28.6	22.0
精神障害（n=177）	61.0	28.8	50.8	19.8	26.6	17.5	20.3	23.2	37.9
難病（n=172）	55.2	21.5	50.0	10.5	15.7	8.1	22.1	5.2	18.0

	仕事以外の趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備	グループホームなど、地域における住まいの場の整備	障害理解の促進や差別の解消	公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	障害に応じた多様な情報提供の充実	災害時の支援体制の整備	その他	無回答
全体（N=981）	20.7	16.4	22.0	28.1	27.1	31.5	3.2	15.9
身体障害（64歳以下） （n=213）	19.2	14.6	25.8	37.1	31.5	36.6	7.0	7.0
身体障害（65歳以上） （n=237）	15.6	6.3	9.7	30.8	21.9	30.4	0.4	24.1
知的障害（n=182）	26.9	37.9	27.5	18.7	23.6	30.8	0.5	18.7
精神障害（n=177）	28.8	16.9	38.4	24.3	38.4	30.5	5.6	16.4
難病（n=172）	14.5	9.3	11.6	27.3	20.9	28.5	2.3	12.2

問 38 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

- 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、345 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

図表_障害者／自由意見

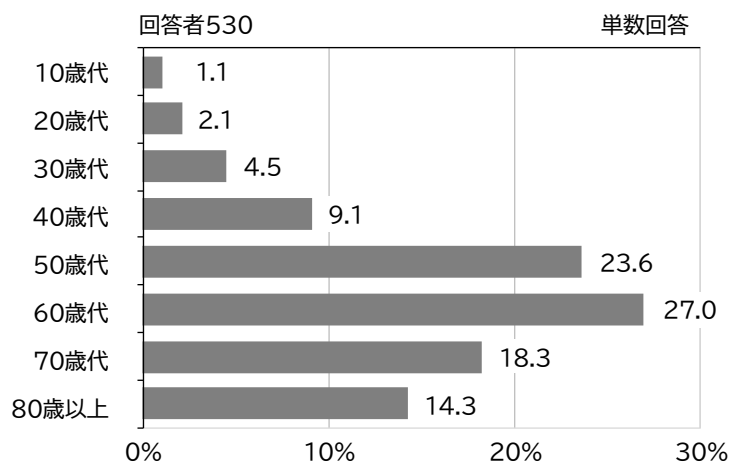
項目	主な意見	意見数
ア 地域活動，市民 同士の支え合い	自治会活動の活性化 支え合いについて 地域活動の参加しやすい情報 近所づきあい 声かけ ボランティア活動の充実 お祭りなどの行事の開催 障害についての教育の充実	88
イ 相談，サービス	市のサービスについて サービス等の情報提供 相談体制の充実 介護・医療のサービス充実 経済的な助成について	102
ウ 安全・安心	交通安全 バリアフリー化の推進 防災の充実 防犯の強化 見守りの強化 個人情報保護について	76
エ 上記以外	生活環境・環境美化の充実 市の施策について 介護，医療，福祉，子育てについて 障害に応じた対応 交通網の利便性 共生社会の推進 アンケートについて	79
	合計	345

9 主に本人の介助や支援をしているご家族におたずねします

問 39 あなたを主に介助や支援をしているご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。主に介助や支援をしている人の年齢を教えてください。（1つに○）

- 主な介護者の年齢は、「60歳代（27.0%）」が最も多く、「50歳代（23.6%）」、「70歳代（18.3%）」が続いている。

図表_障害者／主な介護者の年齢（全体）



（注）回答者（無回答を除いた）を全数として割合を算出

【回答者属性分析】

- 主な介護者の年齢の割合を障害等別にみると、身体障害（64歳以下）は「60歳代」、身体障害（65歳以上）、難病は「80歳以上」、知的障害は「50歳代」、精神障害は「70歳代」が最も多くなっている。

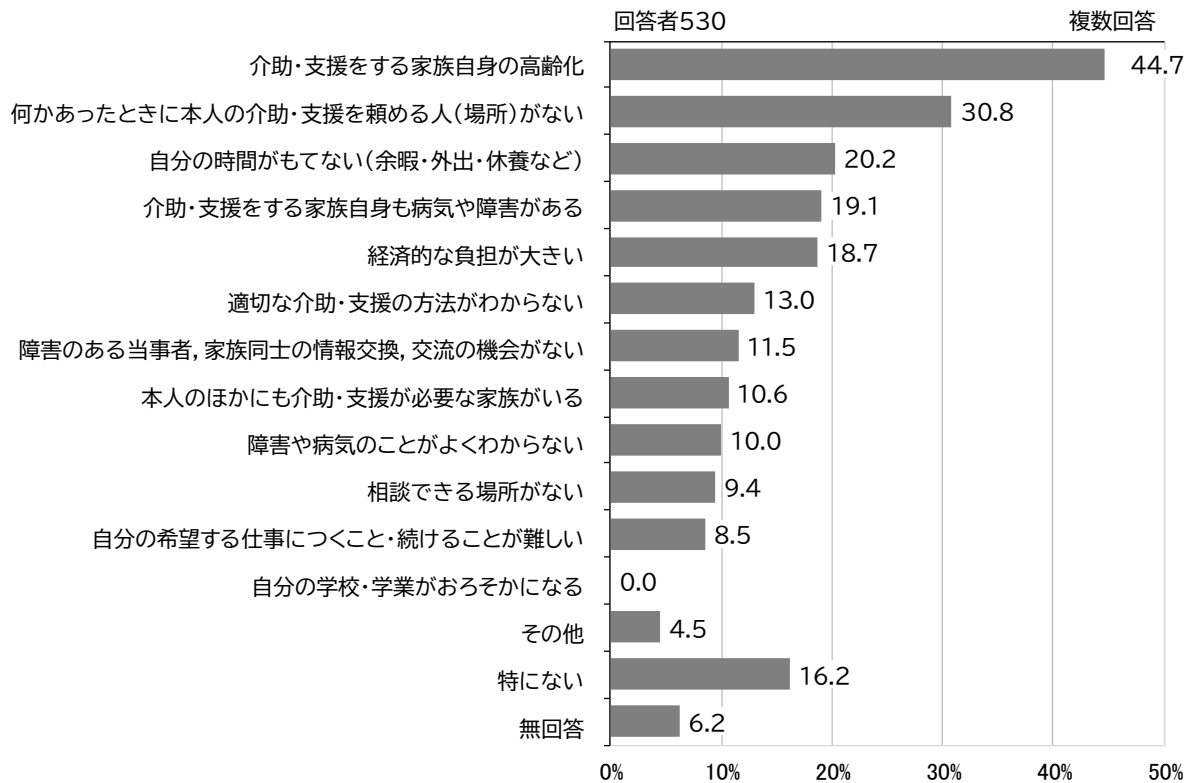
図表_障害者／主な介護者の年齢（障害別）

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体（n=530）	1.1	2.1	4.5	9.1	23.6	27.0	18.3	14.3
身体障害（64歳以下） （n=118）	2.5	2.5	6.8	11.9	28.0	34.7	7.6	5.9
身体障害（65歳以上） （n=118）	0.0	0.0	0.0	6.8	11.9	26.3	27.1	28.0
知的障害（n=139）	1.4	2.9	1.4	5.0	33.8	31.7	16.5	7.2
精神障害（n=89）	1.1	2.2	10.1	9.0	21.3	18.0	23.6	14.6
難病（n=66）	0.0	3.0	7.6	16.7	18.2	16.7	18.2	19.7

問 40 あなたを主に介助や支援をしているご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助や支援にあたってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

○ 主な介護者の不安や困りごとは、「介助・支援をする家族自身の高齢化（44.7%）」が最も多く、「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない（30.8%）」、「自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）（20.2%）」が続いている。

図表_障害者／主な介護者の不安や困りごと（全体）



（注）問 39 の回答者を全数として割合を算出

【回答者属性分析】

- 主な介護者の不安や困りごとの割合を障害等別にみると、すべての属性で「介助・支援をする家族自身の高齢化」が最も多くなっている。加えて、難病は「特にない」も多くなっている。
- 精神障害で「経済的な負担が大きい」が3割台となっている。

図表 障害者／主な介護者の不安や困りごと（障害別：複数回答）

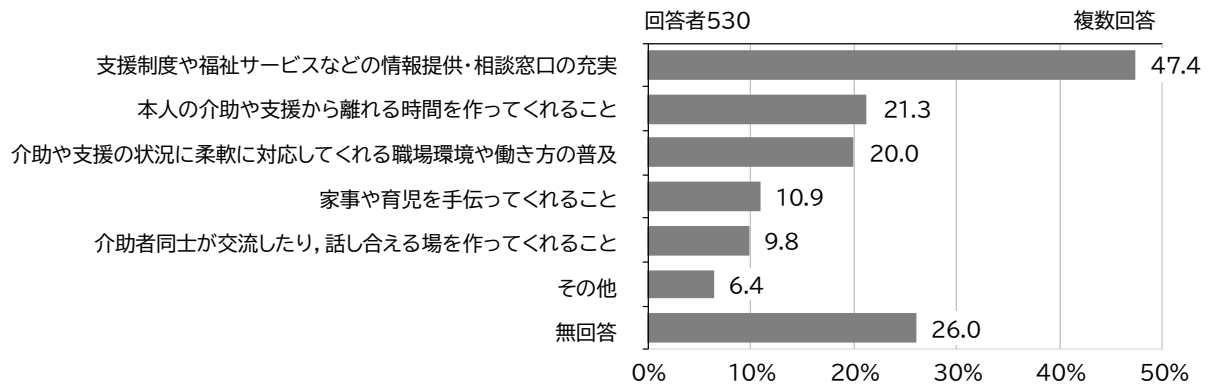
	障害や病気がよくなるから ない	適切な介助・支援の方法が わからない	自分の時間がもてない（余 暇・外出・休養など）	自分の希望する仕事につく こと・続けることが難しい	自分の学校・学業がおろそ かになる	介助・支援をする家族自身 の高齢化	介助・支援をする家族自身 も病気や障害がある	本人のほかに介助・支援 が必要な家族がいる
全体（N=530）	10.0	13.0	20.2	8.5	0.0	44.7	19.1	10.6
身体障害（64歳以下） （n=118）	8.5	13.6	20.3	8.5	0.0	37.3	17.8	5.1
身体障害（65歳以上） （n=118）	11.0	13.6	24.6	3.4	0.0	44.9	20.3	11.9
知的障害（n=139）	1.4	5.8	18.0	11.5	0.0	58.3	13.7	14.4
精神障害（n=89）	19.1	21.3	19.1	12.4	0.0	48.3	29.2	15.7
難病（n=66）	16.7	15.2	18.2	6.1	0.0	24.2	16.7	3.0

	何かあったときに本人の介助・ 支援を頼める人（場所）がない	相談できる場所がない	障害のある当事者、家族同士の 情報交換、交流の機会がない	経済的な負担が大きい	その他	特にない	無回答
全体（N=530）	30.8	9.4	11.5	18.7	4.5	16.2	6.2
身体障害（64歳以下） （n=118）	33.1	8.5	16.9	15.3	8.5	16.1	6.8
身体障害（65歳以上） （n=118）	25.4	13.6	5.1	19.5	0.8	15.3	7.6
知的障害（n=139）	36.7	5.8	15.1	12.2	4.3	16.5	1.4
精神障害（n=89）	31.5	15.7	14.6	33.7	6.7	11.2	9.0
難病（n=66）	22.7	3.0	1.5	16.7	1.5	24.2	9.1

問 41 あなたを主に介助や支援をしているご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。 介助する人への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）

- 介助する人への支援は、「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実（47.4%）」が最も多く、「本人の介助や支援から離れる時間を作ってくれること（21.3%）」、「介助や支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及（20.0%）」が続いている。

図表_障害者／介助する人への支援（全体）



（注）問 39 の回答者を全数として割合を算出

【回答者属性分析】

- 介助する人への支援の割合を障害等別にみると、すべての属性で「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」が最も多くなっている。
- 精神障害で「家事や育児を手伝ってくれること」が2割台となっている。

図表_障害者／介助する人への支援（障害別：複数回答）

	介助者同士が交流したり、話し合える場を作ってくれること	本人の介助や支援から離れる時間を作ってくれること	家事や育児を手伝ってくれること	介助や支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及	支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実	その他	無回答
全体（N=530）	9.8	21.3	10.9	20.0	47.4	6.4	26.0
身体障害（64歳以下） （n=118）	7.6	18.6	9.3	21.2	40.7	9.3	24.6
身体障害（65歳以上） （n=118）	5.9	24.6	7.6	9.3	43.2	3.4	33.1
知的障害（n=139）	14.4	25.2	4.3	26.6	54.7	7.9	21.6
精神障害（n=89）	12.4	22.5	27.0	25.8	51.7	6.7	21.3
難病（n=66）	7.6	10.6	12.1	15.2	45.5	3.0	31.8

第5章 障害児（18歳未満）の保護者調査結果

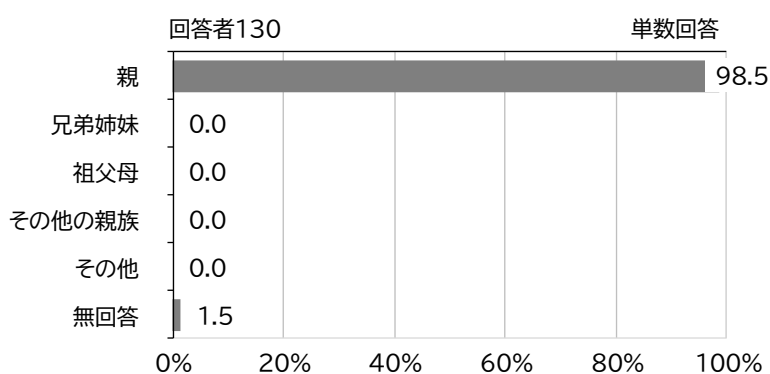
【調査名】子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 保護者（調査に回答していただく人）についておたずねします

問1 あて名のお子さんからみて、保護者（回答者）はどなたですか。（1つに○）

○ 回答者は、「親（98.5%）」である。

図表_障害児の保護者／回答者（全体）



【回答者属性分析】

○ 回答者の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後ともに、「親」が最も多くなっている。

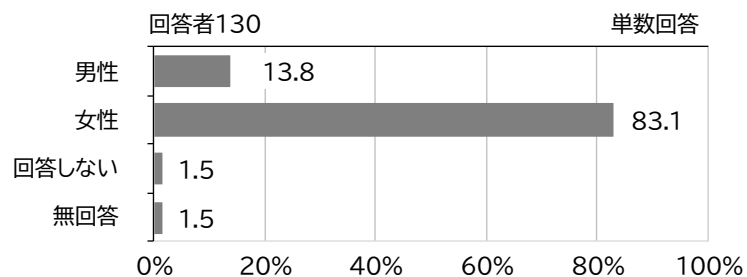
図表_障害児の保護者／回答者（就学区分別）

	親	兄弟姉妹	祖父母	その他の親族	その他	無回答
全体 (N=130)	98.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
小学校就学前 (n=41)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学校就学後 (n=88)	97.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3

問2 保護者の性別を教えてください。(1つに○)

○ 保護者の性別は、「男性(13.8%)」、「女性(83.1%)」、「回答しない(1.5%)」である。

図表_障害児の保護者/保護者の性別(全体)



【回答者属性分析】

○ 保護者の性別の割合を就学区別にみると、小学校就学前、小学校就学後ともに、「女性」が最も多くなっている。

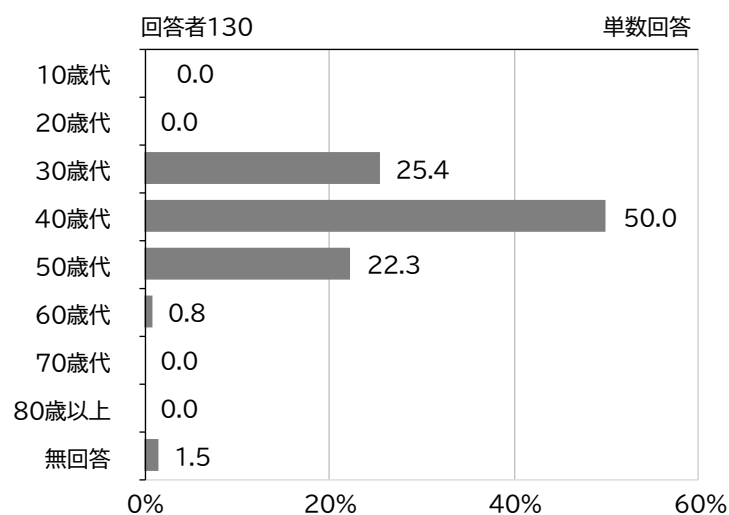
図表_障害児の保護者/保護者の性別(就学区別)

	男性	女性	回答しない	無回答
全体 (N=130)	13.8	83.1	1.5	1.5
小学校就学前 (n=41)	17.1	80.5	2.4	0.0
小学校就学後 (n=88)	12.5	84.1	1.1	2.3

問3 保護者の年齢を教えてください。(1つに○) (令和4年10月1日現在)

- 保護者の年齢は、「40歳代(50.0%)」が最も多く、「30歳代(25.4%)」,「50歳代(22.3%)」が続いている。

図表_障害児の保護者/保護者の年齢(全体)



【回答者属性分析】

- 保護者の年齢の割合を就学区別にみると、小学校就学前は「30歳代(61.0%)」,小学校就学後は「40歳代(58.0%)」が最も多くなっている。

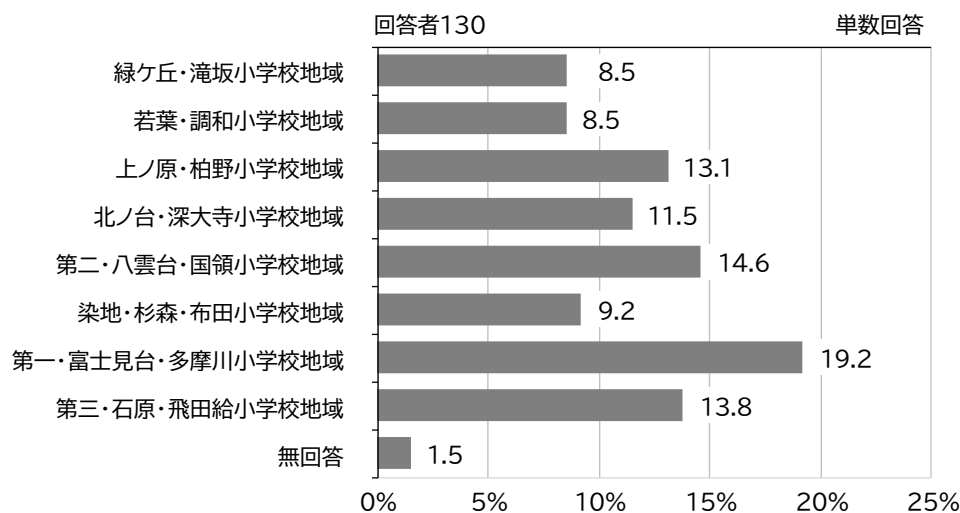
図表_障害児の保護者/保護者の年齢(就学区別)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
全体(N=130)	0.0	0.0	25.4	50.0	22.3	0.8	0.0	0.0	1.5
小学校就学前 (n=41)	0.0	0.0	61.0	34.1	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0
小学校就学後 (n=88)	0.0	0.0	9.1	58.0	29.5	1.1	0.0	0.0	2.3

問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域は、「第一・富士見台・多摩川(19.2%)」が最も多く、「第二・八雲台・国領(14.6%)」,「第三・石原・飛田給(13.8%)」が続いている。

図表_障害児の保護者/居住地域(全体)



【回答者属性分析】

- 居住地域の割合を就学区別にみると、小学校就学前は「第一・富士見台・多摩川(22.0%)」と「第三・石原・飛田給(22.0%)」、小学校就学後は「第一・富士見台・多摩川(18.2%)」が最も多くなっている。

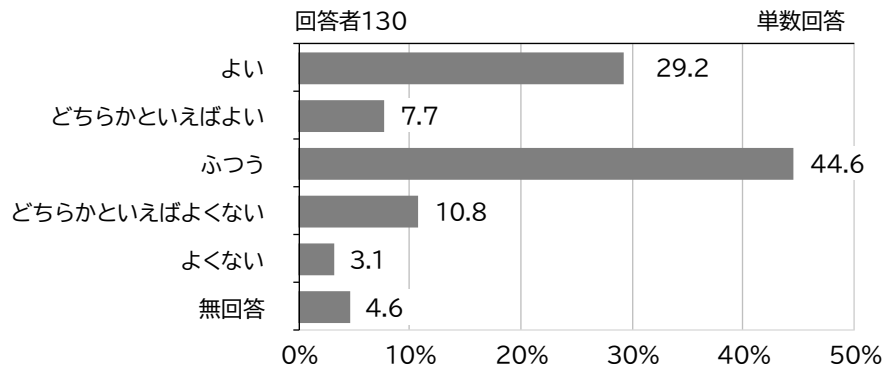
図表_障害児の保護者/居住地域(就学区別)

	緑ヶ丘・滝坂	若葉・調和	上ノ原・柏野	北ノ台・深大寺	第二・八雲台・国領	染地・杉森・布田	第一・富士見台・多摩川	第三・石原・飛田給	無回答
全体 (N=130)	8.5	8.5	13.1	11.5	14.6	9.2	19.2	13.8	1.5
小学校就学前 (n=41)	9.8	7.3	14.6	9.8	12.2	2.4	22.0	22.0	0.0
小学校就学後 (n=88)	8.0	9.1	12.5	12.5	15.9	11.4	18.2	10.2	2.3

問5 あなた（保護者）は、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。（1つに○）

- 保護者の健康状況は、「よい（29.2%）」と「どちらかといえばよい（7.7%）」を合わせた『よい』は 36.9%、「どちらかといえばよくない（10.8%）」と「よくない（3.1%）」を合わせた『よくない』は 13.9%となっている。

図表_障害児の保護者／保護者の健康状況（全体）



【回答者属性分析】

- 保護者の健康状況の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「ふつう」が最も多くなっている。
- 小学校就学前で『よい（43.9%）』，小学校就学後で『よい（34.1%）』となっている。

図表_障害児の保護者／保護者の健康状況（就学区分別）

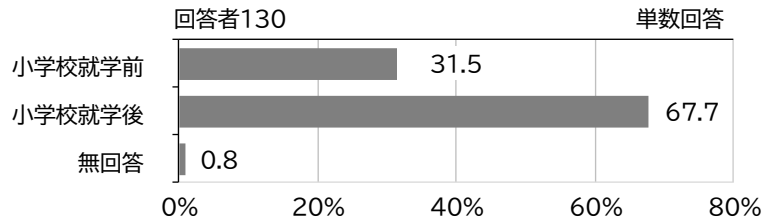
	よい	え ど ち ら か と い ば よ い	ふ つ う	え ど ち ら か と い ば よ く な い	よ く な い	無 回 答	『 よ い 』	『 よ く な い 』
全体 (N=130)	29.2	7.7	44.6	10.8	3.1	4.6	36.9	13.9
小学校就学前 (n=41)	31.7	12.2	46.3	7.3	2.4	0.0	43.9	9.7
小学校就学後 (n=88)	28.4	5.7	44.3	12.5	3.4	5.7	34.1	15.9

2 保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします

問6 あて名のお子さんの就学状況を教えてください。(1つに○)

○ お子さんの学齢は、「小学校就学前(31.5%)」、「小学校就学後(67.7%)」である。

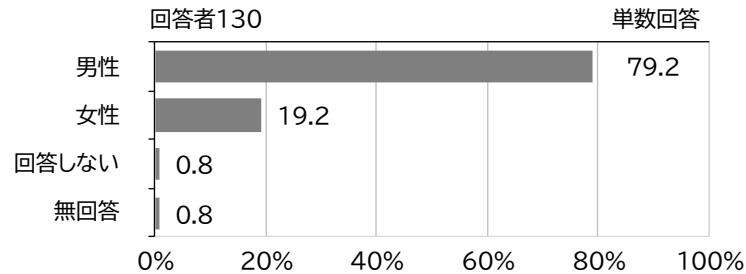
図表_障害児の保護者/お子さんの学齢(全体)



問7 あて名のお子さんの性別を教えてください。(1つに○)

○ お子さんの性別は、「男性(79.2%)」、「女性(19.2%)」、「回答しない(0.8%)」である。

図表_障害児の保護者/お子さんの性別(全体)



【回答者属性分析】

○ お子さんの性別の割合を就学区別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも「男性」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者/お子さんの性別(就学区別)

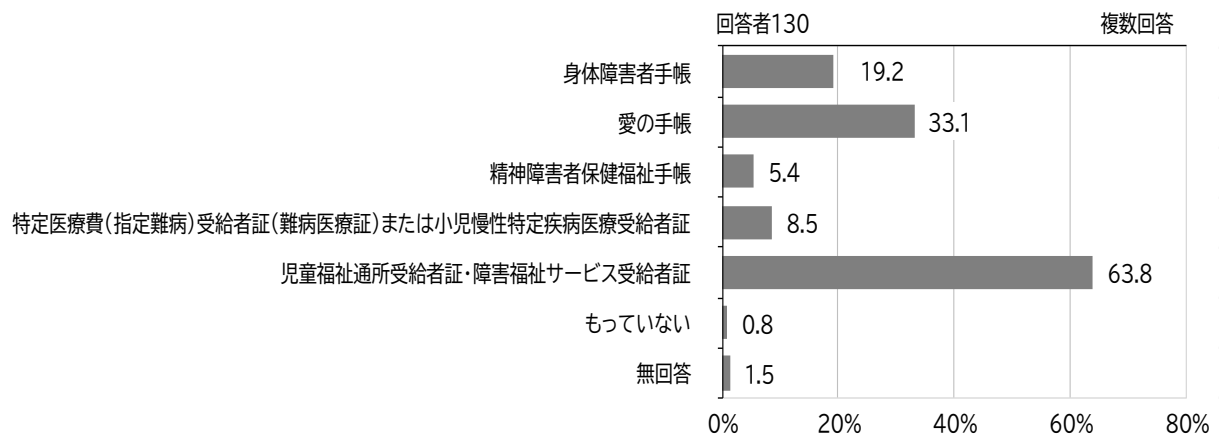
	男性	女性	回答しない	無回答
全体 (N=130)	79.2	19.2	0.8	0.8
小学校就学前 (n=41)	80.5	17.1	2.4	0.0
小学校就学後 (n=88)	79.5	20.5	0.0	0.0

問8 あて名のお子さんがおもちの手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

① 持っている手帳の種類

○ お子さんの持っている手帳の種類は、「児童福祉通所受給者証・障害福祉サービス受給者証(63.8%)」が最も多く、「愛の手帳(33.1%)」,「身体障害者手帳(19.2%)」が続いている。

図表_障害児の保護者／お子さんの持っている手帳の種類(全体)



② 持っている手帳の等級

- お子さんの手帳の等級は、身体障害者手帳では「1 級（56.0%）」，愛の手帳では「2 度（41.9%）」，精神障害者手帳では「3 級（71.4%）」が最も多くなっている。
- 手帳の等級の割合を就学区分別にみると，身体障害者手帳は，小学校就学前，小学校就学後とも「1 級」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／持っている手帳の等級（就学区分別，身体障害者手帳）

	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	無回答
全体 (N=25)	56.0	20.0	0.0	12.0	4.0	0.0	8.0
小学校就学前 (n=8)	62.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5
小学校就学後 (n=17)	52.9	23.5	0.0	11.8	5.9	0.0	5.9

- 愛の手帳は，小学校就学前は「3 度」，小学校就学後は「2 度」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／持っている手帳の等級（就学区分別，愛の手帳）

	1 度	2 度	3 度	4 度	無回答
全体 (N=43)	0.0	41.9	27.9	30.2	0.0
小学校就学前 (n=8)	0.0	12.5	62.5	25.0	0.0
小学校就学後 (n=35)	0.0	48.6	20.0	31.4	0.0

- 精神障害者手帳は，小学校就学前は該当者なし，小学校就学後は「3 級」が最も多くなっている。

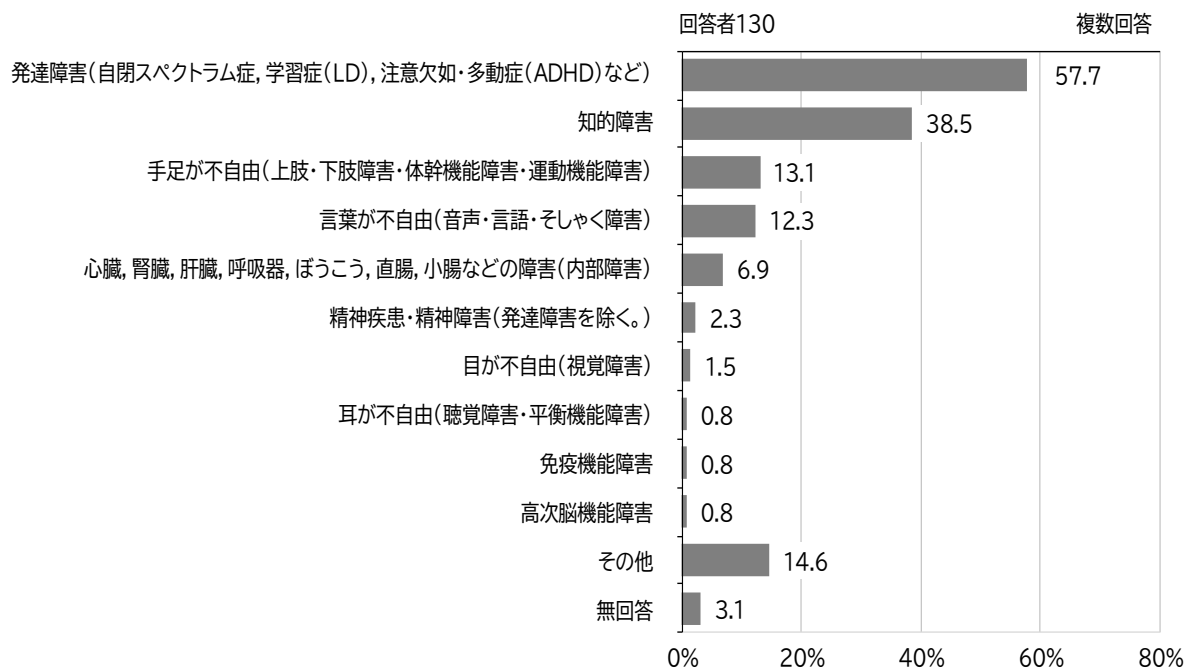
図表_障害児の保護者／持っている手帳の等級（就学区分別，精神障害者手帳）

	1 級	2 級	3 級	無回答
全体 (N=7)	0.0	28.6	71.4	0.0
小学校就学前 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0
小学校就学後 (n=7)	0.0	28.6	71.4	0.0

問9 あて名のお子さんは、どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○) ※特定医療費(指定難病)受給者証, 小児慢性特定疾病医療受給者証をもつ人は、「11 その他」の欄に病名をご記入ください。

○ お子さんの病気や障害の種類は、「発達障害(自閉スペクトラム症, 学習症(LD), 注意欠如・多動症(ADHD)など)(57.7%)」が最も多く、「知的障害(38.5%)」, 「手足が不自由(上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害)(13.1%)」が続いている。

図表_障害児の保護者/お子さんの病気や障害の種類(全体)



【回答者属性分析】

- 病気や障害の種類の割合を就学区分別にみると、小学校就学前，小学校就学後とも「発達障害（自閉スペクトラム症，学習症（LD），注意欠如・多動症（ADHD）など）」が最も多くなっている。

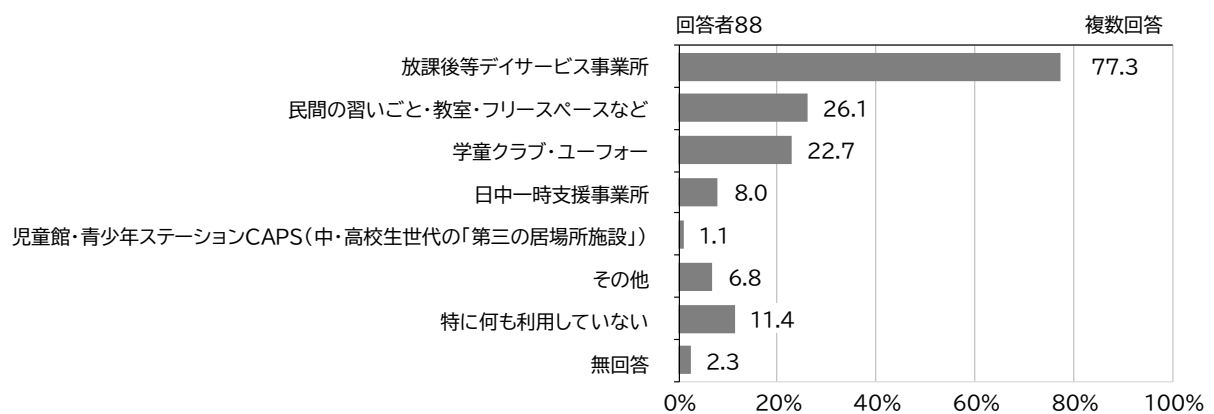
図表_障害児の保護者／お子さんの病気や障害の種類（就学区分別：複数回答）

	目が不自由（視覚障害）	耳が不自由（聴覚障害・平衡機能障害）	言葉が不自由（音声・言語・そしゃく障害）	手足が不自由（上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害）	腸，小腸などの障害（内部障害）	心臓，腎臓，肝臓，呼吸器，ぼうこう，直腸，小腸などの障害（内部障害）	免疫機能障害	知的障害	精神疾患・精神障害（発達障害を除く。）	発達障害（自閉スペクトラム症，学習症（LD），注意欠如・多動症（ADHD）など）	高次脳機能障害	その他	無回答
全体（N=130）	1.5	0.8	12.3	13.1	6.9	0.8	38.5	2.3	57.7	0.8	14.6	3.1	
小学校就学前（n=41）	2.4	2.4	24.4	9.8	7.3	0.0	34.1	0.0	48.8	0.0	22.0	2.4	
小学校就学後（n=88）	1.1	0.0	6.8	14.8	6.8	1.1	40.9	3.4	62.5	1.1	11.4	2.3	

問 10 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。 あて名のお子さんは、現在、学校以外の時間でどのようなサービスや施設などを利用して過ごしていますか。(いくつでも○)

- 小学校就学後の学校以外のサービス、施設等の利用状況は、「放課後等デイサービス事業所 (77.3%)」が最も多く、「民間の習いごと・教室・フリースペースなど (26.1%)」, 「学童クラブ・ユーフォー (22.7%)」が続いている。

図表_障害児の保護者／小学校就学後の学校以外のサービス、施設等の利用状況（全体）

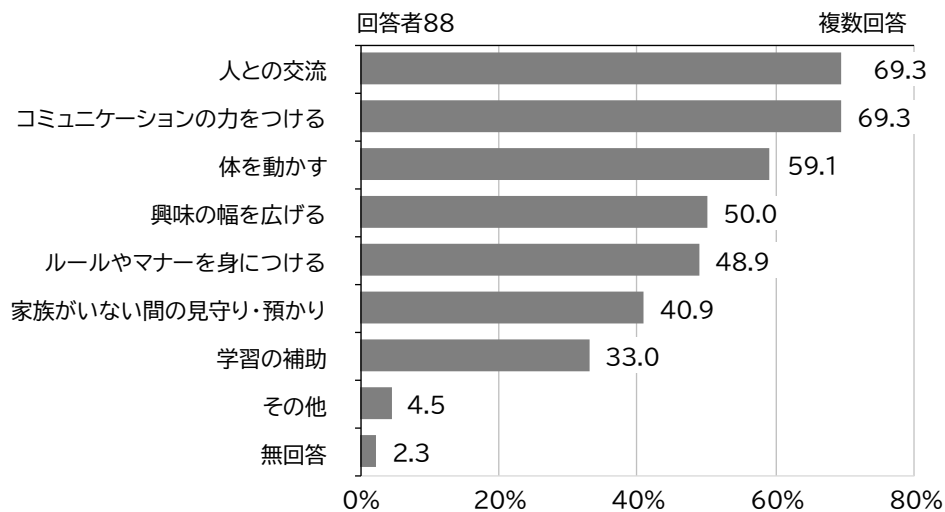


注：グラフは小学校就学後のお子さんの結果

問 11 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。 あて名のお子さんの放課後活動に求めていることはありますか。（いくつでも○）

- 小学生の保護者が放課後活動に求めていることは、「人との交流（69.3%）」と「コミュニケーションの力をつける（69.3%）」が最も多く、「体を動かす（59.1%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／放課後活動に求めていること（全体）

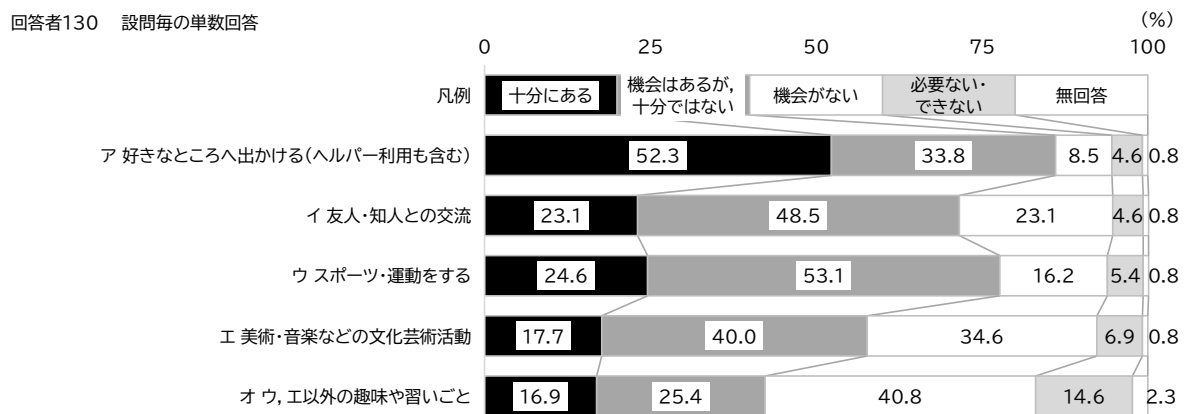


注：グラフは小学校就学後のお子さんの結果

問 12 あて名のお子さんは、普段の生活の中で、次のような機会がありますか。（それぞれ1つに○）

- お子さんの好きな活動の機会の有無（仕事、学校、通所施設以外）について、「十分にある」と「機会はあるが、十分ではない」を合わせた『機会はある』の割合は、「好きなどころへ出かける（ヘルパー利用も含む）（86.1%）」が最も多く、「スポーツ・運動をする（77.7%）」、「友人・知人との交流（71.6%）」が続いている。
- 一方、「機会がない」では「ウ、エ以外の趣味や習いごと（40.8%）」が最も多く、「美術・音楽などの文化芸術活動の機会（34.6%）」、「友人・知人との交流（23.1%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／お子さんの好きな活動の機会の有無（全体）



【回答者属性分析】

- お子さんの好きな活動の機会（保育園・幼稚園，学校以外）の『機会はある』の割合は，小学校就学前，小学校就学後とも「好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／お子さんの好きな活動の機会の有無（就学区分別）

<『機会はある』の割合>

	好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）	友人・知人との交流	スポーツ・運動をする機会	美術・音楽などの文化芸術活動	ウ，エ以外の趣味や習いごと
全体（N=130）	86.1	71.6	77.7	57.7	42.3
小学校就学前（n=41）	90.3	75.6	83.0	58.5	34.1
小学校就学後（n=88）	85.3	70.5	76.1	57.9	46.6

- 「機会はない」の割合は，小学校就学前，小学校就学後とも，「ウ，エ以外の趣味や習いごと」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／お子さんの好きな活動の機会の有無（就学区分別）

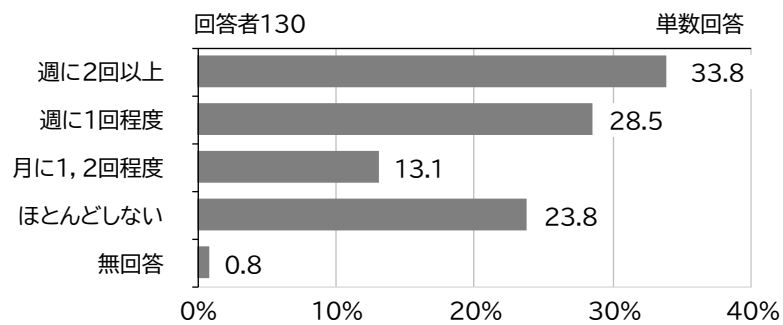
<「機会がない」の割合>

	好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）	友人・知人との交流	スポーツ・運動をする機会	美術・音楽などの文化芸術活動の機会	ウ，エ以外の趣味や習いごと
全体（N=130）	8.5	23.1	16.2	34.6	40.8
小学校就学前（n=41）	4.9	19.5	7.3	29.3	46.3
小学校就学後（n=88）	10.2	25.0	20.5	37.5	38.6

問 13 あて名のお子さんは、スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。(1つに○)

- スポーツ活動・運動をする頻度は、「週に2回以上(33.8%)」が最も多く、「週に1回程度(28.5%)」、「ほとんどしない(23.8%)」が続いている。

図表_障害児の保護者/スポーツ活動・運動をする頻度(全体)



【回答者属性分析】

- スポーツ活動・運動をする頻度の割合を就学区別にみると、小学校就学前は「週に2回以上」、小学校就学後は「週に1回程度」が最も多くなっている。

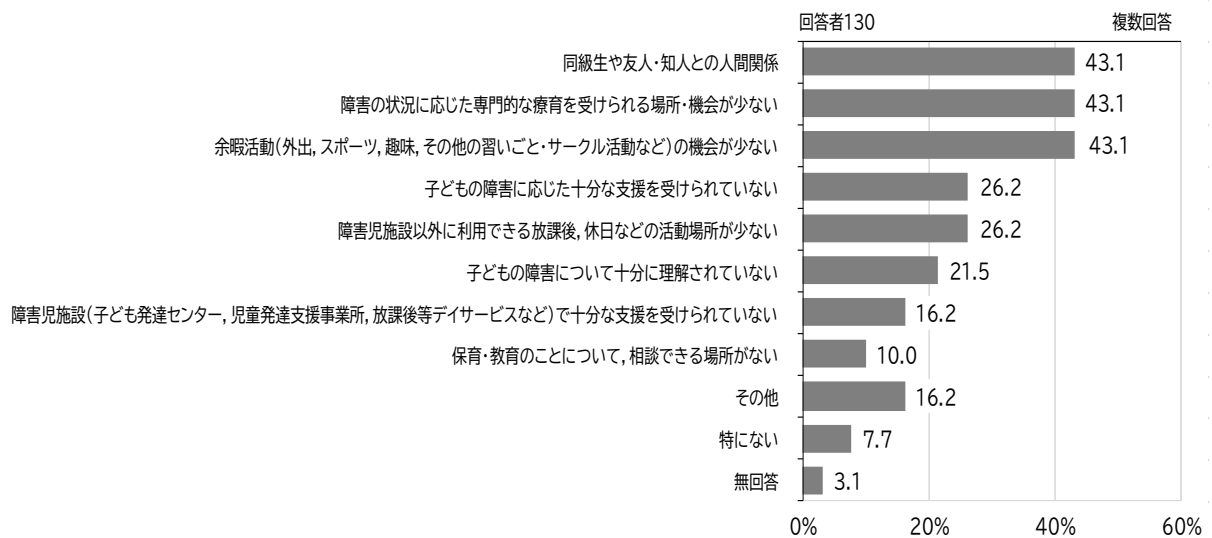
図表_障害児の保護者/スポーツ活動・運動をする頻度(就学区別)

	週に2回以上	週に1回程度	月に1,2回程度	ほとんどしない	無回答
全体 (N=130)	33.8	28.5	13.1	23.8	0.8
小学校就学前 (n=41)	43.9	24.4	9.8	22.0	0.0
小学校就学後 (n=88)	28.4	30.7	14.8	25.0	1.1

問 14 あて名のお子さんの日常生活で不安や課題と感じていることはありますか。(いくつかでも○)

- お子さんの地域の暮らしの中での不安や課題は、「同級生や友人・知人との人間関係(43.1%)」、「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない(43.1%)」、「余暇活動(外出, スポーツ, 趣味, その他の習いごと・サークル活動など)の機会が少ない(43.1%)」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／お子さんの地域の暮らしの中での不安や課題(全体)



【回答者属性分析】

- お子さんの地域の暮らしの中での不安や課題の割合を就学区分別にみると、小学校就学前は「余暇活動（外出，スポーツ，趣味，その他の習いごと・サークル活動など）の機会が少ない」，小学校就学後は「同級生や友人・知人との人間関係」が最も多くなっている。
- 小学校就学後で「子どもの障害について十分に理解されていない」が3割近くになっている。

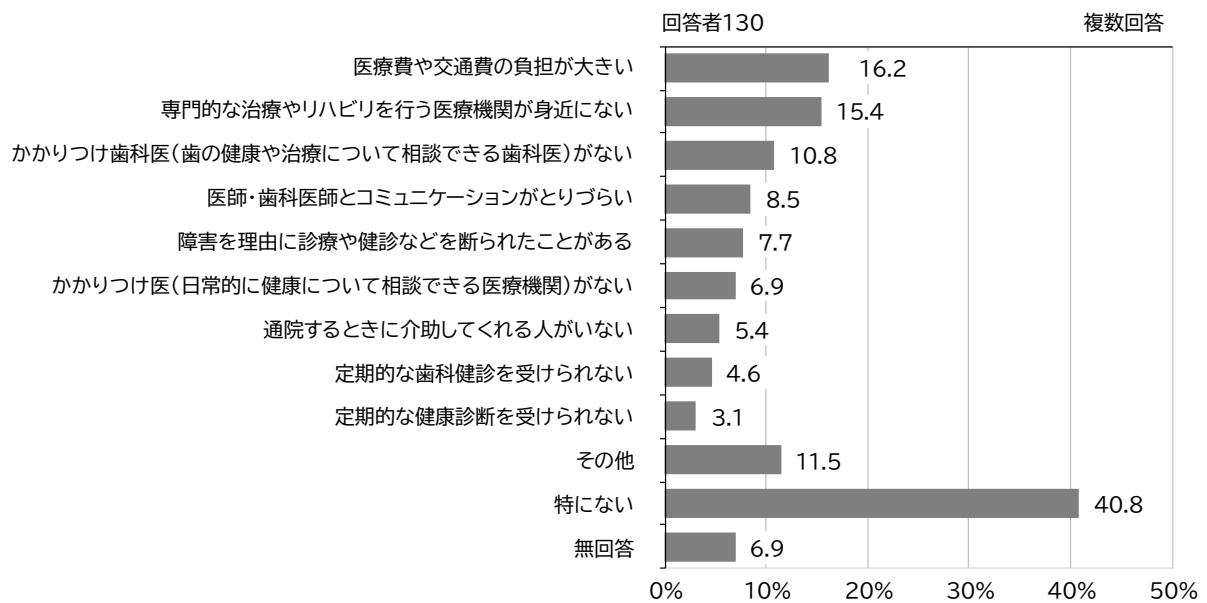
図表_障害児の保護者／保護者が感じている地域の暮らしの中での不安や課題（就学区分別：複数回答）

	子どもの障害について十分に理解されていない	子どもの障害に応じた十分な支援を受けられていない	同級生や友人・知人との人間関係	保育・教育のことについて、相談できる場所がない	障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない	障害児施設（子ども発達センター，児童発達支援事業所，放課後等デイサービスなど）で十分な支援を受けられていない	障害児施設以外に利用できる放課後，休日などの活動場所が少ない	余暇活動（外出，スポーツ，趣味，その他の習いごと・サークル活動など）の機会が少ない	その他	特になし	無回答
全体（N=130）	21.5	26.2	43.1	10.0	43.1	16.2	26.2	43.1	16.2	7.7	3.1
小学校就学前（n=41）	9.8	22.0	31.7	14.6	36.6	9.8	26.8	48.8	12.2	7.3	4.9
小学校就学後（n=88）	27.3	28.4	47.7	8.0	46.6	19.3	26.1	40.9	18.2	8.0	2.3

問 15 あて名のお子さんについて、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。
 (いくつでも○)

○ お子さんが医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、「特にない（40.8%）」が最も多く、「医療費や交通費の負担が大きい（16.2%）」、「専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない（15.4%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／お子さんが医療機関（歯科を含む）の受診で困ること（全体）



【回答者属性分析】

- お子さんが医療機関（歯科を含む）の受診で困ることの割合を就学区分別にみると、小学校就学前，小学校就学後とも「特にない」が最も多くなっている。
- 「特にない」を除くと，小学校就学前で「かかりつけ歯科医（歯の健康や治療について相談できる歯科医）がない」，小学校就学後で「専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない」が多くなっている。

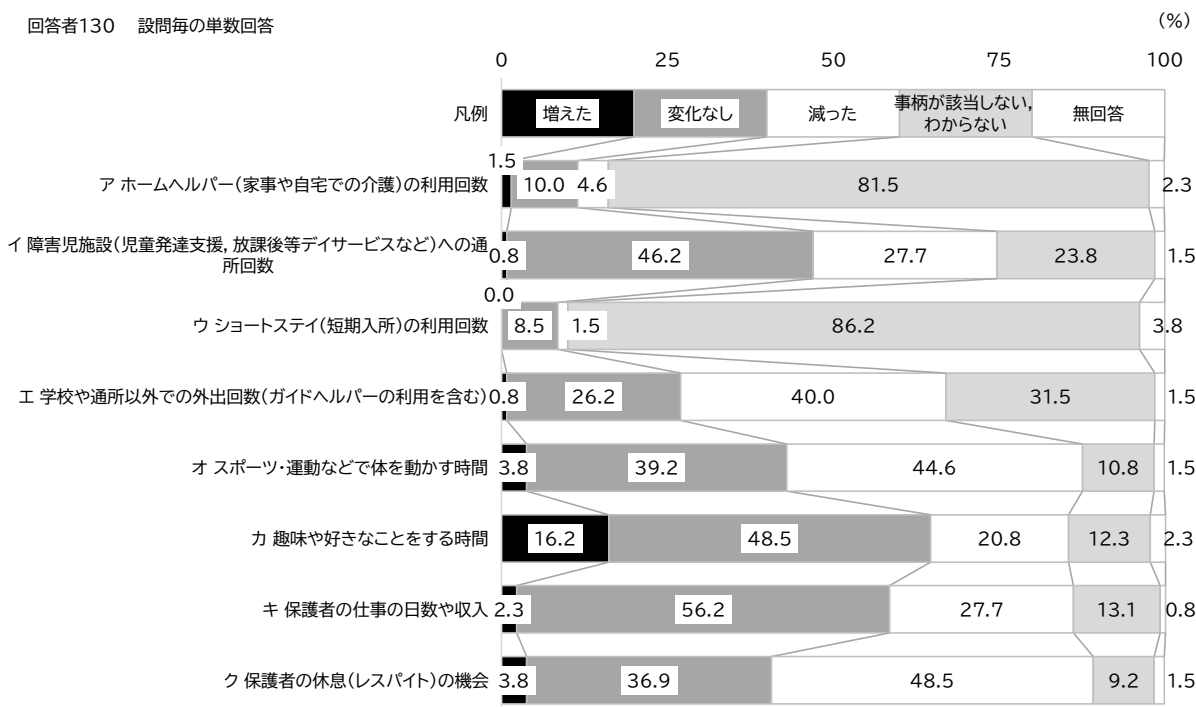
図表_障害児の保護者／お子さんが医療機関（歯科を含む）の受診で困ること（就学区分別：複数回答）

	かかりつけ医（日常的に健康について相談できる医療機関）がない	かかりつけ歯科医（歯の健康や治療について相談できる歯科医）がない	定期的な健康診断を受けられない	定期的な歯科健診を受けられない	専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない	障害を理由に診療や健診などを断られたことがある	通院するときに介助してくれる人がいない	医療費や交通費の負担が大きい	医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい	その他	特にない	無回答
全体（N=130）	6.9	10.8	3.1	4.6	15.4	7.7	5.4	16.2	8.5	11.5	40.8	6.9
小学校就学前（n=41）	9.8	22.0	2.4	9.8	4.9	7.3	2.4	9.8	9.8	12.2	36.6	4.9
小学校就学後（n=88）	5.7	5.7	3.4	2.3	20.5	8.0	6.8	19.3	8.0	11.4	42.0	8.0

問 16 コロナ禍によって、お子さんの暮らしに影響はありましたか。(それぞれ1つに○)

- コロナ禍による子どもの暮らしへの影響について、「増えた」の割合は、「趣味や好きなことをする時間(16.2%)」が最も多く、「スポーツ・運動などで体を動かす時間(3.8%)」、「保護者の休息(レスパイト)の機会(3.8%)」が続いている。
- 一方、「減った」の割合は、「保護者の休息(レスパイト)の機会(18.5%)」が最も多く、「スポーツ・運動などで体を動かす時間(44.6%)」、「学校や通所以外での外出回数(ガイドヘルパーの利用を含む)(40.0%)」が続いている。

図表_障害児の保護者/コロナ禍による子どもの暮らしへの影響(全体)



【回答者属性分析】

- コロナ禍による子どもの暮らしへの影響について、「増えた」の割合を就学区分別にみると、小学校就学前は「スポーツ・運動などで体を動かす時間（7.3%）」、小学校就学後は「趣味や好きなことをする時間（21.6%）」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／コロナ禍による子どもの暮らしへの影響（就学区分別）

<「増えた」の割合>

	ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数	障害児施設（児童発達支援，放課後等デイサービスなど）への通所回数	ショートステイ（短期入所）の利用回数	学校や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）	スポーツ・運動などで体を動かす時間	趣味や好きなことをする時間	保護者の仕事の日数や収入	保護者の休息（レスパイト）の機会
全体（N=130）	1.5	0.8	0.0	0.8	3.8	16.2	2.3	3.8
小学校就学前（n=41）	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3	4.9	4.9	4.9
小学校就学後（n=88）	2.3	1.1	0.0	1.1	2.3	21.6	1.1	3.4

- コロナ禍による子どもの暮らしへの影響について、「減った」の割合を就学区分別にみると、小学校就学前は「学校や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）」、小学校就学後は「保護者の休息（レスパイト）の機会」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／コロナ禍による子どもの暮らしへの影響（就学区分別）

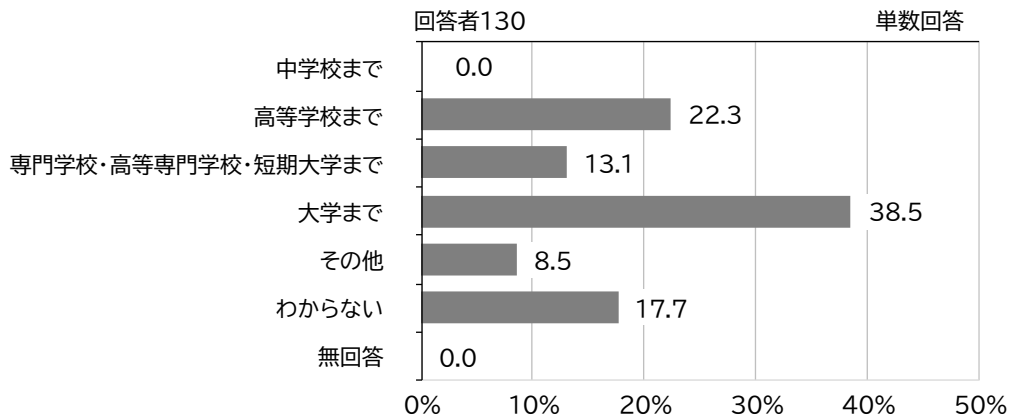
<「減った」の割合>

	ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数	障害児施設（児童発達支援，放課後等デイサービスなど）への通所回数	ショートステイ（短期入所）の利用回数	学校や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）	スポーツ・運動などで体を動かす時間	趣味や好きなことをする時間	保護者の仕事の日数や収入	保護者の休息（レスパイト）の機会
全体（N=130）	4.6	27.7	1.5	40.0	44.6	20.8	27.7	48.5
小学校就学前（n=41）	2.4	24.4	-	41.5	31.7	12.2	19.5	39.0
小学校就学後（n=88）	5.7	29.5	2.3	39.8	51.1	23.9	31.8	53.4

問 17 将来、あて名のお子さんに、どのような進学先を希望していますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの進学先は、「大学まで(38.5%)」が最も多く、「高等学校まで(22.3%)」、「わからない(17.7%)」が続いている。

図表_障害児の保護者／希望するお子さんの進学先(全体)



【回答者属性分析】

- 希望するお子さんの進学先の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「大学まで」が最も多くなっている。
- 小学校就学後で「高等学校まで」が3割近くになっている。

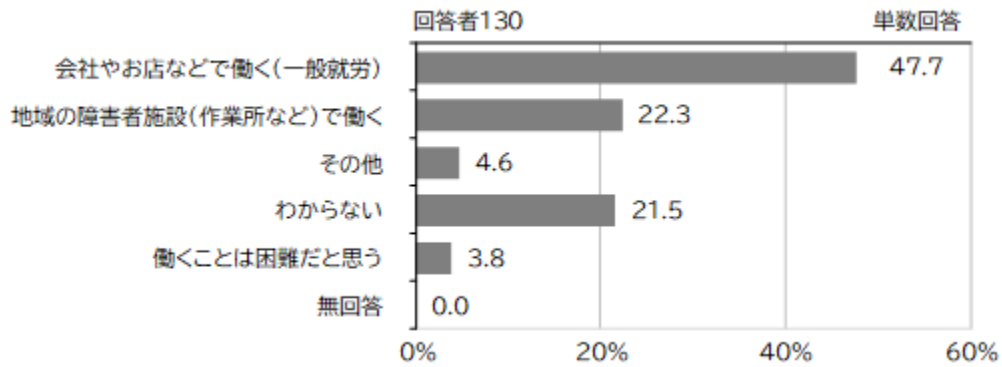
図表_障害児の保護者／希望するお子さんの進学先(就学区分別)

	中学校まで	高等学校まで	専門学校・高等専門学校・短期大学まで	大学まで	その他	わからない	無回答
全体 (N=130)	0.0	22.3	13.1	38.5	8.5	17.7	0.0
小学校就学前 (n=41)	0.0	7.3	2.4	48.8	7.3	34.1	0.0
小学校就学後 (n=88)	0.0	29.5	18.2	33.0	9.1	10.2	0.0

問 18 将来、あて名のお子さんに、どのような働き方を希望していますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの働き方は、「会社やお店などで働く（一般就労）（47.7%）」が最も多く、「地域の障害者施設（作業所など）で働く（22.3%）」，「わからない（21.5%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／希望するお子さんの働き方（全体）



【回答者属性分析】

- 希望するお子さんの働き方の割合を就学区分別にみると、小学校就学前，小学校就学後とも、「会社やお店などで働く（一般就労）」が最も多くなっている。

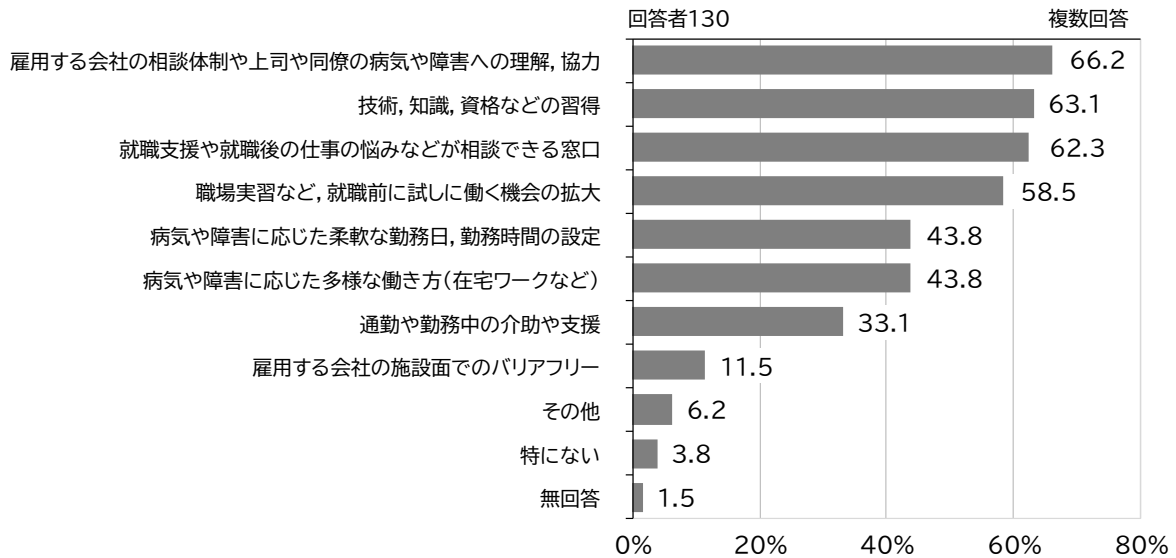
図表_障害児の保護者／希望するお子さんの働き方（就学区分別）

	会社やお店などで働く (一般就労)	地域の障害者施設 (作業所など)で働く	その他	わからない	働くことは困難だと思う	無回答
全体 (N=130)	47.7	22.3	4.6	21.5	3.8	0.0
小学校就学前 (n=41)	39.0	19.5	2.4	34.1	4.9	0.0
小学校就学後 (n=88)	51.1	23.9	5.7	15.9	3.4	0.0

問 19 あて名のお子さんが仕事をするために、必要と思うことは何ですか。(いくつでも○)

- お子さんが就労する上で必要なことは、「雇用する会社の相談体制や上司や同僚の病気や障害への理解、協力 (66.2%)」が最も多く、「技術、知識、資格などの習得 (63.1%)」, 「就職支援や就職後の仕事の悩みなどが相談できる窓口 (62.3%)」が続いている。

図表_障害児の保護者／お子さんが就労する上で必要なこと (全体)



【回答者属性分析】

- お子さんが就労する上で必要なことの割合を就学区別にみると、小学校就学前は「技術、知識、資格などの習得」、小学校就学後は「雇用する会社の相談体制や上司や同僚の病気や障害への理解、協力」が最も多くなっている。

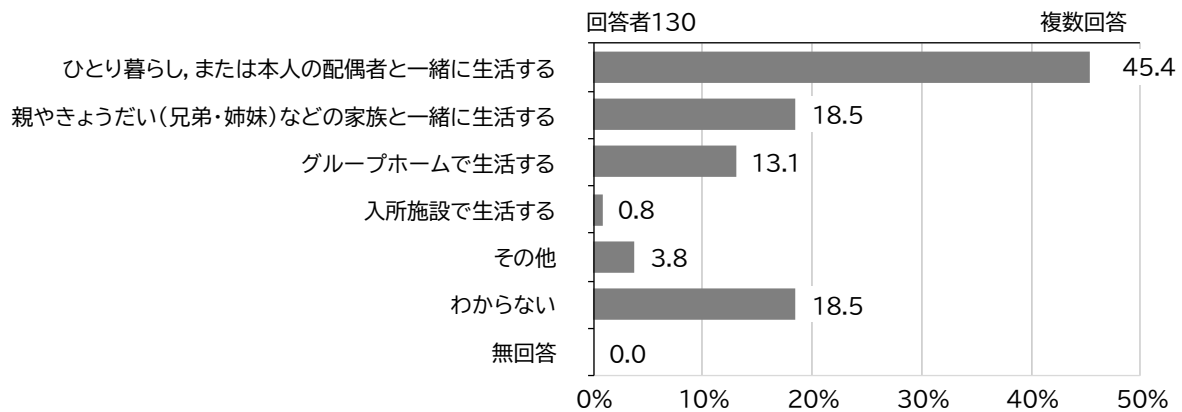
図表_障害児の保護者／お子さんが就労する上で必要なこと (就学区分別：複数回答)

	技術、知識、資格などの習得	病気や障害に応じた柔軟な勤務日、勤務時間の設定	病気や障害に応じた多様な働き方(在宅ワークなど)	フリー雇用する会社の施設面でのバリアフリー	雇用する会社の相談体制や上司や同僚の病気や障害への理解、協力	通勤や勤務中の介助や支援	就職支援や就職後の仕事の悩みなどが相談できる窓口	職場実習など、就職前に試しに働く機会の拡大	その他	特にない	無回答
全体 (N=130)	63.1	43.8	43.8	11.5	66.2	33.1	62.3	58.5	6.2	3.8	1.5
小学校就学前 (n=41)	63.4	34.1	36.6	9.8	53.7	26.8	61.0	53.7	4.9	12.2	2.4
小学校就学後 (n=88)	62.5	48.9	47.7	12.5	72.7	36.4	62.5	60.2	6.8	0.0	1.1

問 20 将来、あて名のお子さんに、どのような生活を希望しますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの暮らし方は、「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する(45.4%)」が最も多く、「親やきょうだい(兄弟・姉妹)などの家族と一緒に生活する(18.5%)」と「わからない(18.5%)」が続いている。

図表_障害児の保護者/希望するお子さんの暮らし方(全体)



【回答者属性分析】

- 希望するお子さんの暮らし方の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者/希望するお子さんの暮らし方(就学区分別)

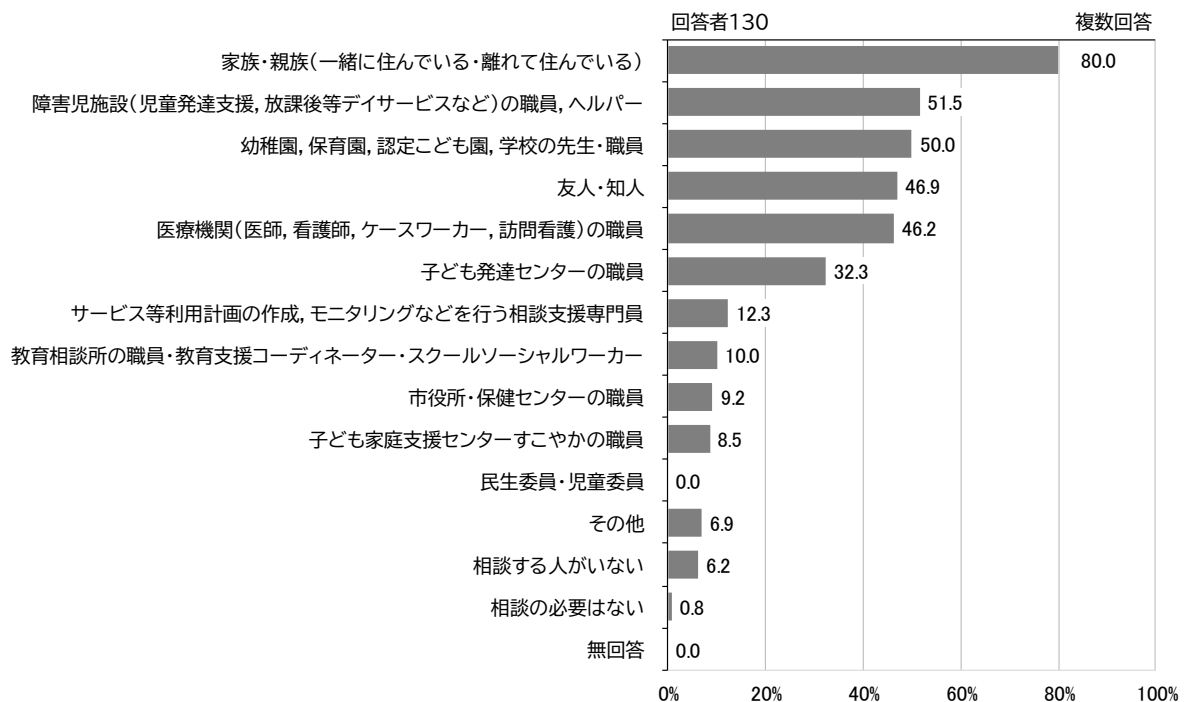
	親やきょうだい(兄弟・姉妹)などの家族と一緒に生活する	ひとり暮らし,または本人の配偶者と一緒に生活する	グループホームで生活する	入所施設で生活する	その他	わからない	無回答
全体 (N=130)	18.5	45.4	13.1	0.8	3.8	18.5	0.0
小学校就学前 (n=41)	19.5	36.6	4.9	0.0	7.3	31.7	0.0
小学校就学後 (n=88)	18.2	48.9	17.0	1.1	2.3	12.5	0.0

3 保護者の方に、相談支援についておたずねします

問 21 あなた（保護者）が悩みや困りごとを相談できる人や機関はありますか。（いくつでも○）

- 保護者が困ったときの身近な相談相手は、「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（80.0%）」が最も多く、「障害児施設（児童発達支援，放課後等デイサービスなど）の職員，ヘルパー（51.5%）」，「幼稚園，保育園，認定こども園，学校の先生・職員（50.0%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／保護者が困ったときの身近な相談相（全体）



【回答者属性分析】

- 保護者が困ったときの身近な相談相の割合を就学区別にみると、小学校就学前，小学校就学後とも，「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）」が最も多くなっている。
- 小学校就学前で「子ども発達センターの職員」が7割台となっている。

図表 5-45 保護者が困ったときの身近な相談相（就学区分別：複数回答）

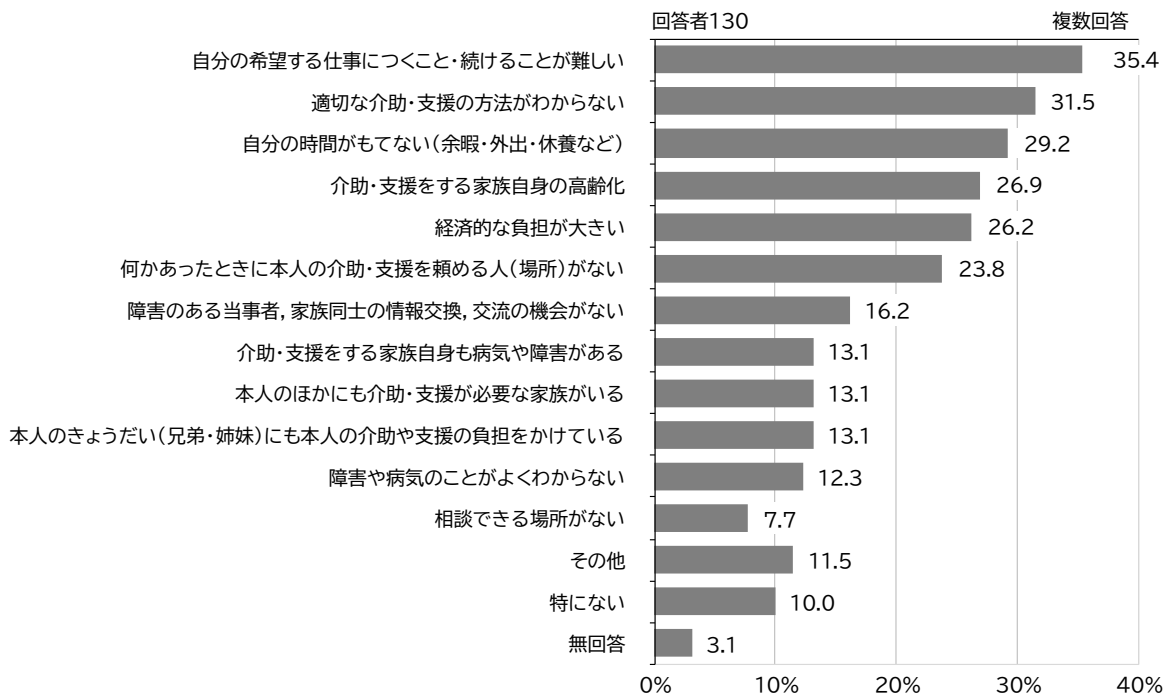
	家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）	幼稚園，保育園，認定こども園，学校の先生・職員	友人・知人	子ども発達センターの職員	子ども家庭支援センターすこやか職員の職員	教育相談所の職員・教育支援コーディネーター・スクールソーシャルワーカー	サービス等利用計画の作成，モニタリングなどを行う相談支援専門員	障害児施設（児童発達支援，放課後等デイサービスなど）の職員，ヘルパー
全体（N=130）	80.0	50.0	46.9	32.3	8.5	10.0	12.3	51.5
小学校就学前（n=41）	87.8	51.2	39.0	75.6	9.8	0.0	7.3	46.3
小学校就学後（n=88）	76.1	48.9	50.0	12.5	8.0	14.8	14.8	53.4

	市役所・保健センターの職員	民生委員・児童委員	医療機関（医師，看護師，ケースワーカー，訪問看護）の職員	その他	相談する人がいない	相談の必要はない	無回答
全体（N=130）	9.2	0.0	46.2	6.9	6.2	0.8	0.0
小学校就学前（n=41）	14.6	0.0	48.8	4.9	2.4	2.4	0.0
小学校就学後（n=88）	6.8	0.0	45.5	8.0	8.0	0.0	0.0

問 22 あなた（保護者）は、介助や支援にあたってどのような不安や困りごとがありますか。
（いくつでも○）

○ 介助や支援の不安や困りごとは、「自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい（35.4%）」が最も多く、「適切な介助・支援の方法がわからない（31.5%）」、「自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）（29.2%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／介助や支援の不安や困りごと（全体）



【回答者属性分析】

- 介助や支援の不安や困りごとの割合を就学区分別にみると、小学校就学前は「適切な介助・支援の方法がわからない」、小学校就学後は「自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい」が最も多くなっている。
- 小学校就学前で「自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）」が4割台となっている。

図表_障害児の保護者／介助や支援の不安や困りごと（就学区分別：複数回答）

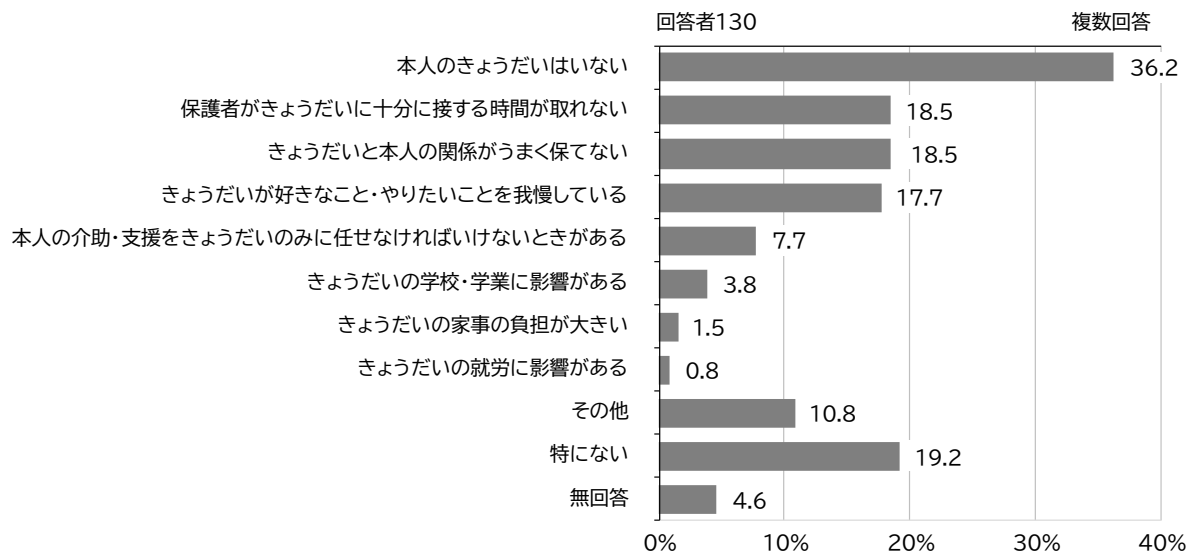
	障害や病気のことがよくわからない	適切な介助・支援の方法がわからない	自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）	自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい	介助・支援をする家族自身の高齢化	介助・支援をする家族自身も病気や障害がある	本人のほかにも介助・支援が必要な家族がいる	本人のきょうだい（兄弟・姉妹）にも本人の介助や支援の負担をかけている
全体（N=130）	12.3	31.5	29.2	35.4	26.9	13.1	13.1	13.1
小学校就学前（n=41）	22.0	43.9	41.5	34.1	24.4	9.8	4.9	7.3
小学校就学後（n=88）	8.0	26.1	23.9	36.4	28.4	14.8	17.0	15.9

	何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない	相談できる場所がない	障害のある当事者、家族同士の情報交換、交流の機会がない	経済的な負担が大きい	その他	特にない	無回答
全体（N=130）	23.8	7.7	16.2	26.2	11.5	10.0	3.1
小学校就学前（n=41）	17.1	4.9	24.4	19.5	4.9	9.8	4.9
小学校就学後（n=88）	27.3	9.1	12.5	29.5	14.8	10.2	1.1

問 23 本人の介助・支援に関連し、本人のきょうだい（兄弟・姉妹）についてどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- お子さんの兄弟・姉妹に関する不安や困りごとは、「本人のきょうだいはいない(36.2%)」が最も多く、「保護者がきょうだいに十分に接する時間が取れない(18.5%)」、「きょうだいと本人の関係がうまく保てない(18.5%)」が続いている。

図表_障害児の保護者／お子さんの兄弟・姉妹に関する不安や困りごと（全体）



【回答者属性分析】

- お子さんの兄弟・姉妹に関する不安や困りごとの割合を就学区別にみると、小学校就学前，小学校就学後とも、「本人のきょうだいはいない」が最も多くなっている。
- 「本人のきょうだいはいない」を除くと、小学校就学前で「きょうだいが好きなこと・やりたいことを我慢している(19.5%)」、小学校就学後で「きょうだいと本人の関係がうまく保てない(22.7%)」が最も多くなっている。

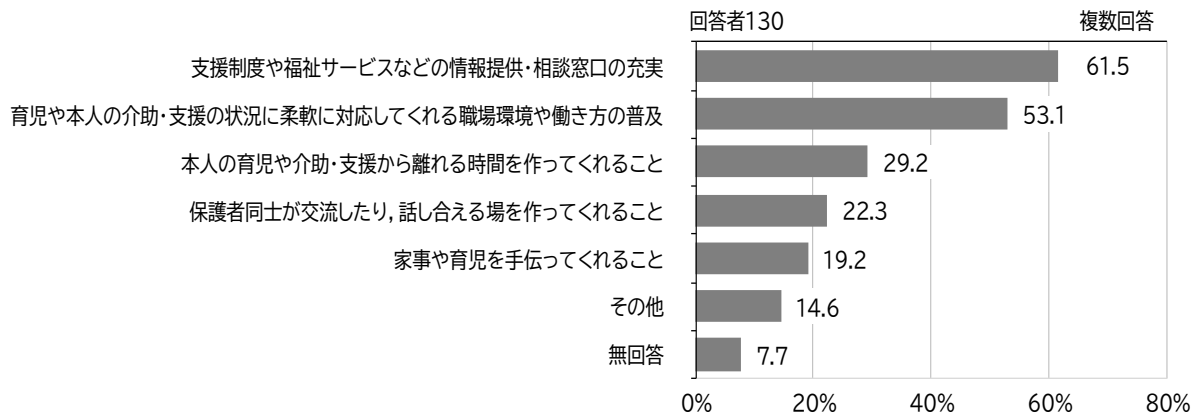
図表_障害児の保護者／お子さんの兄弟・姉妹に関する不安や困りごと（就学区別：複数回答）

	本人のきょうだいはいない	きょうだいの学校・学業に影響がある	きょうだいの就労に影響がある	きょうだいが好きなこと・やりたいことを我慢している	本人の介助・支援をきょうだいのみに任せなければいけないときがある	きょうだいの家事の負担が大きい	保護者がきょうだいに十分に接する時間が取れない	きょうだいと本人の関係がうまく保てない	その他	特になし	無回答
全体 (N=130)	36.2	3.8	0.8	17.7	7.7	1.5	18.5	18.5	10.8	19.2	4.6
小学校就学前 (n=41)	36.6	2.4	0.0	19.5	2.4	0.0	12.2	9.8	9.8	17.1	12.2
小学校就学後 (n=88)	36.4	4.5	1.1	17.0	10.2	2.3	21.6	22.7	11.4	19.3	1.1

問 24 保護者への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）

- 保護者への支援は、「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実(61.5%)」が最も多く、「育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及(53.1%)」、「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること(29.2%)」が続いている。

図表_障害児の保護者／保護者への支援（全体）



【回答者属性分析】

- 保護者への支援の割合を就学区別にみると、小学校就学前，小学校就学後とも、「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」が最も多くなっている。
- 小学校就学前で「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること」が約4割となっている。

図表_障害児の保護者／保護者への支援（就学区別：複数回答）

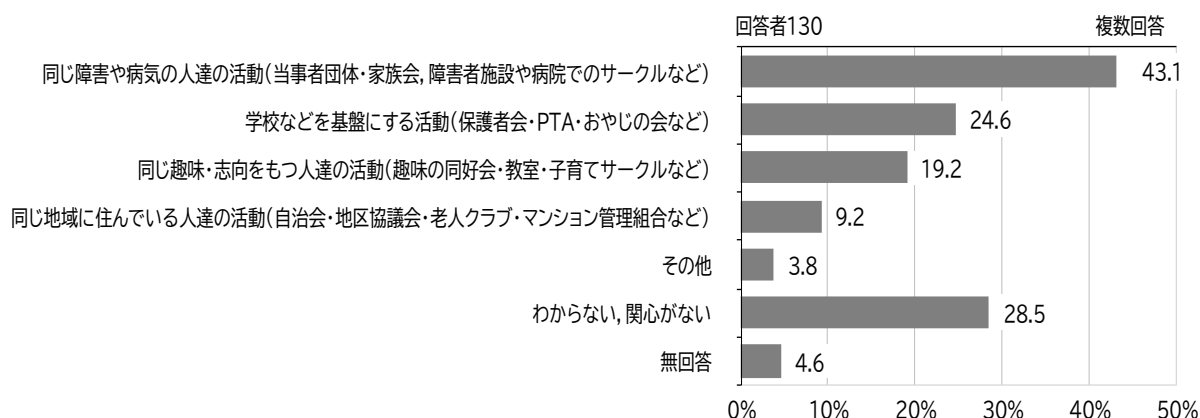
	保護者同士が交流したり、話し合える場を作ってくれること	本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること	家事や育児を手伝ってくれること	育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及	支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実	その他	無回答
全体 (N=130)	22.3	29.2	19.2	53.1	61.5	14.6	7.7
小学校就学前 (n=41)	36.6	39.0	24.4	48.8	63.4	19.5	4.9
小学校就学後 (n=88)	15.9	25.0	17.0	54.5	60.2	12.5	9.1

4 保護者の方に、市民同士の支え合いについておたずねします

問 25 近年、さまざまな主体による地域活動が行われています。あなたが参加しやすい活動は何ですか。（いくつでも○）

- 保護者が参加しやすい地域活動は、「同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど）（43.1%）」が最も多く、「わからない、関心がない（28.5%）」、「学校などを基盤にする活動（保護者会・PTA・おやじの会など）（24.6%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／保護者が参加しやすい地域活動（全体）



【回答者属性分析】

- 保護者が参加しやすい地域活動の割合を就学区別にみると、小学校就学後は「同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど）」が最も多くなっている。
- 小学校就学前で「わからない、関心がない」を除くと、「同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど）」が最も多くなっている。

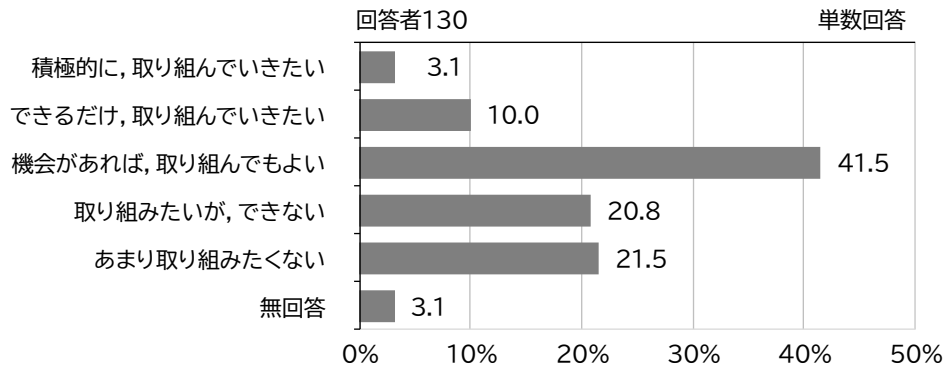
図表_障害児の保護者／保護者が参加しやすい地域活動（就学区別：複数回答）

	同じ地域に住んでいる人達の活動(自治会・地区協議会・老人クラブ・マンション管理組合など)	同じ趣味・志向をもつ人達の活動(趣味の同好会・教室・子育てサークルなど)	学校などを基盤にする活動(保護者会・PTA・おやじの会など)	同じ障害や病気の人達の活動(当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど)	その他	わからない、関心がない	無回答
全体 (N=130)	9.2	19.2	24.6	43.1	3.8	28.5	4.6
小学校就学前 (n=41)	2.4	22.0	26.8	34.1	4.9	39.0	4.9
小学校就学後 (n=88)	12.5	18.2	23.9	47.7	3.4	23.9	3.4

問 26 あなた（保護者）は、今後、地域活動・ボランティア活動に取り組みたいですか。
（1つに○）

- 保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「機会があれば、取り組んでもよい（41.5%）」が最も多く、「あまり取り組みたくない（21.5%）」、「取り組みたいが、できない（20.8%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向（全体）



【回答者属性分析】

- 保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「機会があれば、取り組んでもよい」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向（就学区分別：複数回答）

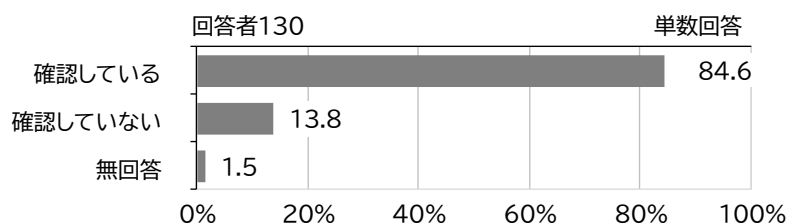
	積極的に、 取り組 んでい きたい	でき るだけ、 取り 組んで いき たい	機 会が あれ ば、 取 り 組 ん で も よ い	取 り 組 み た い が、 で き な い	あ ま り 取 り 組 み た く な い	無 回 答
全体（N=130）	3.1	10.0	41.5	20.8	21.5	3.1
小学校就学前 （n=41）	2.4	7.3	41.5	26.8	19.5	2.4
小学校就学後 （n=88）	3.4	11.4	42.0	18.2	22.7	2.3

5 保護者の方に、災害時の対策についておたずねします

問 27 あなた（保護者）は、防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1つに○）

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認は、「確認している（84.6%）」、「確認していない（13.8%）」である。

図表_障害児の保護者／避難場所・避難経路・警戒区域などの確認（全体）



【回答者属性分析】

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「確認している」が多くなっている。

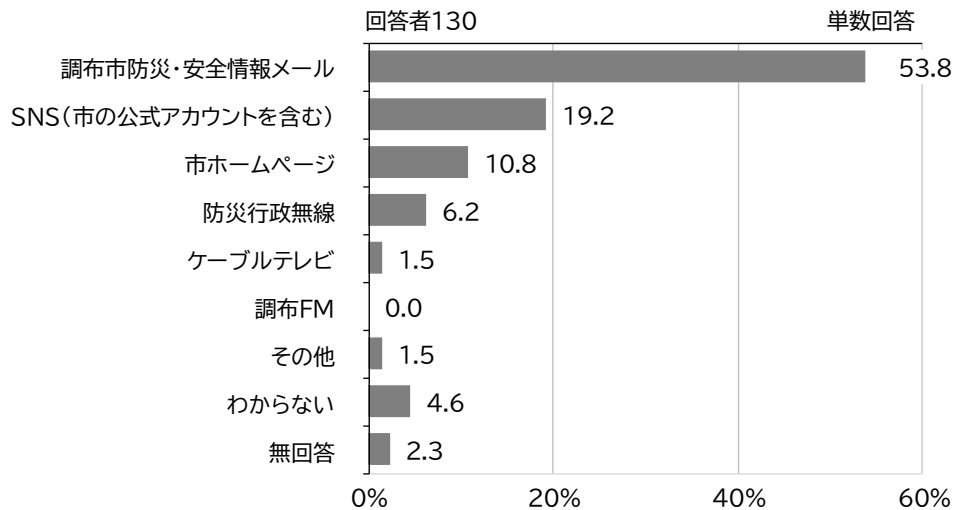
図表_障害児の保護者／避難場所・避難経路・警戒区域などの確認（就学区分別）

	確認している	確認していない	無回答
全体（N=130）	84.6	13.8	1.5
小学校就学前 （n=41）	82.9	17.1	0.0
小学校就学後 （n=88）	86.4	12.5	1.1

問 28 あなた（保護者）は、災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。（1つに○）

- 緊急時の避難情報の入手先は、「調布市防災・安全情報メール（53.8%）」が最も多く、「SNS（市の公式アカウントを含む）（19.2%）」、「市ホームページ（10.8%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／緊急時の避難情報の入手先（全体）



【回答者属性分析】

- 緊急時の避難情報の入手先の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「調布市防災・安全情報メール」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／緊急時の避難情報の入手先（就学区分別）

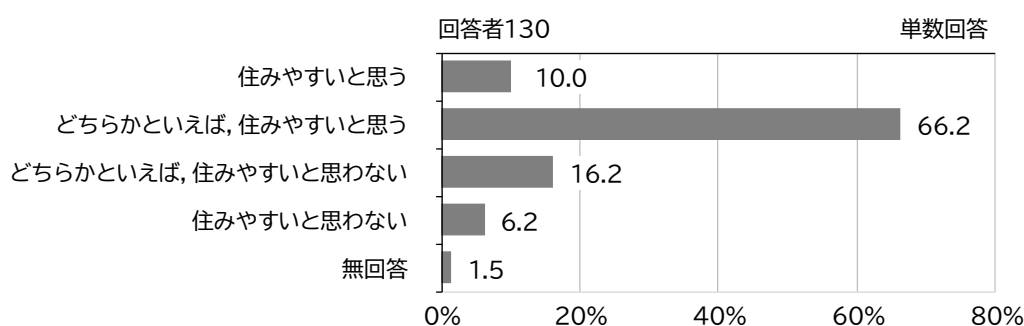
	防災行政無線	調布市防災・安全情報メール	調布FM	市ホームページ	ケーブルテレビ	SNS(市の公式アカウントを含む)	その他	わからない	無回答
全体 (N=130)	6.2	53.8	0.0	10.8	1.5	19.2	1.5	4.6	2.3
小学校就学前 (n=41)	2.4	39.0	0.0	19.5	4.9	22.0	2.4	7.3	2.4
小学校就学後 (n=88)	8.0	61.4	0.0	6.8	0.0	18.2	1.1	3.4	1.1

6 保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 29 調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

- 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う（10.0%）」と「どちらかといえば住みやすいと思う（66.2%）」を合わせた『住みやすい』の割合は76.2%、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（16.2%）」と「住みやすいと思わない（6.2%）」を合わせた『住みやすいと思わない』が22.4%である。

図表_障害児の保護者／調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか（全体）



【回答者属性分析】

- 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかの割合を就学区別に見ると、小学校就学前、小学校就学後とも、「どちらかといえば、住みやすいと思う」が最も多くなっている。
- 小学校就学前、小学校就学後とも、『住みやすい』が7割台となっている。

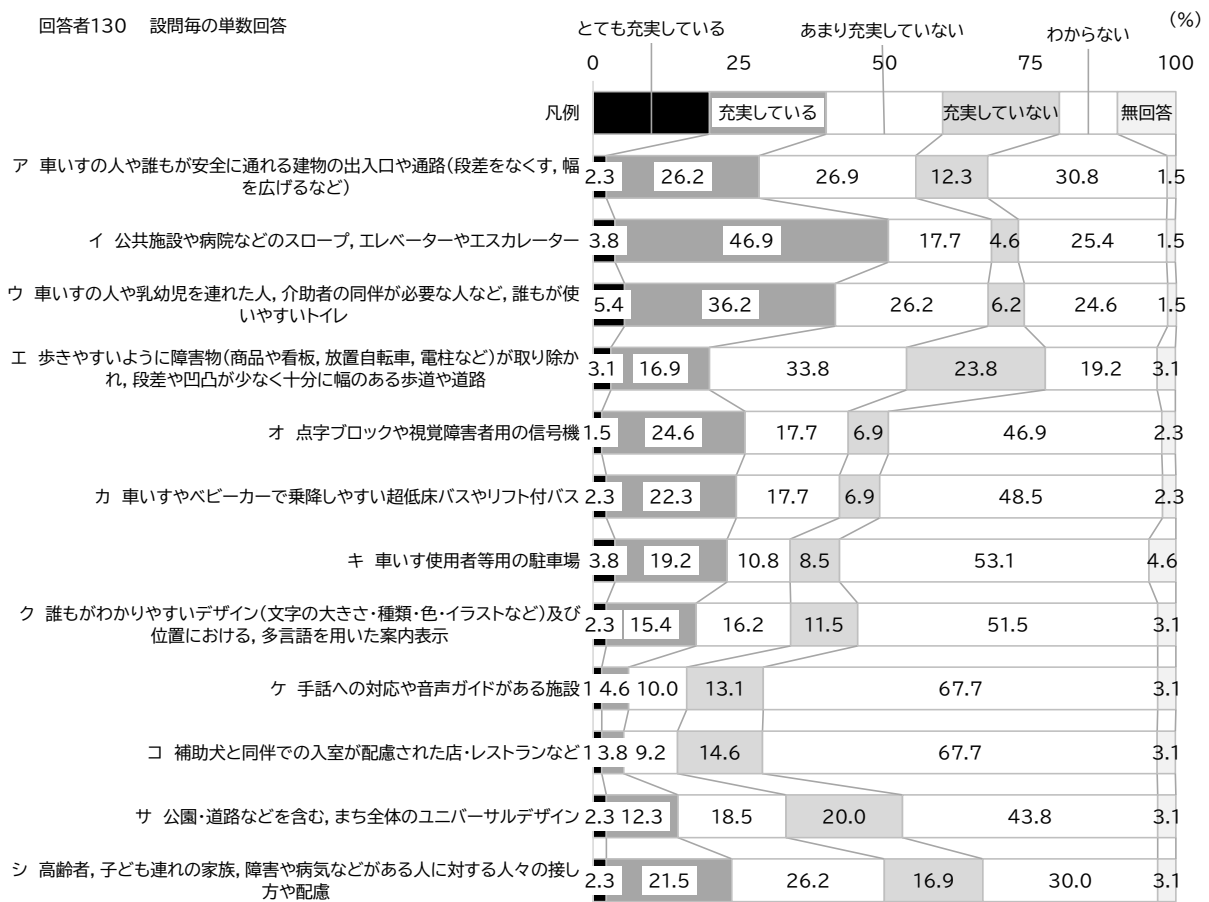
図表_障害児の保護者／調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか（就学区別別）

	住みやすいと思う	どちらかといえば、住みやすいと思う	どちらかといえば、住みやすいと思わない	住みやすいと思わない	無回答	『住みやすい』	『住みやすいと思わない』
全体 (N=130)	10.0	66.2	16.2	6.2	1.5	76.2	22.4
小学校就学前 (n=41)	9.8	63.4	19.5	7.3	0.0	73.2	26.8
小学校就学後 (n=88)	10.2	68.2	14.8	5.7	1.1	78.4	20.5

問 30 市内のバリアフリーについて、どのように感じていますか。（それぞれ1つに○）

- 市内のバリアフリー化の評価について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、「公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（50.7%）」が最も多く、「車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（41.6%）」、「車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（28.5%）」が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、「歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路（57.6%）」が最も多く、「高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（43.1%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／市内のバリアフリー化の評価（全体）



【回答者属性分析】

- 市内のバリアフリー化の『充実している』の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター」が最も多くなっている。
- 小学校就学前で「車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ」が5割台となっている。

図表_障害児の保護者／市内のバリアフリー化の評価（就学区分別）

<『充実している』の割合>

	車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）	公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ	歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）を取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路	点字ブロックや視覚障害者用の信号機	車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス	車いす使用者等用の駐車場	誰もがわかりやすいデザイン（文字の大きさ・種類・色・イラストなど）及び位置における、多言語を用いた案内表示	手話への対応や音声ガイドがある施設	補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	公園・道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮
全体（N=130）	28.5	50.7	41.6	20.0	26.1	24.6	23.0	17.7	6.1	5.3	14.6	23.8
小学校就学前（n=41）	34.1	56.1	53.7	22.0	31.7	19.5	22.0	19.5	4.8	7.3	17.0	34.1
小学校就学後（n=88）	26.2	48.9	36.4	19.3	23.8	27.2	23.9	17.1	6.8	4.5	13.7	19.3

- 一方、『充実していない』の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／市内のバリアフリー化の評価（就学区分別）

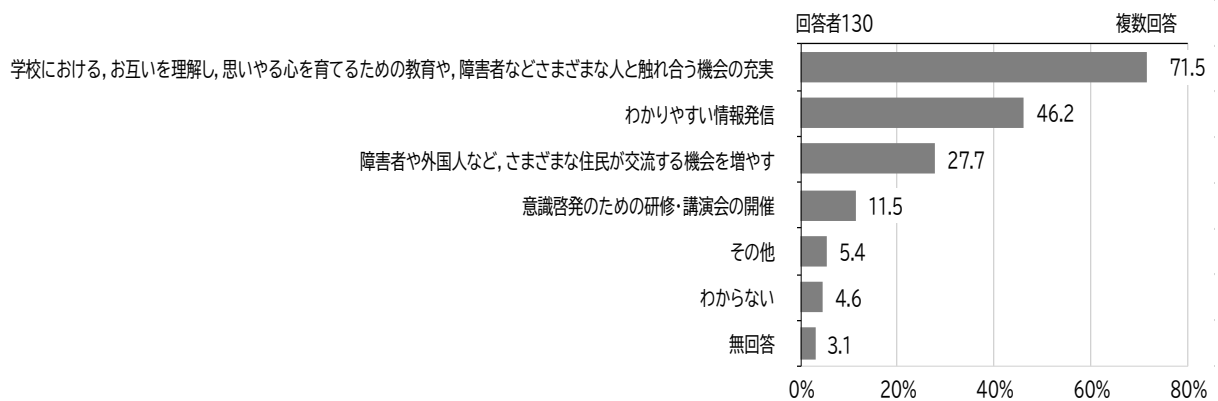
<『充実していない』の割合>

	車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）	公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター	車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ	歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路	点字ブロックや視覚障害者用の信号機	車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス	車いす使用者等用の駐車場	誰もがわかりやすいデザイン（文字の大きさ・種類・色・イラストなど）及び位置における、多言語を用いた案内表示	手話への対応や音声ガイドがある施設	補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	公園・道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮
全体（N=130）	39.2	22.3	32.4	57.6	24.6	24.6	19.3	27.7	23.1	23.8	38.5	43.1
小学校就学前（n=41）	34.2	17.1	24.4	58.5	14.7	29.3	7.3	17.1	14.6	12.2	34.2	21.9
小学校就学後（n=88）	42.0	25.0	36.3	58.0	29.6	22.7	25.0	33.0	27.2	29.5	40.9	53.4

問 31 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーのための取組は、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（71.5%）」が最も多く、「わかりやすい情報発信（46.2%）」、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす（27.7%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／心のバリアフリーのための取組（全体）



【回答者属性分析】

- 心のバリアフリーのための取組の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が最も多くなっている。

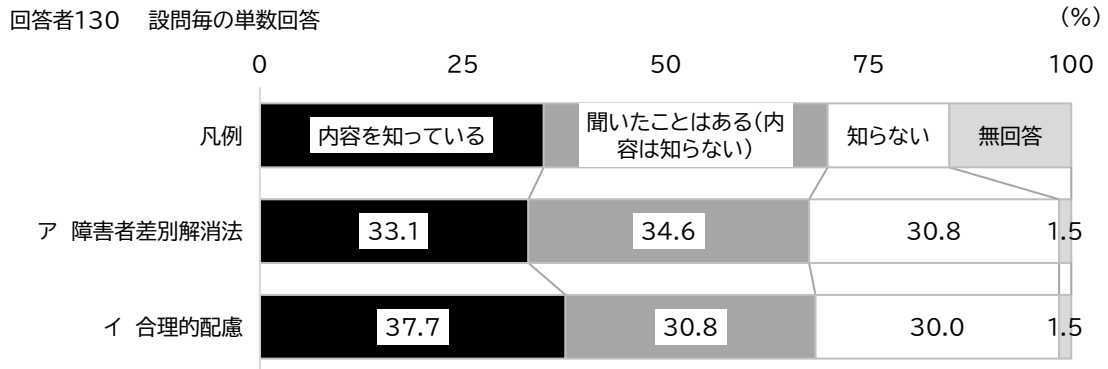
図表_障害児の保護者／心のバリアフリーのための取組（就学区分別：複数回答（2つまで））

	学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実	意識啓発のための研修・講演会の開催	障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす	わかりやすい情報発信	その他	わからない	無回答
全体 (N=130)	71.5	11.5	27.7	46.2	5.4	4.6	3.1
小学校就学前 (n=41)	63.4	4.9	14.6	41.5	9.8	9.8	9.8
小学校就学後 (n=88)	75.0	13.6	34.1	48.9	3.4	2.3	0.0

問 32 あなた（保護者）は、お互いにその人らしさを認め合い、ともに生きる社会をめざす法律や取組をご存知ですか。（それぞれ1つに○）

○ お互いにその人らしさを認め合い、ともに生きる社会をめざす法律や取組について、「内容を知っている」の割合は、「障害者差別解消法（33.1%）」、「合理的配慮（37.7%）」である。

図表_障害児の保護者／ともに生きる社会をめざす法律や取組の認知度（全体）



【回答者属性分析】

ア 障害者差別解消法

○ 障害者差別解消法の割合を就学区分別にみると、小学校就学前は「知らない(43.9%)」、小学校就学後は「内容を知っている(38.6%)」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／障害者差別解消法の認知度（就学区分別）

	内容を知っている	聞いたことはある (内容は知らない)	知らない	無回答
全体 (N=130)	33.1	34.6	30.8	1.5
小学校就学前 (n=41)	22.0	29.3	43.9	4.9
小学校就学後 (n=88)	38.6	37.5	23.9	0.0

イ 合理的配慮

【回答者属性分析】

- 合理的配慮の割合を就学区分別にみると、小学校就学前は「知らない（41.5%）」、小学校就学後は「内容を知っている（43.2%）」が最も多くなっている。

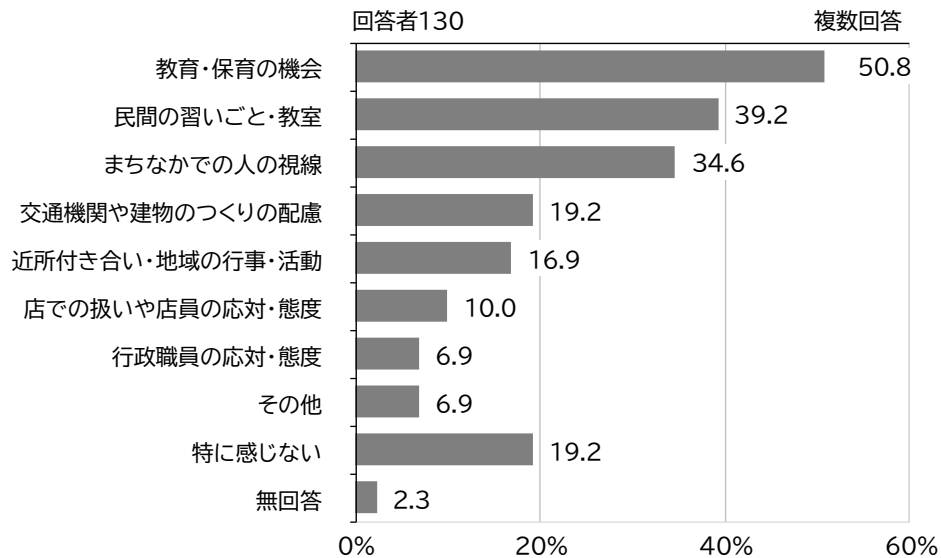
図表_障害児の保護者／合理的配慮の認知度（就学区分別）

	内容を知っている	聞いたことはある (内容は知らない)	知らない	無回答
全体 (N=130)	37.7	30.8	30.0	1.5
小学校就学前 (n=41)	26.8	26.8	41.5	4.9
小学校就学後 (n=88)	43.2	33.0	23.9	0.0

問 33 あなた（保護者）は、お子さんが生活する中で、障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じることはありませんか。（いくつでも○）

- お子さんの障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面は、「教育・保育の機会（50.8%）」が最も多く、「民間の習いごと・教室（39.2%）」、「まちなかでの人の視線（34.6%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／お子さんの障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面（全体）



【回答者属性分析】

- お子さんの障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「教育・保育の機会」が最も多くなっている。
- 小学校就学後で「民間の習いごと・教室」が4割台となっている。

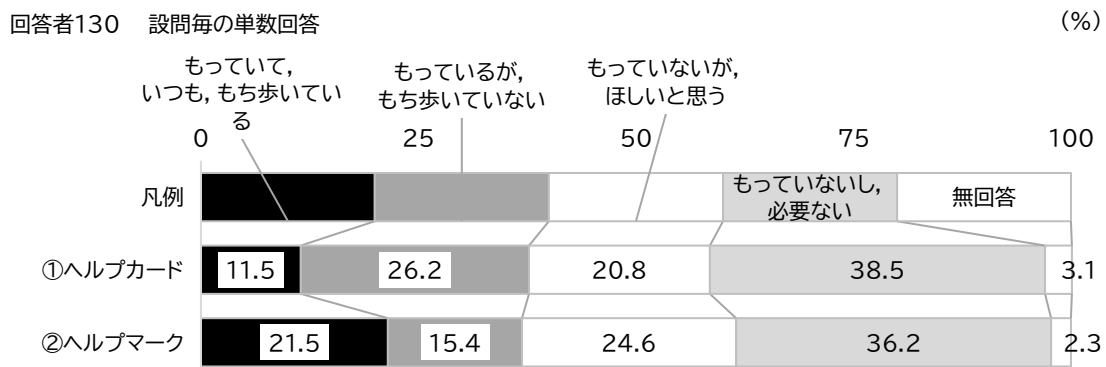
図表_障害児の保護者／お子さんの障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面（就学区分別：複数回答）

	教育・保育の機会	近所付き合い・地域の行事・活動	民間の習いごと・教室	店での扱いや店員の対応・態度	まちなかでの人の視線	交通機関や建物のつくりの配慮	行政職員の対応・態度	その他	特に感じない	無回答
全体 (N=130)	50.8	16.9	39.2	10.0	34.6	19.2	6.9	6.9	19.2	2.3
小学校就学前 (n=41)	41.5	14.6	22.0	7.3	36.6	22.0	2.4	2.4	24.4	4.9
小学校就学後 (n=88)	54.5	18.2	47.7	11.4	34.1	18.2	9.1	9.1	17.0	1.1

問 34 お子さんは、調布市が配布しているヘルプカード※、ヘルプマーク※をもっていますか。（それぞれ1つに○）

- ヘルプカードの所持について、「もっていないし、必要ない（38.5%）」が最も多く、「もっているが、もち歩いていない（26.2%）」が続いている。
- ヘルプマークの所持について、「もっていないし、必要ない（36.2%）」が最も多く、「もっていないが、ほしいと思う（24.6%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／ヘルプカード・ヘルプマークの所持について（全体）



【回答者属性分析】

- ① ヘルプカード
 - ヘルプカードの所持の割合を就学区分別にみると、小学校就学前は「もっていないし、必要ない」、小学校就学後は「もっているが、もち歩いていない」と「もっていないし、必要ない」が最も多くなっている。
 - 「もっていないが、ほしいと思う」は小学校就学前で3割台、小学校就学後は1割台となっている。

図表_障害児の保護者／ヘルプカードの所持について（就学区分別）

	もっているが、いつも、もち歩いている	もっているが、もち歩いていない	もっていないが、ほしいと思う	もっていないし、必要ない	無回答
全体 (N=130)	11.5	26.2	20.8	38.5	3.1
小学校就学前 (n=41)	4.9	9.8	31.7	46.3	7.3
小学校就学後 (n=88)	14.8	34.1	15.9	34.1	1.1

② ヘルプマーク

- ヘルプマークの所持の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「もっていないし、必要ない」が最も多くなっている。
- 「もっていないが、ほしいと思う」は小学校就学前で約 4 割、小学校就学後は 1 割台となっている。

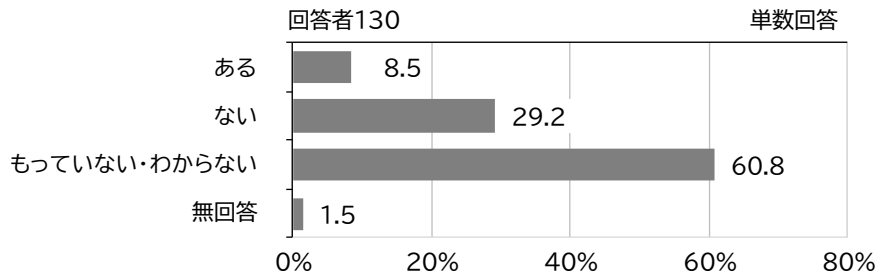
図表 障害児の保護者／ヘルプマークの所持について（就学区分別）

	もっていないし、必要ない	もっているが、ほしいと思う	もっているが、必要ない	もっていないが、ほしいと思う	もっていないし、必要ない	無回答
全体 (N=130)	36.2	24.6	15.4	21.5	2.3	
小学校就学前 (n=41)	39.0	39.0	12.2	7.3	2.4	
小学校就学後 (n=88)	34.1	18.2	17.0	28.4	2.3	

問 35 お子さんは、ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークの効果の実感は、「もっていない・わからない(60.8%)」が最も多く、「ない(29.2%)」が続いている。

図表_障害児の保護者/ヘルプカードやヘルプマークの効果(全体)



【回答者属性分析】

- ヘルプカードやヘルプマークの効果の実感の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「もっていない・わからない」が最も多くなっている。
- 「もっていない・わからない」を除くと、小学校就学前、小学校就学後とも、「ない」が多くなっている。

図表_障害児の保護者/ヘルプカードやヘルプマークの効果の実感(就学区分別)

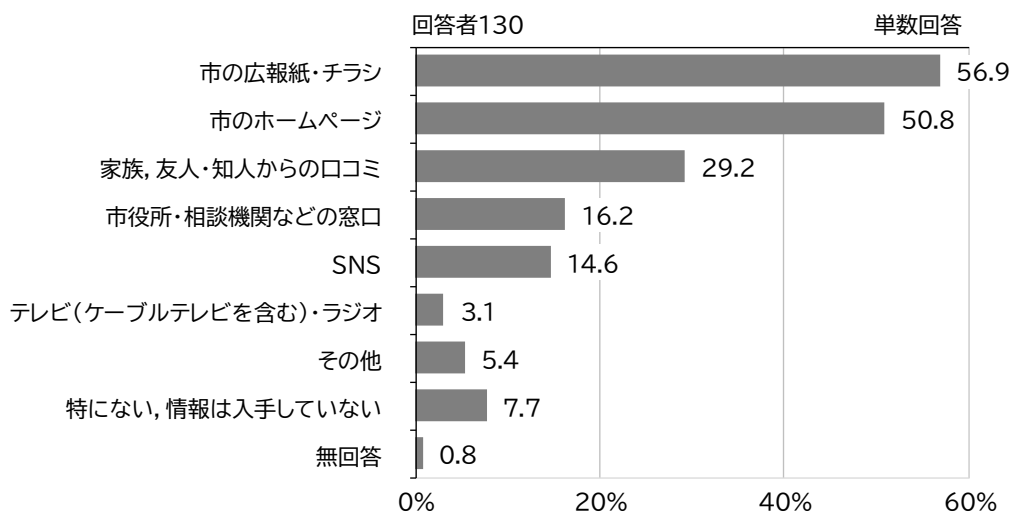
	ある	ない	もっていない ・わからない	無回答
全体 (N=130)	8.5	29.2	60.8	1.5
小学校就学前 (n=41)	2.4	17.1	75.6	4.9
小学校就学後 (n=88)	11.4	35.2	53.4	0.0

7 保護者の方に、デジタルの活用についておたずねします

問 36 あなた（保護者）は、調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は、「市の広報紙・チラシ（56.9%）」が最も多く、「市のホームページ（50.8%）」、「家族、友人・知人からの口コミ（29.2%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先（全体）



【回答者属性分析】

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先の割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「市の広報紙・チラシ」が最も多くなっている。

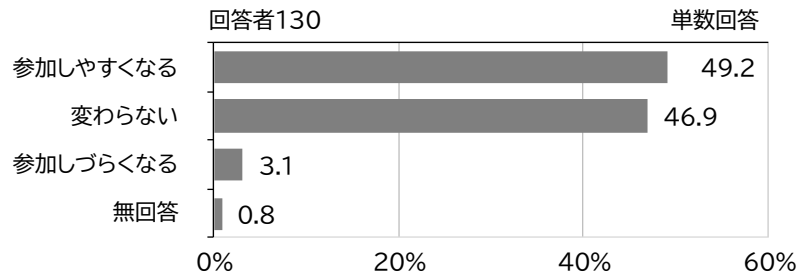
図表_障害児の保護者／市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先（就学区分別：複数回答）

	市のホームページ	市の広報紙・チラシ	市役所・相談機関などの窓口	テレビ(ケーブルテレビを含む)・ラジオ	家族、友人・知人からの口コミ	SNS	その他	特にない、情報は入手していない	無回答
全体 (N=130)	50.8	56.9	16.2	3.1	29.2	14.6	5.4	7.7	0.8
小学校就学前 (n=41)	43.9	46.3	17.1	0.0	24.4	12.2	2.4	9.8	2.4
小学校就学後 (n=88)	54.5	62.5	15.9	4.5	31.8	15.9	5.7	6.8	0.0

問 37 お子さんやあなた（保護者）は、市や社会福祉協議会の講座やイベントがオンラインで開催されたら、参加しやすくなりますか。（1つに○）

- 市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさは、「参加しやすくなる（49.2%）」が最も多く、「変わらない（46.9%）」、「参加しづらくなる（3.1%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさ（全体）



【回答者属性分析】

- 市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさの割合を就学区分別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「参加しやすくなる」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者／市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさ（就学区分別）

	参加しやすくなる	変わらない	参加しづらくなる	無回答
全体（N=130）	49.2	46.9	3.1	0.8
小学校就学前（n=41）	46.3	43.9	7.3	2.4
小学校就学後（n=88）	50.0	48.9	1.1	0.0

問 38 お子さんやあなた（保護者）がスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。
（自由記述）

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアについてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、22 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

図表_障害児の保護者/スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと（自由意見）

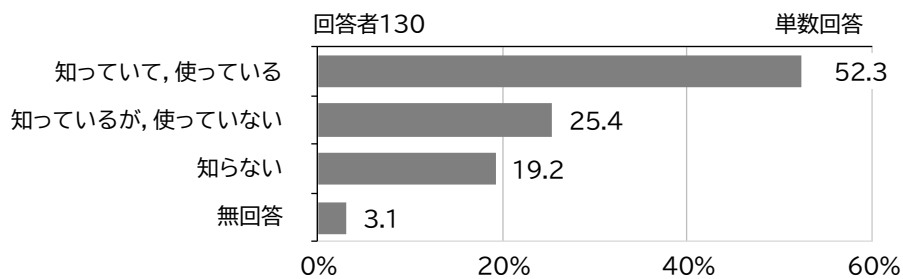
項目	主な意見	意見数
情報端末やパソコンの普及について	パソコン講習会について 情報弱者への対応 障害者同士の交流の推進	4
市の電子化について	市の申請などの電子化の推進 市の情報提供の充実 市のイベント、講演などのオンライン開催 防災情報の充実	16
その他	同じ病気のコミュニティの構築 電子化への要望	2
	合計	22

8 保護者の方に、調布市の障害者福祉施策についておたずねします

問 39 あなた（保護者）は、調布市が個別配布している「i（あい）-ファイル」※をご存知ですか。（1つに○）

- i-ファイルの認知度は、「知っている、使っている（52.3%）」と「知っているが、使っていない（25.4%）」を合わせた『知っている』の割合は、77.7%である。
- 一方、「知らない」は19.2%である。

図表_障害児の保護者/i-ファイルの認知度（全体）



【回答者属性分析】

- i-ファイルの認知度の割合を就学区別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「知っている、使っている」が最も多くなっている。

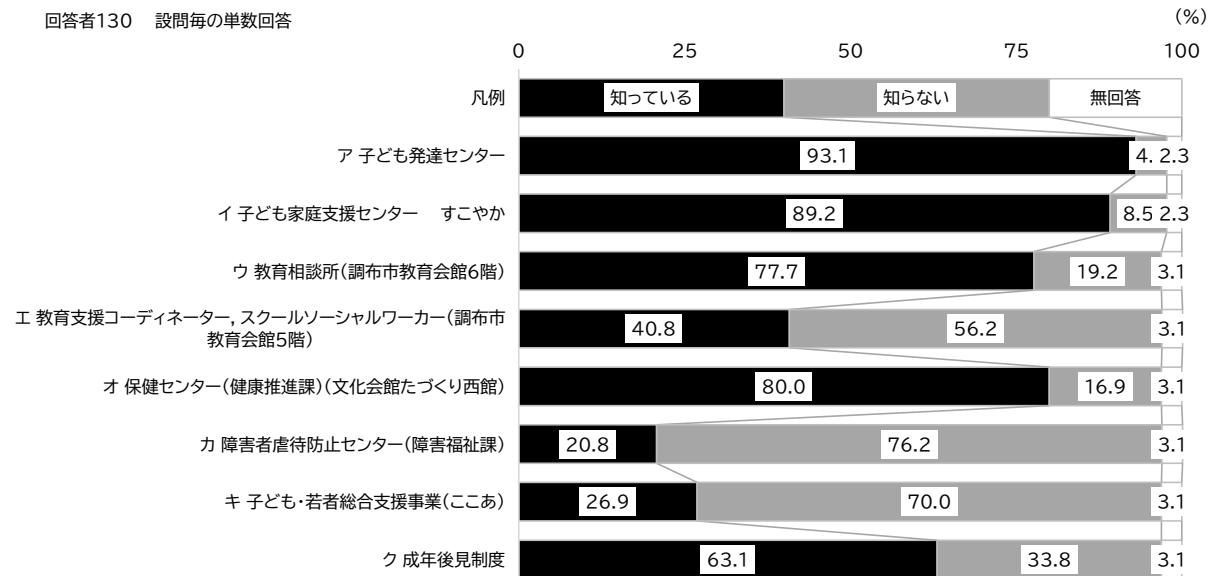
図表_障害児の保護者/i-ファイルの認知度（就学区別別）

	知っている、 使っている	知っているが、 使っていない	知らない	無回答
全体（N=130）	52.3	25.4	19.2	3.1
小学校就学前 （n=41）	53.7	19.5	19.5	7.3
小学校就学後 （n=88）	52.3	28.4	18.2	1.1

問 40 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。（それぞれ1つに○）

○ 市の相談窓口の認知認知度について、「知っている」の割合、「子ども発達センター（93.1%）」が最も多く、「子ども家庭支援センター すこやか（89.2%）」、「保健センター（健康推進課）（文化会館たづくり西館）（80.0%）」が続いている。

図表_障害児の保護者/調布市の相談窓口の認知状況（全体）



【回答者属性分析】

○ 市の相談窓口の認知認知度について、「知っている」の割合を就学区別にみると、小学校就学前、小学校就学後とも、「子ども発達センター」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者/調布市の相談窓口の認知状況（就学区別）

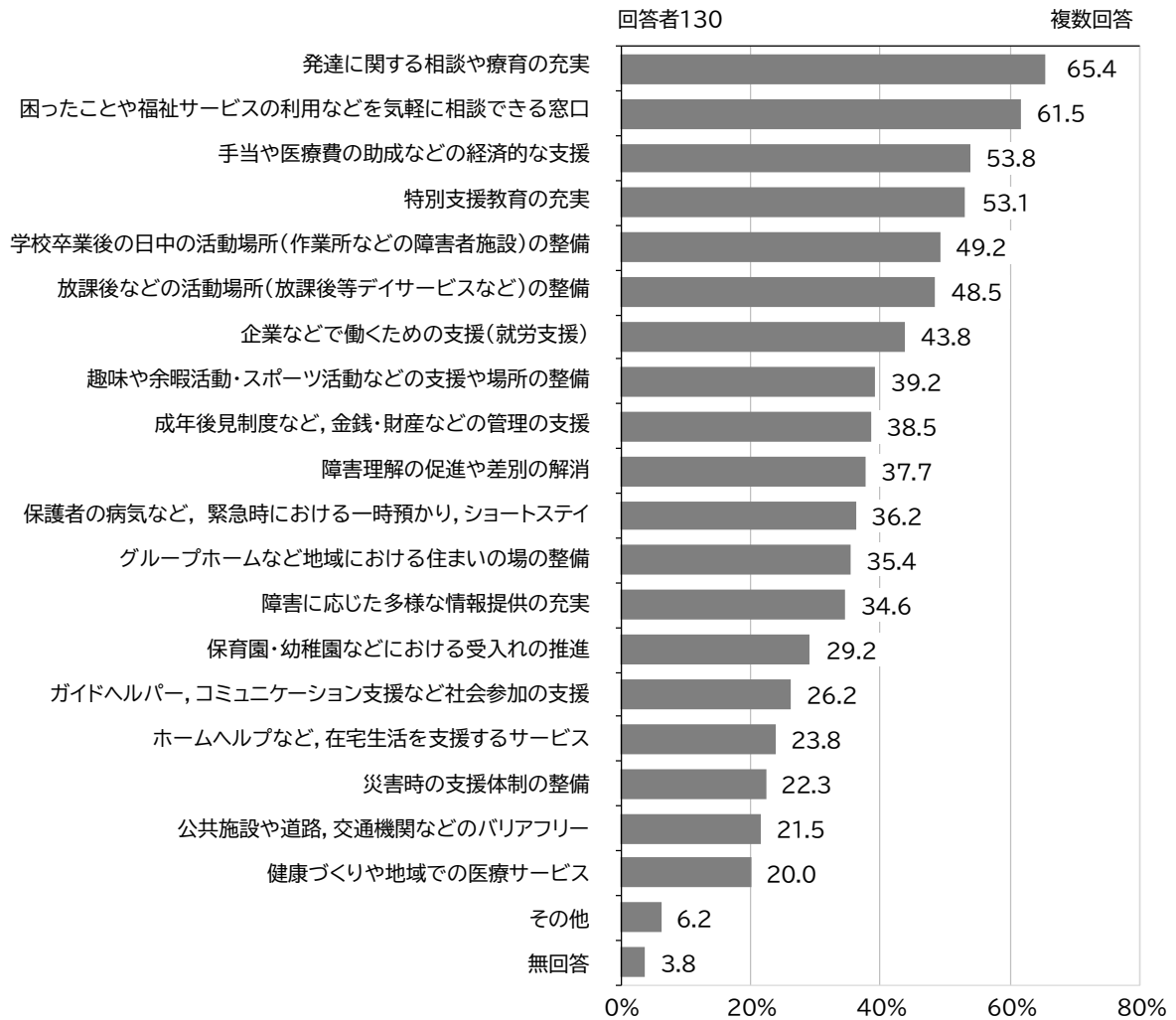
<「知っている」の割合>

	子ども発達センター	子ども家庭支援センター すこやか	教育相談所 (調布市教育会館6階)	教育支援コーディネーター, スクールソーシャルワーカー (調布市教育会館5階)	保健センター (健康推進課) (文化会館たづくり西館)	障害者虐待防止センター (障害福祉課)	子ども・若者総合支援事業 (ここあ)	成年後見制度
全体 (N=130)	93.1	89.2	77.7	40.8	80.0	20.8	26.9	63.1
小学校就学前 (n=41)	92.7	82.9	56.1	12.2	75.6	17.1	4.9	51.2
小学校就学後 (n=88)	93.2	92.0	88.6	54.5	81.8	22.7	36.4	68.2

問 41 調布市の障害児福祉施策（サービス）をより充実していくために、あなた（保護者）が特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は発達に関する相談や療育の充実（65.4%）」が最も多く、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（61.5%）」、「手当や医療費の助成などの経済的な支援（53.8%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組（全体）



【回答者属性分析】

- 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組の割合を就学区分別にみると、小学校就学前は「発達に関する相談や療育の充実」，小学校就学後は「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」が最も多くなっている。
- 小学校就学前で「特別支援教育の充実」が6割台となっている。

図表_障害児の保護者／市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組（就学区分別：複数回答）

	困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	手当や医療費の助成などの経済的な支援	成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	ガイドヘルパー，コミュニケーション支援など社会参加の支援	保護者の病气など，緊急時における一時預かり，ショートステイ	発達に関する相談や療育の充実	保育園・幼稚園などにおける受入れの推進	特別支援教育の充実	放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備
全体（N=130）	61.5	20.0	53.8	38.5	23.8	26.2	36.2	65.4	29.2	53.1	48.5
小学校就学前（n=41）	51.2	14.6	48.8	29.3	19.5	12.2	26.8	78.0	41.5	65.9	51.2
小学校就学後（n=88）	65.9	22.7	55.7	43.2	25.0	31.8	39.8	59.1	23.9	46.6	46.6

	学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備	企業などで働くための支援（就労支援）	趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備	グループホームなど地域における住まいの場の整備	障害理解の促進や差別の解消	公共施設や道路，交通機関などのバリアフリー	障害に応じた多様な情報提供の充実	災害時の支援体制の整備	その他	無回答
全体（N=130）	49.2	43.8	39.2	35.4	37.7	21.5	34.6	22.3	6.2	3.8
小学校就学前（n=41）	39.0	36.6	31.7	26.8	36.6	26.8	26.8	17.1	9.8	9.8
小学校就学後（n=88）	53.4	46.6	43.2	39.8	38.6	18.2	37.5	25.0	4.5	1.1

問 42 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

- 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、74 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

図表_障害児の保護者／自由意見

項目	主な意見	意見数
ア 地域活動，市民 同士の支え合い	障害についての教育の充実 障害者への理解の推進 自治会活動の活性化 障害者の保護者の交流	18
イ 相談，サービス	市のサービスについて 相談体制の充実 子育てサービス充実	17
ウ 安全・安心	交通安全 防犯の強化 公園，遊び場の整備	17
エ 上記以外	障害に応じた対応 障害者の保護者への支援 子育て支援の充実 共生社会の推進	22
	合計	74